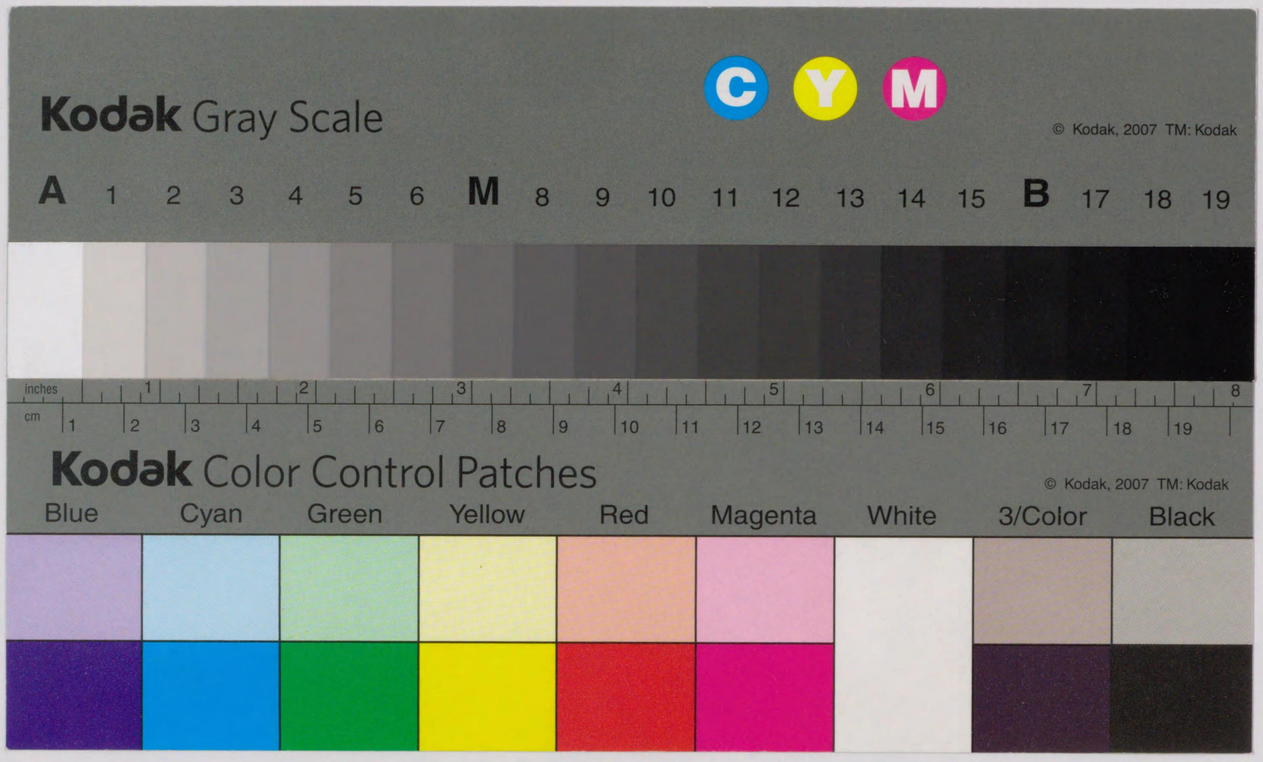


576
64

576-64
12005015200029

1144

大大阪畫報

576-64

序

我が國第一の經濟都市であり物質文明の淵叢であるところの我が大阪市近來の發達は實に驚くべく、然かもこの高速度の進展が我が國經濟界の消長を支配せること正に之れを東洋のマンチエスターと看るべきであつて、その明治大正の過去より昭和の現在に及ぼし來つた興隆の經路、その現狀、乃至は其將來に向つて如何に進出せんとしつゝあるか等に就いて之れを詳かにし、これを世上に紹介することは蓋し我が國經濟界の隆運を促進する上に於いて誠に時宜適切の擧であると信ずる。

この意味に於いて私は森岡市藏氏の編になる本書「大大阪書報」の出版を賛し、且つ之れを世上に推奨する次第である。

昭和三年五月

武藤山治

序

大大阪畫報成る。

端的平易に大大阪の現狀を識らんと欲する者にとりて好箇の指針たるのみならず、後代の大阪研究者に對して貴重なる史料を貽すものといふべし。本書が記述を從として寫眞を主としたる用意亦一の工夫を看る。茲に欣んで序す。

昭和三年五月

高原操

序

一國の興廢が都市發達の消長によつて決することはこと新らしくこゝに述べるまでもない。近代國家の中樞をなすものは都市でなければならぬ。其意味から聲望實力ともに帝都をも凌がんとする經濟都市大大阪の實現は邦家のために慶祝禁ぜざるものである、明治大正の年代に培養、釀成された大阪市が昭和の新政に入つていよ〳〵其精華を發揚し我國文化史の上に經濟史の上に燦然たる光輝を放つに至つたことは國運の隆昌と時勢の進展に負ふところもとより尠からずと雖も、又數百年間大阪市民の脈管に傳統せる自治精神の發露にまつところ多きは論を俟たぬ、これ古今を通じて都市の發達が市民の有する愛市觀念の厚薄に比例するがためである。このときに際し森岡市藏君によつて『大大阪畫報』刊行の擧あり、即ちその目的とするところは高潮せる大大阪の文化的濟經的發達を記錄に止め、一はもつて先人の苦心經營のあとを追憶し次代市民をして將來の發展に備へしめ、一はもつて大大阪の現勢を滿天下に紹介し市の經濟的發展に資せしめんとするにある。

昭和初期に於ける大大阪を記念する刊行物として本書が極めて時機に適せるものなるを信じ、即ち卷頭に一言を序して推奨する所以である。

昭和三年五月

高石眞五郎

自序

文化は都市を搖藍として生む

我大大阪は都會の王者であり世界に誇り得る絢爛たる文化の發祥地である。

その昔一商工都市として考へられて居た我大阪は既に今日に於ては舊套を脫し殷盛なる產業の王國文化の殿堂たり都市機關の發達も亦完全に其域に達し名實共に大大阪たるの實を擧げ日本に於ては勿論世界的にも押しも押されもせぬ大都市を建設した。

日本の產業に文化に現代のあらゆる文明的機關は大大阪を背景の外にして考へられなくなつた。

實業家も爲政者もはたまた宗教家教育家も大大阪を知らずして自己の抱負も思想も如何なる事業も理論も成立たないまでに大阪は日本の重要なる都市である、この意に於て新興日本の文化を象徵する大大阪を觀察することは日本を鄕土に持つ總ての人々にとつてのみならず眞に現代の日本を諒解せんとする人々に必要缺くべからざることである。

斯く考へ來る時我大阪は日本に於ける經濟の大動脈であり思想の中樞たることに於て正しき觀察を得る爲に適當なる指針の必要を痛感させられるのである、座しながら如實に大大阪を髣髴し、そこに華やかなる近代文化の光輝に呼吸することの切なる趣意より して、此度我大阪の脈薄を綴りたる大大阪書報を諸彦の前に提する所以にして、是により大大阪のアウトラインのみならず、凡ゆる文明的事物と而して富を生む大都市の躍動に接せられん事を希望する次第である。

昭和參年五月

森岡市藏

大大阪畫報目次

官衛・公署　附造營物

大阪城・師團司令部　一
大阪府廳　三
大阪市廳　五
消防署・造幣局　七
裁判所・警察署　八
大阪商工會議所　九
實業會館・能率研究所　一一
電信局・公會堂　一二
圖書館　一四
商品陳列所　二二
武德殿・四天王寺　二三
天王寺公園　二四
博物館・動物園　二五
中之島公園　二八
上本町公園・苗圃　三二
道路・橋梁　三四
枝川導水工事（ダム）　四一
工業研究所　四五
上水道・下水道　五〇

社會事業

市社會部　五九
弘濟會　七一

交通運輸

大阪鐵道管理局・大阪驛　一一六
大阪市電氣局　一一八
大軌沿線　一三二
阪急電車沿線　一四三
京阪電車沿線　一六〇
南海電車沿線　一六八
阪神電車沿線　一七一
新京阪電車沿線　一八〇
大阪鐵道沿線　一八八
信貴生駒電車沿線　一九五
大阪ホテル　二〇七
放送局　一八
鮮滿案內所　二一〇
大阪小形タクシー　二一二
安全索道　一一四
大阪商船　二二四
攝陽商船　二三五
大阪合同運送　二四一
日本郵船　二四四
住友倉庫　二六〇
日本航空・木津川飛行場　二六八
港町運送　二七〇
大タク　四九八

ビルディング

住友ビルディング　二七五
ゴーショービルディング　二七六
大阪ビルディング　二七四
京町堀ビルディング　二八四
江戸橋ビルディング　二七八
船場ビルディング　二八一
神田ビルディング　二七九
大軌ビルディング　二八七
堂ビル　二八〇
梅ヶ枝ビルディング　二八八
清水組　二一一
大林組　二八五
錢高組　二八九

教化的機關

大阪醫科大學　二九〇
關西大學　二九二
商科大學　二九三
高等工業　二九四
大阪府女專　二九六
齒科醫專　二九七
扇町商業學校　三〇〇
都島工業學校　三〇二
天王寺商業學校　三〇四
市岡高等女學校　三〇六
帝塚山學院　三〇八
樟蔭女專・樟蔭高女　三一一
金蘭會高女　三二〇
相愛高女　九八六
濟美小學校　三二三
集英小學校　三二六
勤勞學校　三三四
青年訓練所　三三一
親鸞主義　三四〇
青年會館　三四六

百貨店

白木屋　四五五
大丸　四五〇
三越　四四〇
高島屋　四三九
石川吳服店　四六六
十合吳服店　四七四
三笠屋　四七二

著名諸會社・大商店

日本電力　三六五
大同電力　三七〇
宇治川電氣　三七二
日本自動車　三七六
梁瀨自動車　三七八
セール商會　三八二
大阪住宅土地會社　三八八
服部時計店　三八九

三木本店 三九〇
錫半 三九二
桑田電氣 三九四
稻西合名會社 三九七
丸紅 三九九
山田合名會社 四〇〇
日本電氣 四〇一
千代田組 四〇二
蝶矢シャツ 四〇四
三菱倉庫ビル 四〇六
本城眞玄商店 四〇八
日本タイプライター 四一〇
三木樂器店 四一一
中山太陽堂 四一六
日本樂器 四一七
灘萬 四一八
明治屋 四二一
三井物産 四二二
黒崎電機 四二五
稻畑商店 四二八
丸石商店 四三〇
大東貿易 四三一
若宮商店 四三二
三共株式會社 四三四
濱津アスベスト 四四一
梶彦眼鏡店 四四二
西田金庫 四四四
東洋製綱 四四五
名物大黒栗おこし 四四六
島員 四四九
大關 四五〇
桃谷順天館 四五二
澤の鶴 四五四
橫山商店 四六〇
山本藤助商店 四六一
甲陽土地 四六六
大阪電氣商會 四七三
藤田組 四八九

取引所・市場

大阪株式取引所 四九〇
大阪屋 四九二
大阪商事 四九五
竹原商店 四九七
濱崎商店 五〇一
芝大商店 五〇四
黒川商店 五〇五
靜口商店 五〇六
坂ヶ谷商店 五〇八
加島商店 五一〇
富和株式店 五一四
高木商店 五一六
三品取引所 五一八
砂糖取引所 五二〇
天滿市場 五二二

銀行・金融・信託會社

野村證券 五五八
關西信託 五六〇
安田信託 五六八
共同信託 五七〇
加島信託 五七二
大正信託 五七四
日本銀行 五七五
勸業銀行 五七七
台灣銀行 五八〇
興業銀行 五八二
鴻池銀行 五八三
三十四銀行 五八四
野村銀行 五八五
山口銀行 五八六
加島銀行 五八七
藤田銀行 五八八
住友銀行 五八九
第一銀行 五九〇
日本信託銀行 五九一
川崎第百銀行 五九三
古河銀行 五九四
藤本ビルブローカー銀行 五九五
日本相互貯蓄 五九七
大阪貯蓄 六〇一
不動貯金 六〇四
東京貯藏 六〇六
攝津貯蓄 六〇八
日本產業貯蓄 六一〇
產業信用組合 六一八
上田商店 六二〇

保險會社

東京海上 六二二
大平火災 六二四
東洋生命 六二五
第一火災 六二八
愛國生命 六三一
壽生命 六三四
日清生命 六三六
千代田生命 六三八
仁壽生命 六四〇
共濟生命 六四二
福壽生命 六四四
橫濱生命 六四六
日本警師共濟 六四八
日本教育生命 六四九
大正生命 六五一

新聞・通信社・政黨

帝國興信所 六五四
實業同志會 六五六
工業新聞社 六五八
茨年社 六六〇
日東文化研究所 六六二
大阪每日 六六四
大阪朝日 六六六

衛生的施設 附醫療器・製藥

大學病院 六六八
高洲病院 六六九
櫻根病院 六七〇
有澤眼科病院 六七一
北野病院 六七三
高安病院 六七五
井上病院 六七六
緒方婦人科病院 六七七
緒方病院 六七八
華陽堂病院 六七九
住田病院 六八〇
淺井病院 六八一
加藤醫院 六八二
加藤病院 六八四
華中堂病院 六八六
石丸醫院 六八八
有馬研究所 六九〇
安原病院 六九二
土肥婦人科病院 六九四
小玉病院 六九六
高視醫院 六九八
市岡難波病院 七〇〇
齊藤內科 七〇一
大阪回生病院 七〇三
足立婦人科病院 七〇四
濱地病院 七〇六
大阪扁桃線病院 七〇八
梅田病院 七一〇
高橋眼科病院 七一四
志馬病院 七一八
稻葉醫院 七二〇
大阪肛門病院 七二二
白井松器械舖 七二四
武田長兵衛商店 七二五
鹽野義商店 七三〇
丹平商會 七三一
岡崎牧場 七三二

庭園・邸宅・趣味

大阪實友社 七三三
石川邸 七三六
山本邸 七三七
藤田邸 七三八

料亭・演藝

大阪名物大和屋 七四〇
松竹合名社 七四二
吉田奈良丸 七四四
花屋敷 七四六
帝國キネマ 七四八
つるや 七五二

河合ダンス　八五八

著名大工場

汽車製造會社　二三八
田中車輛工場　一二五
大阪鐵工所　三四五
藤永田造船所　三五一
日本染料會社　五三六
聯合紙器會社　五二二
森永製菓會社　四三五
朝日乾電池　八六八
東洋紡績　八七〇
東洋製鑵　八七二
大日本麥酒　八七四
日本麥酒鑛泉　八七八
日本レーヨン　八八一
大日本紡績　八八二
旭絹織　八八四
福助足袋　八八五
日本エレベーター　八九一
旭硝子會社　八九三
日本橋梁　八九六
大阪電氣分銅　九〇四
不二塗料　九〇六
日本皮革　九〇八
プラント文具會社　五六二
大阪シヤリング　五〇八
大阪電球　九一〇
戸畑鑄物　九一二
カミヤ印刷　七九八
日本アスベスト　九一五
奥田染工會社　五三四
日米板硝子　九一八
マルキパン　四四五
灘萬食料品工場　九一九
丸萬食料品店　九二〇
日東蓄音器　九九五
若林合名會社　四五一

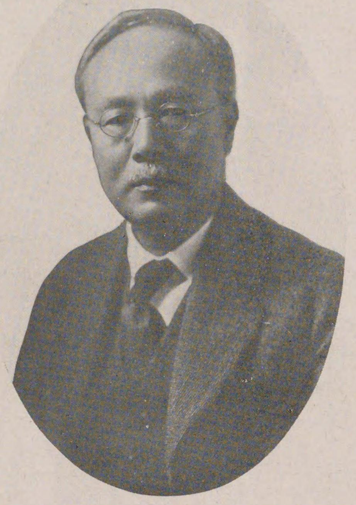
名所・娯樂施設・食堂

築港大潮湯　九二一
白馬ランチ　九二一
市岡パラダイス　九二四
ナショナルカフエー　九四〇
オアシス　九四三
南森軒　九四五
心齊橋食堂　九四六
電氣旅館　九四八
噴泉浴場　九五〇
西明陽軒　九五一
日佛商會　九五六
大阪理髮專修學校　九二五
神本理髮舖　九三〇
堀切理髮舖　九三二
モーラ館　九三四
堂ビル調髮室　九三六
駕友　九五八
天滿宮　九五七
天理教　九五九
住吉神社　九六〇
藤田邸追加　九六〇
生國魂神社　九六一
伊吹堂　九六二
市全景の一部　九六八

追加目次

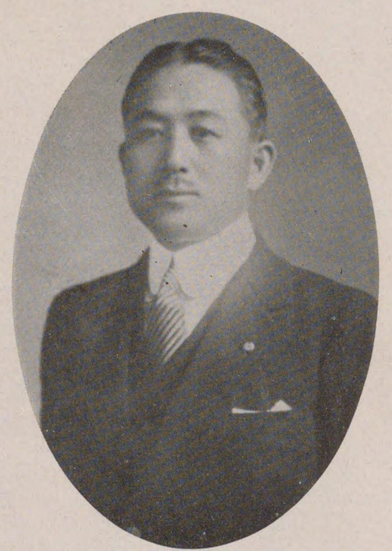
職業紹介所の内部　九六七
中之島公園　九六九
水道吸上喞筒　九七〇
安原病室　九七〇
中村商店　九七一
奈良公園　九七二
亞米利加の旅　九七三
羊の歩み　九七四
恩知のイチゴ狩　九七五
築港棧橋　九七六
タイガー計算器　九七八
ラジオカルク　九八〇
國際美容株式會社　九八一
淺沼商會　九一四
日本正義團　八六五
成田不動　九八七
橿原神宮　九八八
奈良大佛殿　九八九
龍田川紅葉　九九〇
吉野山の櫻　九九一
あやめ池　九九二
佐々木寫眞館　九三八
道頓堀・工場地帶　二六

目次終



實業同志會會長衆議院議員
鐘淵紡績株式會社長社
藤山治氏

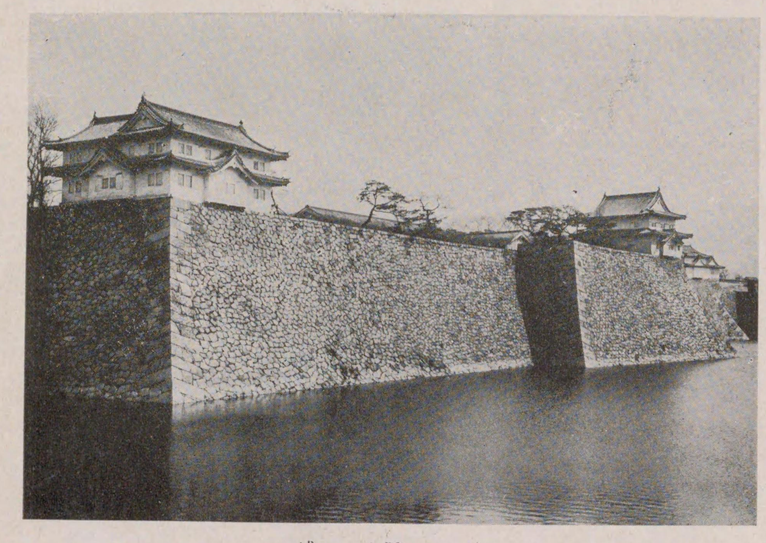
大阪朝日新聞社
編輯局長
高原操氏



大阪毎日新聞社
主幹
高石眞五郎氏

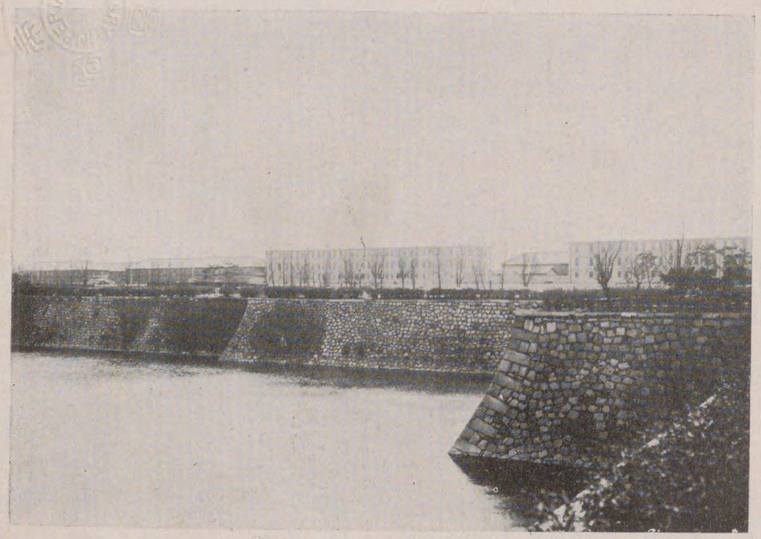
大阪城址沿革

當城の天守臺を中心とせる高地はもと一小山にして今より約一千六百餘年前仁徳天皇の都し給ひし當時の高津の宮の跡なりといへり戰國時代は此の高地を石山と稱し本願寺第八世の蓮如別院を創設し第十世光教之れに方八町の柵壁を備へたり天正八年本願寺第十一世光佐織田信長に反抗せしことありしか正親町天皇の勅命により信長と和し此地を退き之れを信長に讓りたり天正十年信長弑に遭ひ同十一年豊臣秀吉之れを領有するに及び當時進歩せる疊石法により精を盡し巧を極め三ノ丸二ノ丸本丸を劃し難攻不落の堅城となれり其雄偉壯觀蓋し天下第一たり秀吉の薨後家康と不和を生じ慶長の役三ノ丸二ノ丸は先づ被壞せられ元和の役本丸も亦兵火に罹り秀吉當時の舊態を存せざるに至れり元和六年徳川秀忠北國及西國諸候を驅りて財用を致さしめ城地を修築し本丸二ノ丸三ノ丸等を構へ豊臣時代の舊觀に復せり天守矢倉は寛文五年雷火によりて燒け復築かず其他は再度の大修理により壯觀を保ちしが明治元年正月本丸殿舘に火を失し其の餘燼二ノ丸三ノ丸に及びて悉く烏有に歸し以て今日に至れり



大阪城

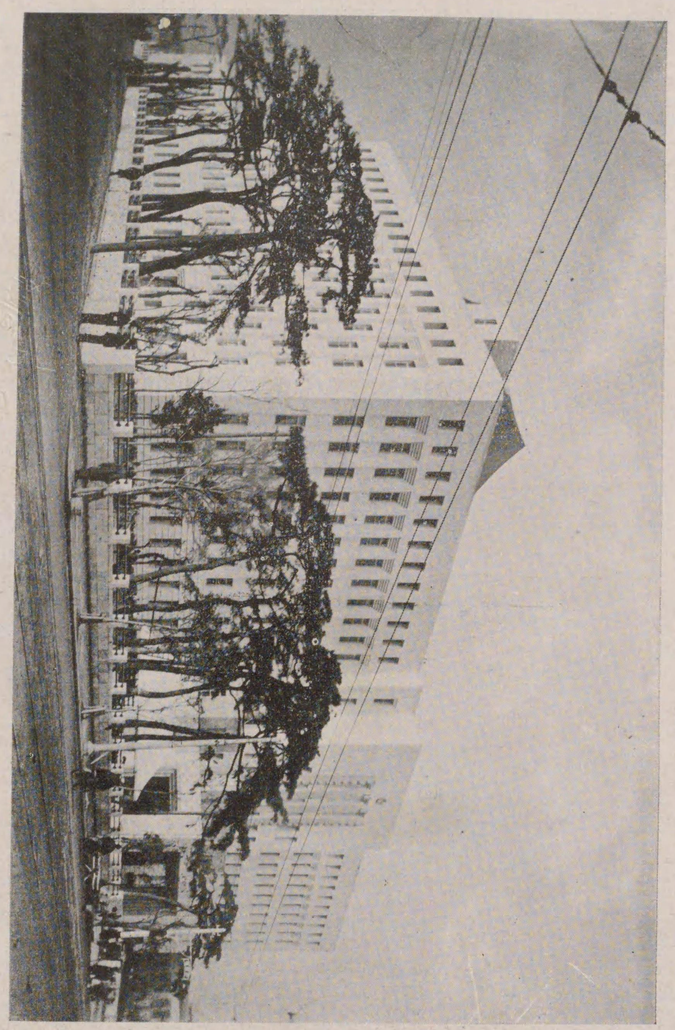
第四師團司令部



大阪陸軍被服支廠

舊大阪廳舍

力石大阪府知事



大阪府廳

位置　東區大手前之町

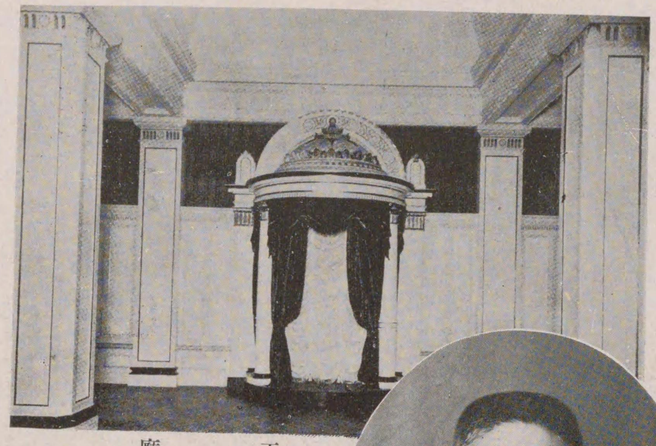
起工　大正十二年五月十二日

竣工　大正十五年十月三十一日

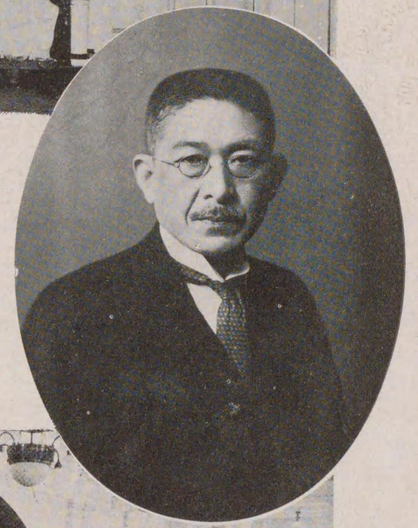
大阪の樞機を握つて、近世自由式の大建築は大阪城に對峙してその雄姿を現す。見るも床しき新時代の文化を誇る。

大大阪の沿革

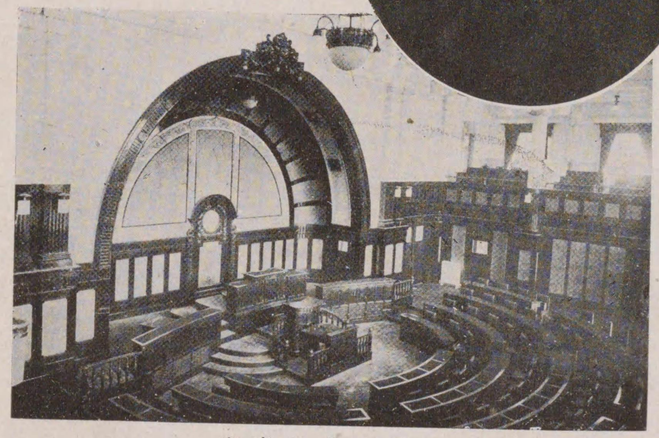
現時の大阪市は總面積六十五平方里に住する人口二百三萬を算し大きさに於て實に世界第五位の大都市を構成す大阪の地は今より貳千五百十年前人皇第一代神武天皇大和御東征の途次御船を寄せ給ひその潮流の急激なるより浪速崎と御命名遊ばされしに始まる爾來御津の濱大江阪等の稱を經豊臣秀吉爰に經營すゝに至り初めて大阪と呼ばれたり蓋し豊公築城自ら丘狀の斜面を爲せし所より起りし名稱なり大阪市が初めて市街の外觀を呈せしは人皇第十六代仁德天皇此の地に郊を奠め道路を開き溝渠を通じ以て土地の繁榮を計り給ひし時に始まるそれより大阪は全國交通の中心商業の都市として重要なる地位を占むるに至りしが今日の殷賑を來す最大原因は云ふまでもなく豊臣秀吉が居城を構へ全國政治の中心地となしたるに起因す其後豊臣氏亡び德川氏の代には幕府直轄の地として城代を置き東西兩奉行所を設け南北天滿の三鄉を分ち以て一種の自治體として益々商工業の發展を圖りたり明治維新以後には大阪府を置き東西南北の四組となせしが明治十一年には組を區と改稱して四區とし明治二十二年に至つて初めて市政を布く其後三十年には郡部を編入しに八百五十七ヶ町とし大正十四年に及びしが第二次東成區西淀川區住吉區天王寺區港區此れ區浪速區の編入を行ひ現在名實共に東洋一大大阪を出現するに至れり。



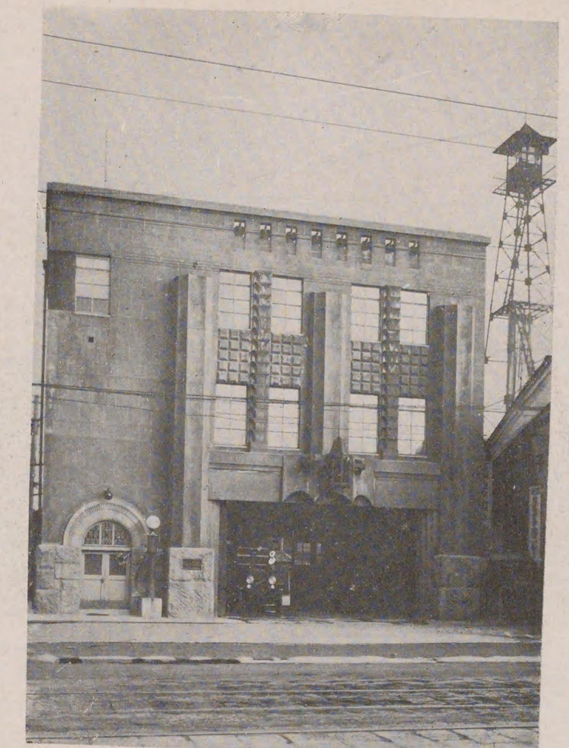
廳　正



關大阪市長

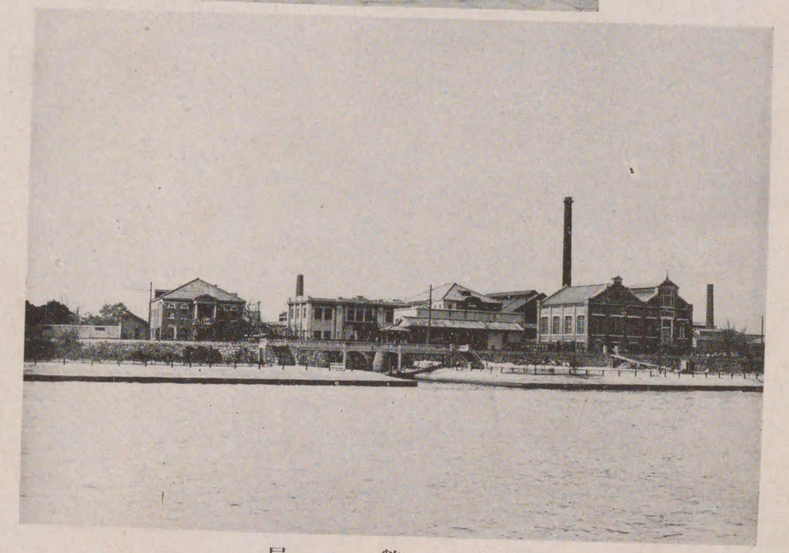


大阪市會議事堂



曾根崎消防署

大阪市北區曾根崎町

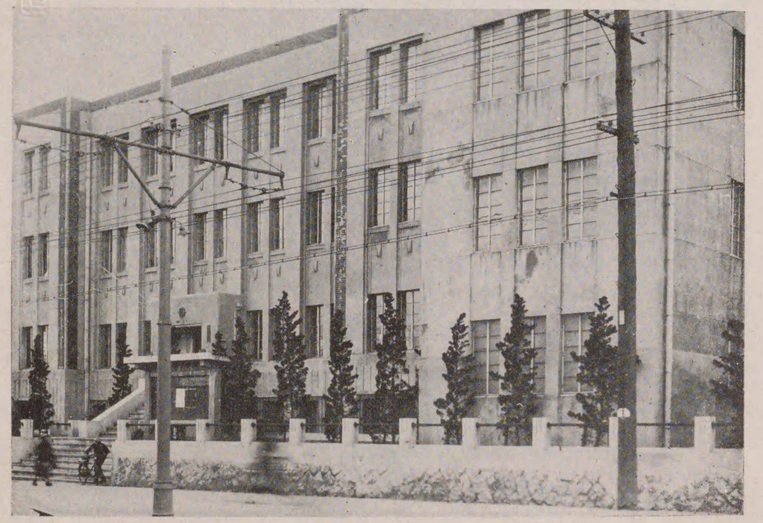


造幣局

（町崎川區北市阪大）

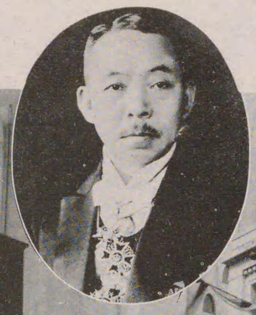
大阪控訴院・大阪地方裁判所・大阪區裁判所

（大阪市北區若松町）



大阪造玉警察所

（造玉阪大）

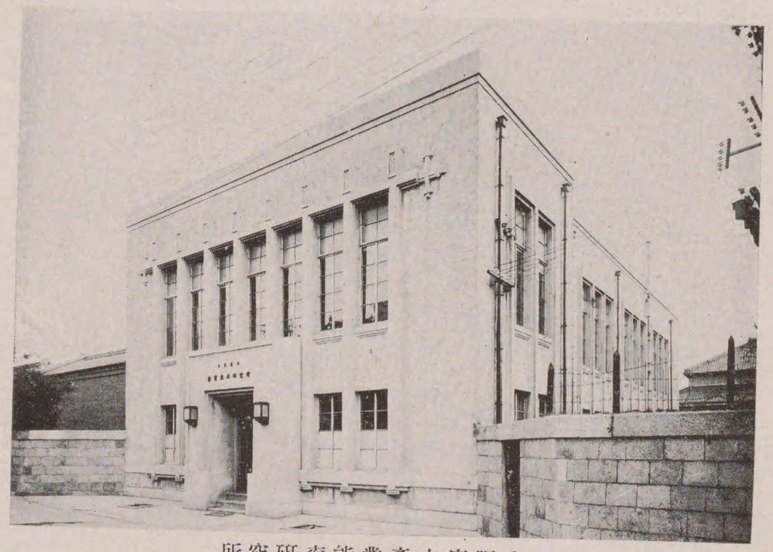


大阪商工會議所會頭
貴族院議員
稻畑勝太郎氏

大阪商工會議所

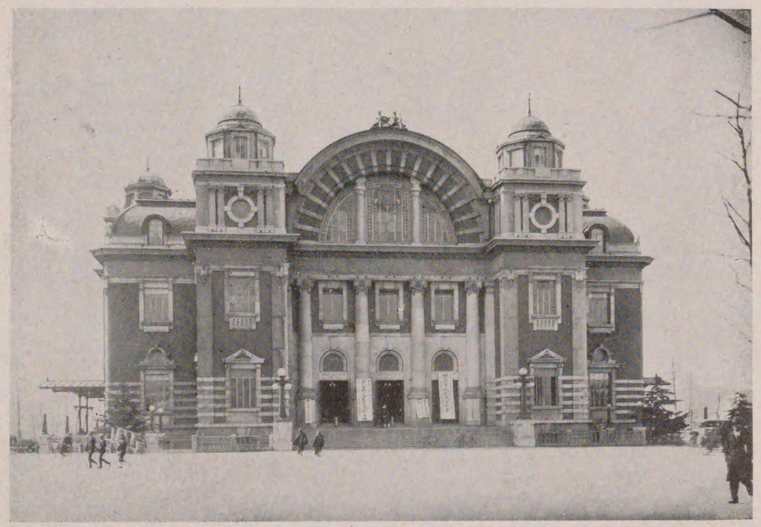
大阪市長堀橋交叉点

大阪府立實業會館



大阪府立產業能率研究所

大阪遞信管理局



公會堂

（大阪市中之島）

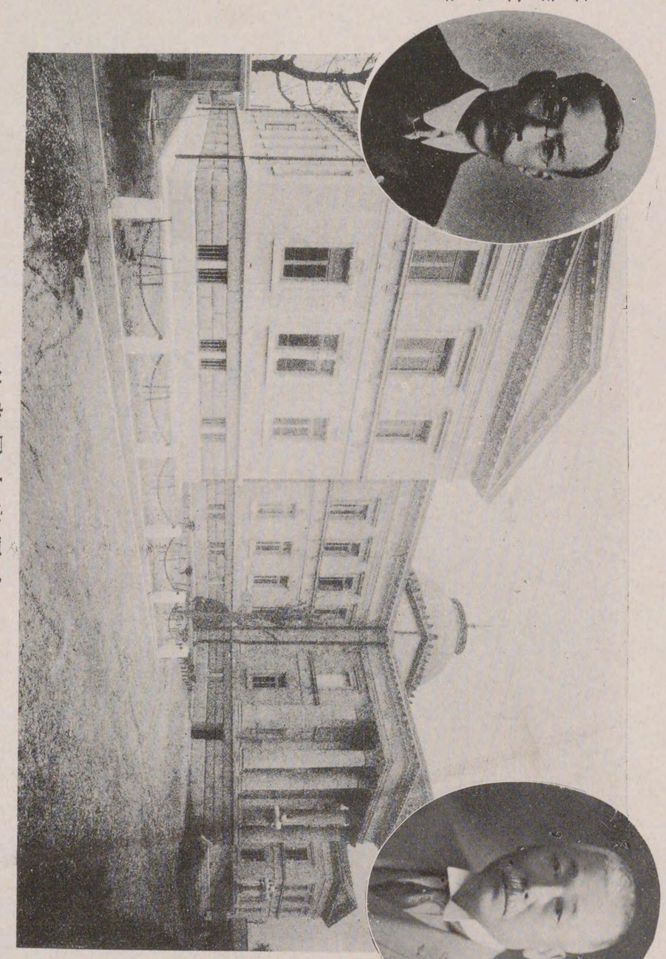
大阪府立圖書館紀要

沿革

明治三十六年四月一日　本館を設置し今井貫一館長任命
明治三十七年二月二十五日　開館式擧行
同三月一日より開館公衆の使用に供す
同四月一日より夜間開館を始む
大正五年五月十二日　増築第二號書庫落成
大正十一年十月二十一日　本館増築落成、經濟商業圖書閲覽部、理學工藝圖書閲覽部、新聞雜誌閲覽部、大阪府鄉土資料陳列室を新設。
大正十五年十一月十一日　文部省告示第三百七十一號を以て文部大臣より公立圖書館職員令第七條に依り指定せらる。
昭和二年九月一日　巡回文庫開始。
同年十月二十四日　増築第三號書庫落成。

建築

本　館　明治三十七年一月竣工(二百十坪六合)
第二號書庫　大正五年三月竣工(三十七坪七合)
本館増築　大正十一年十月竣工(百九十九坪三合二勺)
附屬舍(九坪七勺)(合計四百五十六坪六合九勺)
第三號書庫　昭和二年十月竣工(三十七坪四合四勺、渡り廊下一坪八合七勺)



故住友男爵

今井館長

大阪府立圖書館

構　造

本　館　三層外面花崗石裏積煉瓦鐵骨。

書　庫　五層　一號書庫　二號書庫　三號書庫
花崗石造　煉瓦造　鐵筋混凝造

各室配置

第一階陳列室、新聞雜誌書庫、閱覽者食堂兼休憩室、裝釘室、物置、厨房、職員及傭人食堂、小使及守衛室、職員及小使宿直室、下足預り所及下足置場、貴賓、婦人及職員、便所、豫備室。

第二階中央廣間、一般圖書出納兼目錄室、特別閱覽室、新聞雜誌閱覽室、婦人閱覽室、陳列兼講議室、玄關、館長室、司書部事務室、會計庶務係事務室、書庫係事務室、巡回文庫係事務室。

第三階普通閱覽室、經濟商業部閱覽室、理學工藝部閱覽室、經濟商業部及理學工藝部出納兼目錄室、記念室。

藏　書

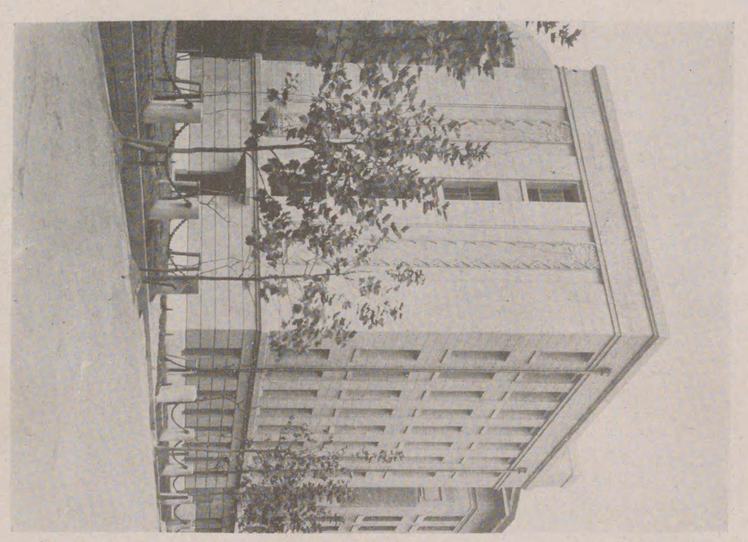
開館當時（明治三十七年三月末）現在三萬百五十五冊

最　近（昭和三年二月末）　現在二十萬千九百冊

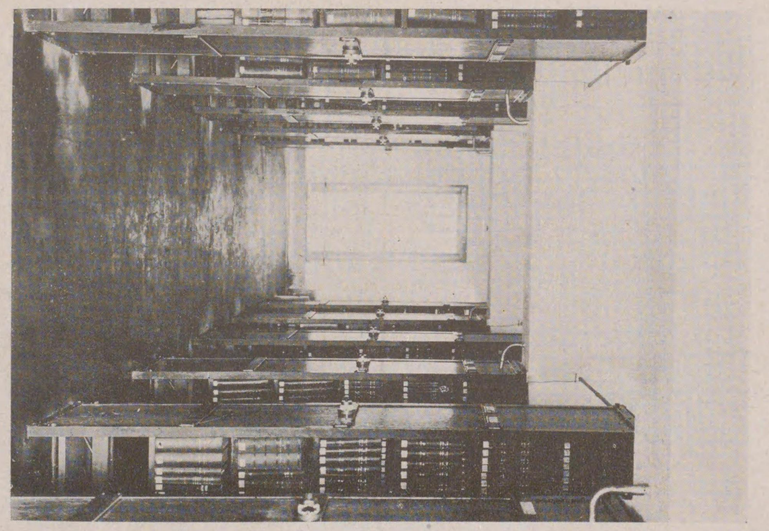
閱覽人員

開館初年（明治三十六年度）一日平均二百五十二人九分

最　近（昭和二年度）　一日平均千二百六十三人八分



庫書號三第築新



部内の庫書

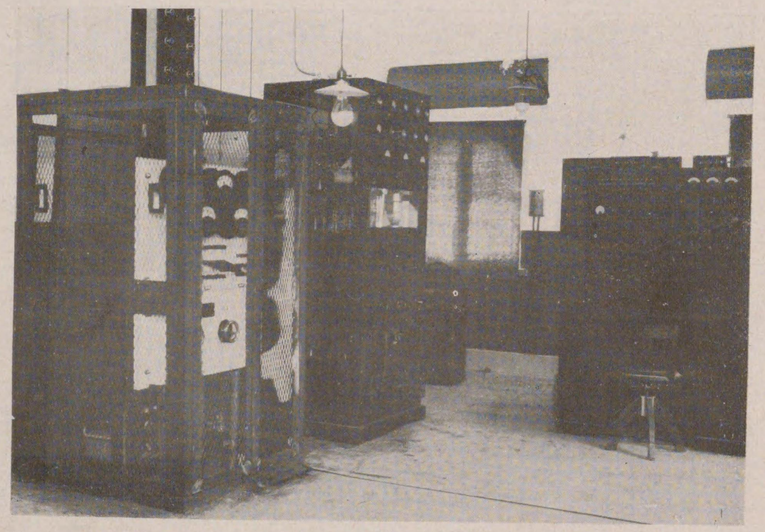
大阪中央放送局施設

其他一般

（其の一）

△土本町放送所ノ位置　大阪市天王寺區上本町九丁目
△呼出符號　J O B K
△電波長　三八五米
△電力　一キロワット
△鐵塔　高サ六〇米六二基
　長サ六〇米六二基
△空中線ノ型式　T型
△空中線條及數　BS十六番硅銅線四條
△放送機　米國WE會社の一〇六A型
△鑛石聽取區域　周圍三十マイル以內
△現在聽取者數　一四五三〇（昭和三、一、末日現在）

放送室



機械室

大阪中央放送局施設

其他一般

（其の二）

△事務所ノ位置　大阪市東區博勞町一丁目十五番地

全國鑛石化の計畫の下に目下新設工事中の十キロ放送は昭和三年三月中に工事竣成の豫定其概要は左の如し

△千里放送所ノ位置　府下三島郡千里村大字片山

△敷地　四七六一坪〇二

△局舍　延三〇三坪五合（外倉庫一〇坪）

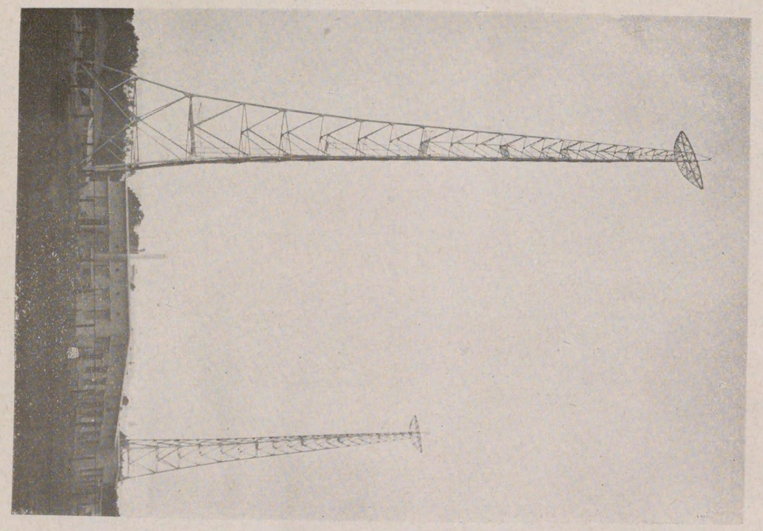
△鐵塔　鐵筋コンクリート一階建

△空中線　高サ六〇米、長サ九〇米二基

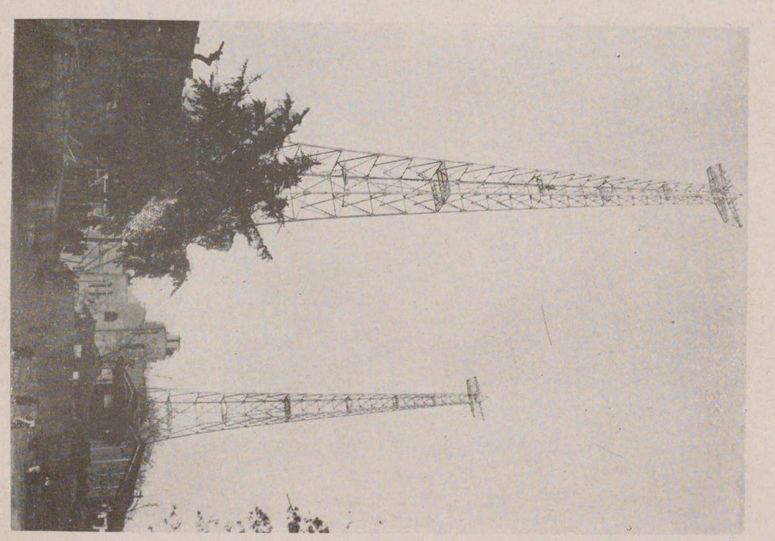
△空中線電力　B、S十四番硅銅線七撚二條、T型

△鑛石聽取區域　一〇キロワット

周圍約九〇マイル以内



所送放里千



所送放町本上

商品陳列所

所長　平佐惟一氏

大阪府立商品陳列所

沿革

本所は今を去ること三十八年前の明治二十二年に創設を提案された、其の頃は全國商工業の中心地たる大阪も國際的商業の智識經驗に乏しく海外との直接取引甚だ困難であつた、此の欠陥に乘じ外國商賈は阪神の兩地に商館を經營し仲介の衝に當りたる結果、居留地貿易の風を馴致し取引の機宜を失するのみならず利益の大部分は居留地外商の壟斷に委するの狀況を呈した、此の時、故西村捨三氏內務省より轉じて當府に知事たるや深く此の狀況に顧みて貿易助長機關設立の必要を痛感し直ちに本所の設立計畫に着手し歐米に於ける商品陳列所及各種博物館等の組織を研究斟酌して設立案を作成し府會の協贊を得て北區堂島濱通二丁目の田蓑橋々畔に本所を建築し工事及設備を大体完了して開所式を擧行したるは翌二十三年の十一月十五日であつた。

本邦唯一の洋式商品陳列所たる本所は其後年と共に設備完整し、單に大阪としてのみならず全國一般の商工業助長機關として指目せらるゝに至つたが、彼の明治四十一年七月三十一日の北區大火に際し類燒の厄に遇ひ爾來見本品の陳列中止は固より他の施設も極めて消極的に之を行ふの已なを得ざることゝなつた大正元年大久保利武氏農商務省より轉じて當府知事の任に就くや燒失後の懸案たる本所再築の實行に着手し、經營の方針、業務の要項等諸種の案件を調査して翌大正二年の府會に新築案を提出し、大正三年度より三ヶ年の繼續事業として可決を見るに至つたのである、斯くて東區內本町橋詰町に新築起工の運ぶは同五年十二月十一日竣成に近づきたるを以て山口貴雄氏に所長を囑託し開館に對する諸般の準備事務を處理しつゝ經常事務の一部を開始した、斯くて同六年十一月一日より落成記念展覽會を開催し、其の五日に開會式を擧ね開所式を行ひ同年十二月十日同展覽會を閉ぢて更に開館準備を整へ、同七年三月十五日愈々本館並に圖書館の公開を見るに至つたのである。

本所の位地・敷地・建物

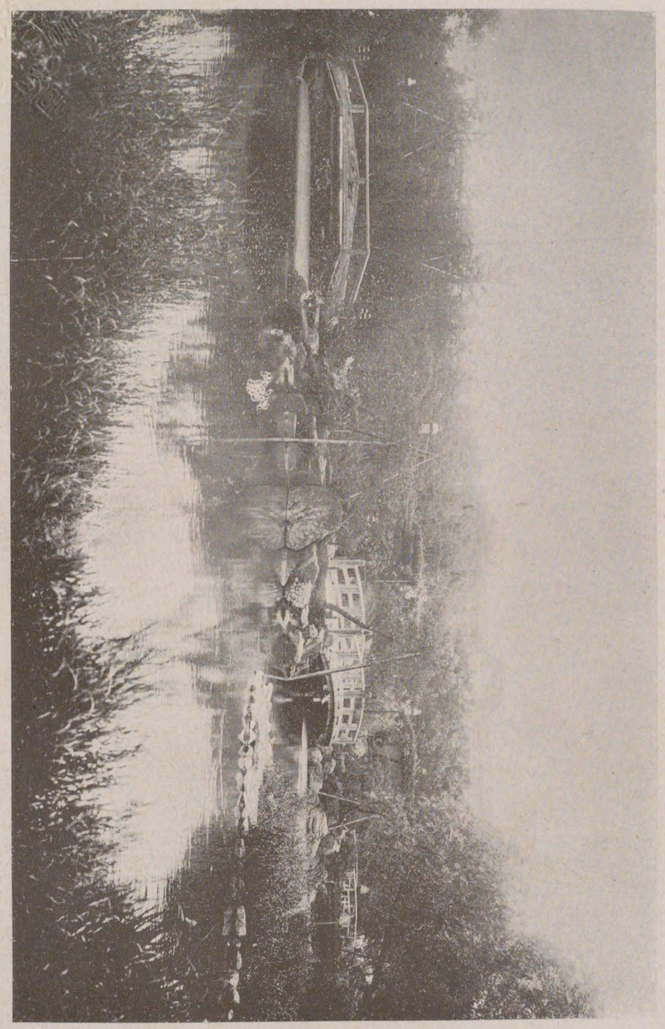
本所は西は東橫堀川を隔てゝ古來大阪の商業的中樞と稱する船場に接し、東は松屋町筋なる市內最冝の商區に面し、市電にて西よりするものは本町一丁目停留場本町橋西詰東より來るものは、內本町停留所にて下車すれば、何れも一分間に達することが出來る、構內の廣さ九千四百有餘坪（府立博物場、府立實業會館、府立能樂研究所、社團法人懷德堂等構內にあり）にして主なる建築物としては本館、中央館、發明館、圖書館、事務館、及び商品館等で、各館の坪數左の如きものである。

本　館　三五七坪（石材煉瓦造二階建）
中央館　一八七坪（煉瓦造平家建）
發明館　二三六坪（木造平家建）
事務館、圖書館　一二六坪（木造二階延地下室）
商品館　南館一一七坪、北館八八坪（木造平家建二棟）
書庫　八坪（煉瓦造二階建）
倉庫　二七坪（煉瓦造二階建）

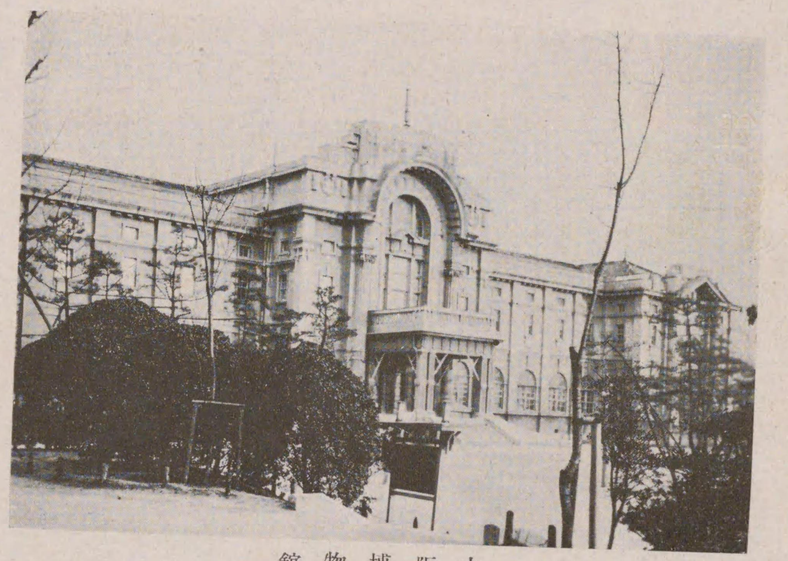
以上の外、雜庫（三棟）、荷解場、小使詰所、便所（五ヶ所）、下足及携帶品預り場（二ヶ所）等がある。

大阪四天王寺五重塔

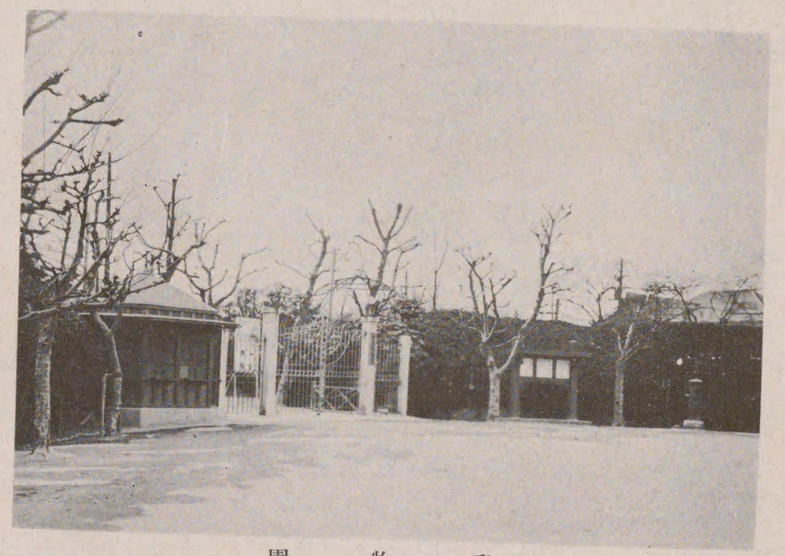
武徳殿
（大阪市天王寺區「天王寺公園」）



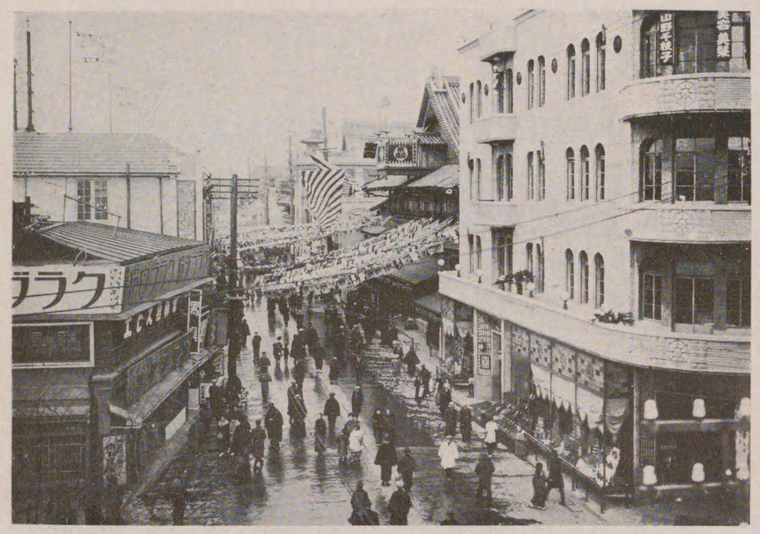
大阪天王寺公園



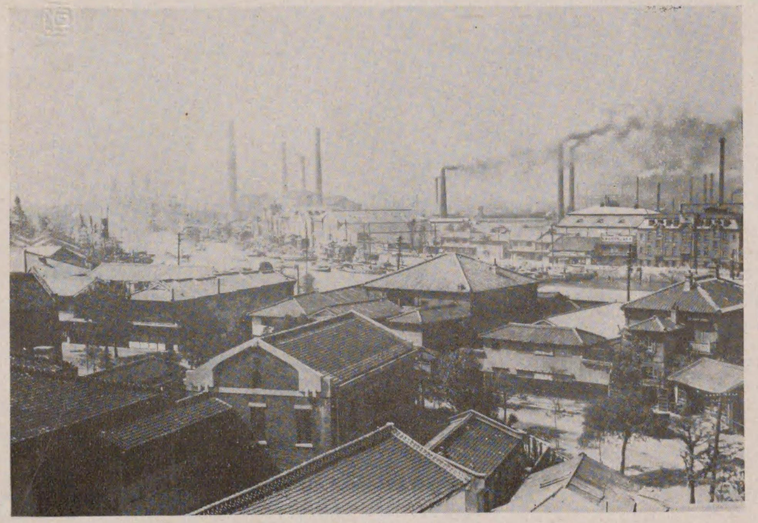
大阪博物館
（天王寺公園内）



動物園
（天王寺公園内）



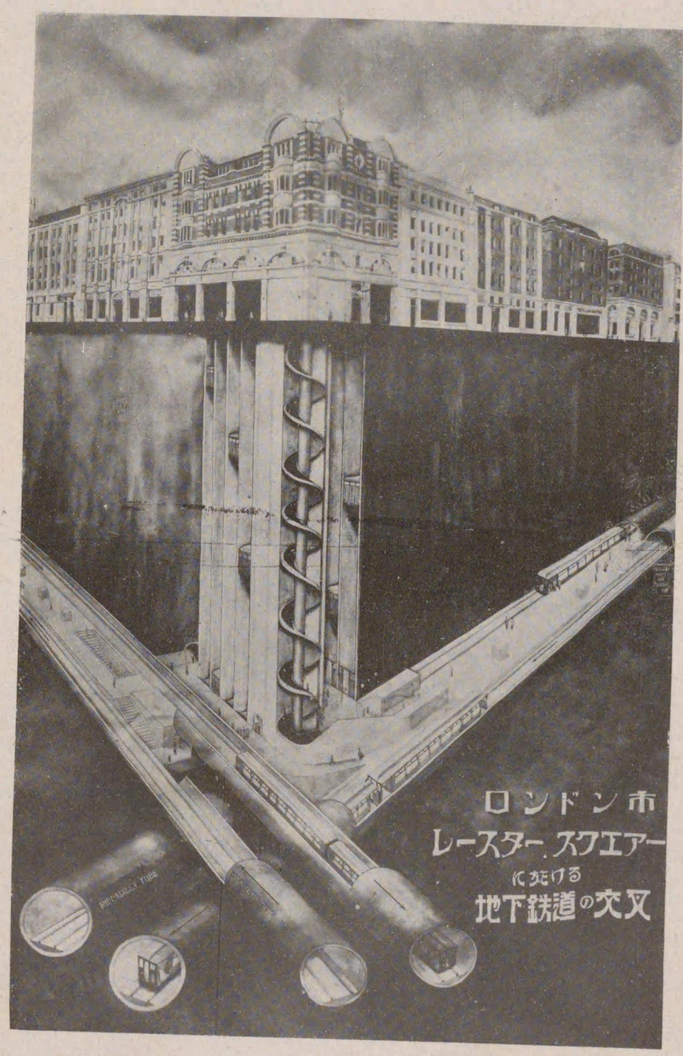
堀頓道の賑ひ

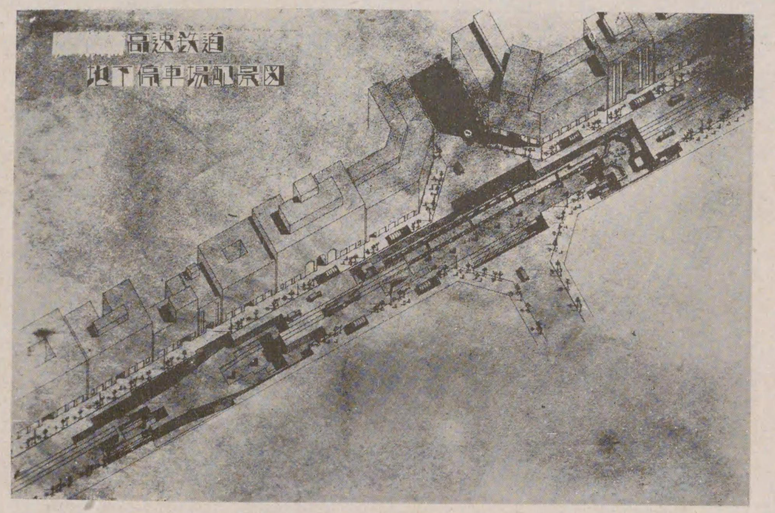


工場地帯（市岡附近）

空中より見たる中之島

中之島公園


ロンドン市
レースター、スクエアー
に於ける
地下鉄道の交叉


高速鉄道
地下鉄車場配景図

上本町小公園工事概要

位　置　天王寺區東高津南之町地先

設置目的　交通緩衝並に都市修飾の爲めにして兒童遊戲場を兼ねしむ。

概　要　中央に廣場を設け直通路を道路沿に造り其間に植樹張芝を施し休憩所便所等の工作物を施設し小公園としての体裁を具ふ。

面　積　八五〇坪

工　費　一萬九千五百圓

起　工　大正十四年十一月

竣　工　昭和二年三月

設　計　大阪市都市計畫部技術課

大阪市苗圃

一、位　置　東淀川區豐里町

一、面　積　四千三百坪

一、現在育成樹木表（昭和二年六月末）

樹木名	員數	樹木名	員數
プラタナス	四、九二一	イテフ	二、九九一
サンカクカヘデ	一、九五三	ニセアカシヤ	九二四
アカギリ	五四三	エンジユ	三五〇
ユリノキ	三三五	ポプラ	三〇五
カタルバ	二三〇	センダン	一〇
ボダイジユ	一五	シダレヤナギ	六
トチノキ	五	カツラ	一

總計　一二、七〇九

一、苗圃より街路樹として既に植出しせる分

プラタナス	九二二	アカギリ	一〇〇
イテフ	六八二	ユリノキ	二九
ニセアカシヤ	三七七	センダン	二六

計　二、一三六

一、苗圃へ苗木を購入せる平均單價　一圓九錢

一、苗圃より植出せる平均單價　三圓二十三錢

上本町小公園

苗圃

渡邊橋

肥後橋

大阪市都市計畫課(一)

渡邊橋工事概要

位置　梅田九條路線堂島川

構造　主徑間　上路に鉸鋼拱
　　側徑間　上路鐵筋コンクリート拱

幅員　主徑間　九〇尺
　　側徑間　一一〇尺

渡長　八〇米、五

面積　七〇七坪

徑間數　四

意匠　スパニツシユルネツサンス

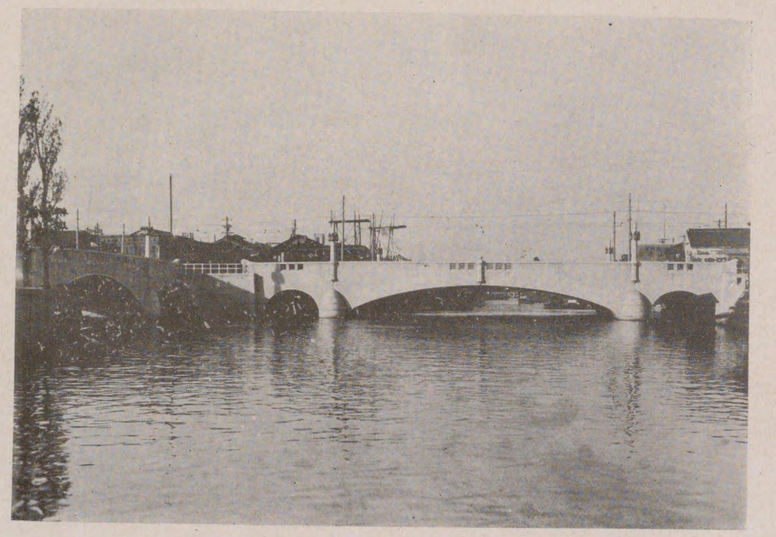
設計監督　大阪市都市計畫部技術課

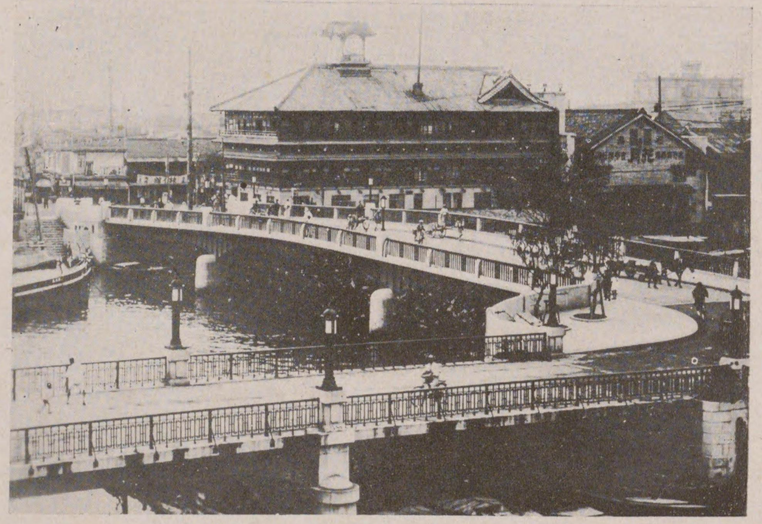
工事請負人　錢高組

總工費　金六拾二萬圓也

起工　大正十五年四月五日

竣工　昭和二年十二月十日





末吉橋工事概要

位置　長堀路線東横堀川
構造　上路鐵筋コンクリート拱
幅員　拾五間
渡長　四一米六五
面積　三四三坪六一二五
徑間數　三
總工費　金參拾萬六千圓
設計監督　大阪市都市計畫部技術課
工事請負人　鴻池組
起工　大正拾五年四月二日
竣工　昭和二年十一月十四日

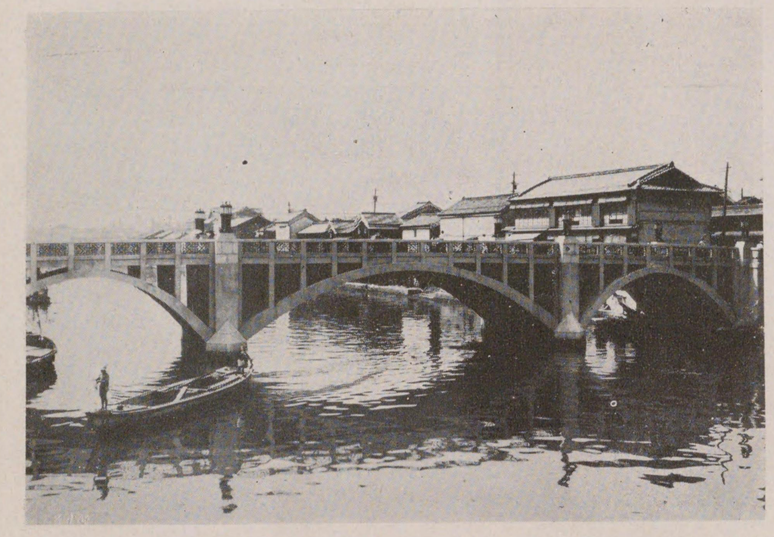
千代崎橋工事概要

位置　堀江玉造線　木津川
構造　ゲルバー式鋼鈑桁上路式
幅員　四十二尺
渡長　二〇八呎八
面積　二四五坪
徑間　三
設計監督　大阪市都市計畫部技術課
總工費　拾四萬七千圓
起工　大正十五年四月九日
竣工　昭和二年一月八日

水分橋工事概要

設竣總徑面渡幅構位

位置　水分橋筋堀江川
構造　上路ゲルバー式鋼鈑桁
幅員　五間
渡長　三〇間七
面積　一五三坪五
徑間　三
總工事費　八萬九千圓
竣工　大正十五年
設計監督　大阪市土木部技術課



大阪市都市計畫課 (三)

大手橋工事概要

位置　東橫堀川大手橋筋

構造　コンクリート固定拱

幅員　五間

渡長　三〇間三

面積　一五一坪五

徑間　三

工事費　八萬七千八百七十圓

竣工　大正十三年

設計監督　大阪市役所土木部技術課

城南線工事概要

起點　谷町三丁目

終點　法圓阪町輜重兵大隊の南

街路延長　參町拾二間八分

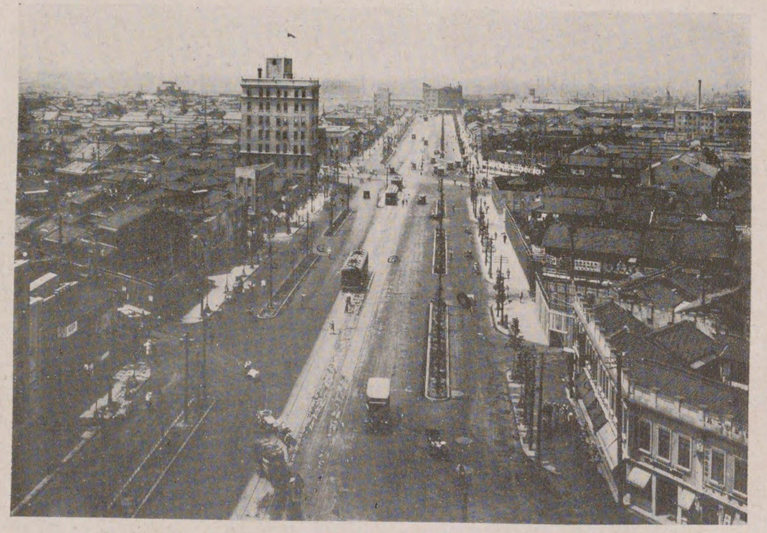
幅員　拾二間

面積　二、四八〇坪

鋪裝　車道　アスファルトコンクリート、
歩道コンクリートタイル

工費　六萬九千五百圓

設計監督　大阪市都市計畫部技術課



廣路工事概要

位置　御堂筋線（梅田阪急電鐵前より難波に至る）

幅員　二十四間

完成延長　三七〇間

完成鋪裝面積　八、九〇〇坪

鋪裝概要　車道木塊、歩道コンクリートタイル
緩速、急速車道及歩道を區分し中央街路樹帶を設置す

工事費　第一次完成部　三拾三萬五千圓

起工　大正十五年十月二十二日

竣工　第一次完了　昭和二年五月六日

設計監督　大阪市都市計畫部技術課

西横堀線工事概要

起點　肥後橋南詰

終點　信濃橋西詰

路線延長　八町十七間

幅員　十三間

街路延長　四百七十六間五分

面積　六千二百八十八坪

工費　拾七萬壹千圓

起工　大正十四年八月

竣工　大正十五年四月

設計　大阪市都市計畫部

鋪裝　車道木塊、歩道コンクリートタイル

大阪市枝川導水工事計畫概要

一、總　說

本事業の目的たるや大川筋の水位低下に因りて分派たる市内枝川の流量著しく減退し汚水の疏通を缺き衛生風趣竝舟運上之を放置する能はざるの狀態となれるを以て大川筋の流水を制して之を東西横堀川に導き更に其の接續分派諸川の疏通を完全ならしめ以て現狀の缺陷を改善せんとするにあり。

此の目的に適應せんが爲堂島川（大江橋上流）及土佐堀川（肥後橋上流）に可動堰を設け大川筋の流水を先づ東西横堀川に導き併て長堀川（安綿橋下流）道頓堀川（大黒橋下流）及江戸堀川（江戸橋下流）に可動堰を設け尚ほ京町堀川の取入口に床固工を施し一には東横堀川の流水を適當に高津入堀川及難波新川に導き一には西横堀川の分派たる江戸堀川以下の水量を適度に分配せしむるものとす。

但し可動堰閉鎖中に於ても大川筋及枝川諸川の舟運に支障無からしめんが爲堂島川可動堰及道頓堀川可動堰に併行して各一箇の閘門を設置する計畫なりとす可動堰は舟行稀なる夜間に限り之を閉鎖し晝間及增水時は之を開放するを原則とするも舟運其の他に支障なき限り晝間と雖も其の一部を閉鎖し枝川の流速を增大し汚泥の沈澱を減却して其の疏通の目的を助くることあるべし。

二、可動堰の型式竝設計の大要

可動堰は其の種類甚だ多しと雖も本計畫の如く大都市の中央に位し日夕必ず之が開閉を要する箇所に於ては外觀美の優秀にして開閉運動容易に且つ長時間を要せざる型式を選定せざるべからず本計畫に於ては諸種の型式に就て彼是考慮の上上記の要件を滿足し且つ最も經濟的にして而かも枝川疏通の目的を達し得る「テインターゲート」を選定することを最も適當なりと認め可動堰全部に此の型式を採用することと爲せり。

可動堰の外觀は之を開放すれば堰扉全部は橋床下に隱蔽せられ一見一拱橋と異ならざらしむるものにして心々三十二尺に「アーチリツア」二本を架設し上部をI型鋼にて連結し鐵筋「コンクリート」床を張り床下に堰扉の入るべき室を設け橋床は階段を以て道路面に取付け幅三十一尺の歩道橋に供するものとす而して其の徑間は河床の斷面を縮少せず外觀の調和を保ち且つ開閉時間を短縮せんが爲可及的長大と爲すを可とし地勢に應じ次記の如きものを採用せり。

可動堰名	「テインターゲート」寸法 扉徑間	扉高サ	員數	堰床高	摘要
堂島川	五十尺	十四尺	三枚	O.P下六尺	徑間四十尺ノモノハ閘門下流扉ニ用フ
	四十尺	十四尺	一〃	同	
土佐堀川	五十尺	十四尺	三〃	同	
長堀川	五十尺	十三尺	一〃	同 五尺	兩側ニ徑間十八尺ノ角落堰ヲ設ケ同ジク拱橋ヲ以テ蓋フ
	角落堰徑間十八尺		二箇	同 四尺	
道頓堀川	五十尺	十三尺	一枚	同 五尺	徑間二十四尺ノモノ兩側ニ設ケ其內ノ一ツヲ閘門上流扉ニ用フ
	二十四尺	十三尺	二〃	同	
江戸堀川	四十尺	十二尺	一〃	同 三尺	

尚ほ京町堀川の分岐點及難波新川の下流には床固工其の他適當なる制水工を設置する必要あり。

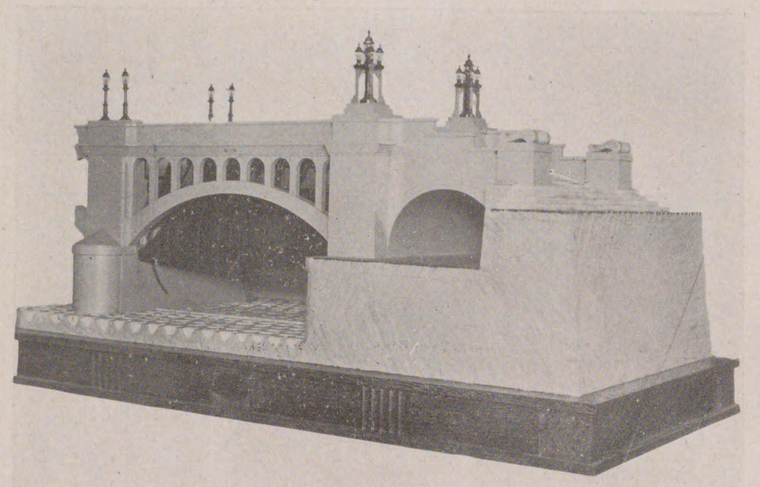
三、可動堰の開閉

可動堰は夜間のみ閉鎖するを原則とするも晝間と雖も其の一部のみを閉鎖するに於ては增水時に非ざる限り舟運に支障なし。

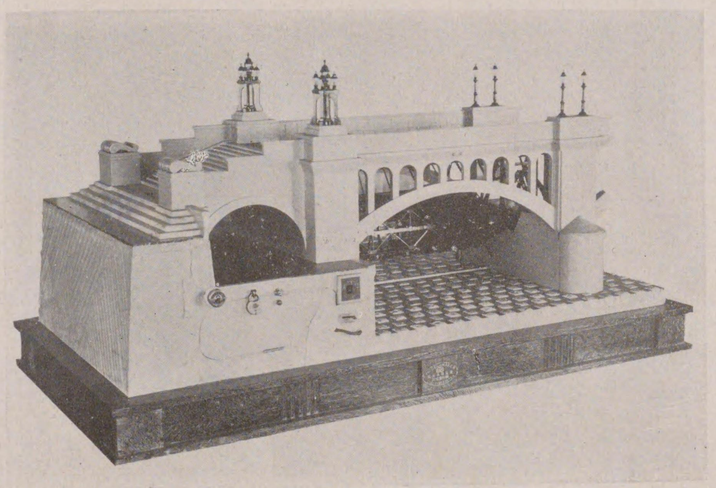
長堀川堰は之を全部閉鎖すれば河床の斷面僅少なるを以て東横堀川の流速を減じ尚ほ長堀川・堀江川及道頓堀川下流の疏通を阻害するを以て長堀川堰の角落部は常に其の一部を開放するの要あり。

江戸堀川堰は西横堀川筋の流水を過度に逸流せしめざる爲設置するものにして閉鎖時と雖も下端を適當に開放し置くものとす。

堂島川堰及土佐堀川堰は之を全部閉鎖せば滿潮時又は毛間洗堰流量五千箇以上の場合に於て川上流水位上昇して O.P. 七尺五寸（改修護岸石垣法高）を超へ上流に惡影響を及ぼす慮れあるを以て各一徑間は「テインターゲート」に自働裝置



堂島川ダム模型



上　　全

を施し水位O.P.上七尺五寸に達すると共に自然に開放され水位O.P.上七尺に降れば再び閉鎖せらるる構造とす。

可動堰の使用は其の最も有效なる朔望の前後各三日間即ち一箇月約二週間とし季節に依り多少の差異あるも午後八時前後に之を閉鎖し午前六時前後に徐々に開放す蓋し朔望大潮日前後は夜間に於て可動堰の效果最も大なる大干潮に際會し閉鎖及開放の時刻は略ぼ滿潮位にして開放に依る流速の變化最も少きを以てなり。

四、「ティンターゲート」運轉設備竝方法

各扉堰は二十馬力交流誘導電動機に依り聯動裝置を經て「カウンターウエート」の外側に取付けられたる「ラック」を回轉せしめて開放を爲すものとし其の所要時間は各一分間とす。

堂島川筋及土佐堀川筋の兩者には各一箇間に限り「コントローラー」に依り電動機を運轉す電動機軸には「リミツトスウキツチ」竝磁氣制動機を備ふ。

停、其の他の際は「クラツチ」を交換し手捲裝置を以て「ハンドル」を回轉し扉の開閉を爲す人力開閉の場合は二人を役して五分乃至十分間を要する豫定なり、動力は配電盤を經て各橋脚上高櫓內の運轉室に導き茲に設置せる「コントローラー」に依り電動機を運轉す電動機軸には「リミツトスウキツチ」竝磁氣制動機を備ふ。

五、開閉信號及警報

夜間各門扉の完全に開放せられたる場合には望見良好なる箇所に靑燈を點し開閉運轉中若くは閉鎖せられたる場合は各扉毎に紅燈二箇を點し以て舟行に便にす門扉を開閉せんとする際は通行船舶に豫め警告を與ふる爲開閉に先ち約一分間前述の紅燈を交互に明滅せしめ尙ほ電氣「サイレン」を發聲せしむの自働的に開閉する場合に於ても又同じ。

六、閘門の運用竝門扉運轉方法

堂島川筋及道頓堀川筋に沿ひて設置する閘門は次の特徵を有す即ち洪水其他の必要に際し上下流の水位差如何に拘らず先づ「ティンターゲート」を閉鎖して通水門を開き該室內の水位を門扉外の水位と同一ならしめ門扉を開放して之を固定し直に「ティンターゲート」を開き斯の如くして其の上下兩扉を同時に開放し以て閘門を河川の障碍物たらしめざる一點にあり之れ閘門內の一方に特に水位差如何に拘らず開閉自在なる「ティンターゲート」を使用せる所以なり、一方の扉は二型單葉扉にして橫開きとし之が運轉用電動機及通水扉運轉用電動機は共に橋脚上運轉室に設けたる「コントローラー」に依り橋梁上に於て運轉するもの亦前者と同じく開閉運轉の兩端に自働「リミツトスウキツチ」を具備せしむ（工費全額貳百拾萬圓也）

大阪市立工業研究所

（場所　大阪市北區北扇町　電話（北四六、三二四〇、四九〇一）

沿革

明治三十一年十一月及大正三年十一月の兩回に於ける陸軍特別大演習の際本市へ下賜せられたる恩賜金の積立金を基として工業研究指導機關を設置して本市工業の發展を圖り以て　聖恩を永遠に記念せむとする趣旨の下に大正五年創立せらる當時本所は大阪市立工業學校構内にありて規模小なりしが時勢の進運は一大擴充の必要を促し一方大阪驛擴張のため敷地の之に充用せらるゝを機とし現在の場所に新築大正十二年五月移轉せり其後增築を行ひ建築總面積三百八十八坪鐵筋コンクリート三階建一部地下室附延面積一千百八十三坪室數九十にして之を事務室化學研究室機械研究室設備利用室に分つ共の建築及設備費は計五十四萬圓なり。

大正十三年七月大阪市に於ける御成婚記念事業の一として工業研究所の事業を助長し發明奬勵産業の振興に資せむが爲め産業奬勵館の新設を決定せられ本所々屬として創設費二十萬圓を以て本所構内に建築せり建坪百二十坪鐵筋コンクリート三階建總地下室附延四百八十坪之を講堂陳列室圖書室閲覽室事務室調査研究室工業適應試驗室等に配置す。

業務

本所は其設備漸く擴充し且つ産業奬勵館の施設と相俟ちて專ら工業の發達を圖るの目的を以て左の業務を行ひつゝあり。

一、工業に關する試驗研究を爲す。
二、工業に關する試驗研究依囑並に質疑に應ず。
三、工業研究希望者に設備を利用せしむ。
四、其の他發明並に産業の助長奬勵に關すること。

其の處理事項左の如し。

庶務部

一、依頼受理に關する事項
二、設備利用に關する事項
三、圖書の閲覽に關する事項
四、陳列展覽に關する事項
五、講演講習に關する事項
六、發明並に産業の助長奬勵に關する事項
七、關する事項工業原料及製品の調査に關する事項
八、指導成績に關する事項
九、其の他他の部の主管に屬せざる事項

第一部

一、染料及染色に關する事項
二、纖維化學に關する事項
三、藥品に關する事項
四、顔料に關する事項
五、可塑性縮合物に關する事項
六、電氣化學工業に關する事項
七、原料材料及製品の鑑定並に分析に關する事項

第二部

一、油脂に關する事項
二、塗料に關する事項
三、食料品に關する事項
四、硝子に關する事項
五、金屬に關する事項
六、道路及裝材料に關する事項
七、其の他化學工業に關する事項

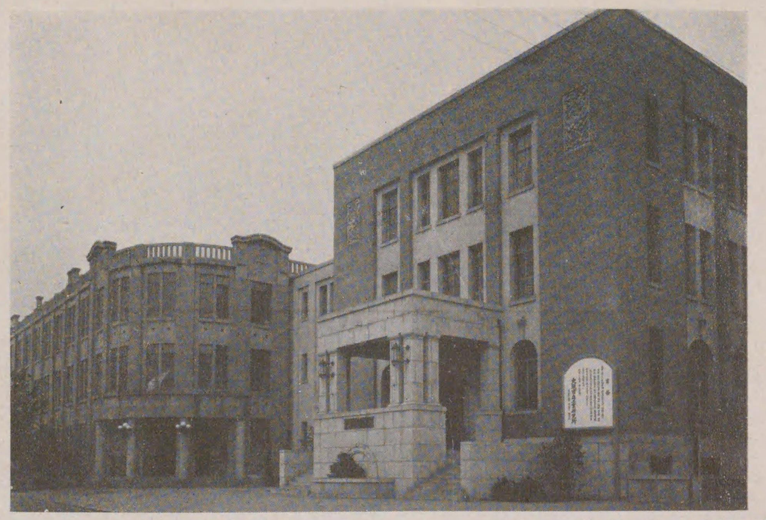
第三部

一、製造用機械に關する事項
二、製造用裝置に關する事項
三、機械能率に關する事項
四、材料強弱に關する事項
五、其の他機械に關する事項

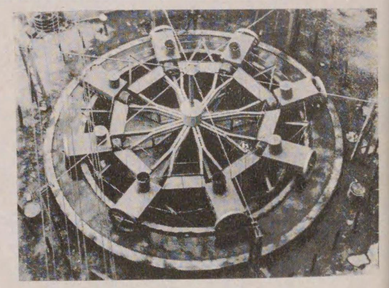
業務の施行方法

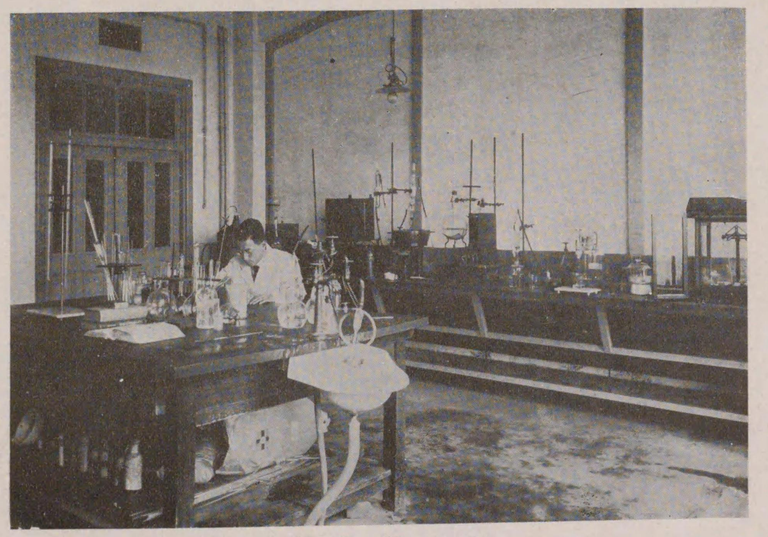
一、依頼研究並に質疑の應答

（次頁裏へつゞく）



市立工業試驗所全景





同上實驗室

工業試驗所圖書閱覽室

同上陳列室

（イ）一般依頼研究　依頼に應じて研究を爲すは本所の特徴とする所にして凡そ依頼事項は施設の許す限り受理し之を本所常置の技術員に依りて一々適當に處理して夫々回答を與ふ

（ロ）特別依頼研究　組合會社或は當業者が豫め研究題目を示し之に要する費用を提供して研究の依頼を爲す場合には本所はそれに對し必要に應じ臨時に研究員を增置して專心其の事項を研鑽せしむ之によれば依頼者はより滿足なる研究結果を得らるゝのみならずそれが實施に依りては研究成績と共に其の擔任技術者をも聘備する便宜あるを以て事業の完全なる發達を見らるべし。

（ハ）出張指導　依頼に應じて研究したる結果を實施せむとする場合其の他現場指導を乞ふものに對しては業務に支障なき限り擔任技術者を派遣し實地につきて指導を與ふ。

二、本所自發研究　公共事業並に共通的工業上の諸問題其の他本所選定の題目につき技術員をして是が研究を爲さしめ其の結果は必要に應じ公表して事業の進歩發展に資す。

三、設備利用　自ら研究を爲さむとするもその設備を有せざる者の爲に本所の設備を利用せしめ且つ專門技術者より之に權威ある指導を與へ其の目的を達成せしむ。

四、講演講習　科學智識普及或は研究成績發表のため公衆又は組合會社其の他團體に對し講演講習をなす。

五、圖書閱覽公開　工業圖書は概ね大部にして且高價なるもの多く各所に備付け難きものなれば本所は所藏各種專門の圖書を一般公衆の閱覽に供す。

六、陳列　本所附屬產業獎勵館の新設と共に同館第二階第三階に陳列室を常設し科學智識普及資料並に內外優良品を陳列し之に平易なる解說を附し一般公衆の觀覽に供す。

七、展覽會　時勢の進運に伴ひ科學の最新智識普及並に本所成績品を展示し併せて本所の業務を紹介するため機會ある毎に展覽會を開催し尙各所に開催の此種展覽會には努めて出品して產業の發展に資す。

八、調査　工業原料及製品其の他技術的方面より產業上の各種調査を行ひ其の結果は適當の方法に依り公表して一般產業の發展に資し併せて研究事務の參考資料となす。

九、發明の助長奬勵　發明にして有要なりと認めたるものにはそれに對し各種調査を行ひ或は其の試作を援助して目的を達成せしむ其の他發明に關する相談にも應ず。

依頼手續

本所は當業者と相提携して本市工業の發展を圖る極めて公開的の相談機關にして其の依頼手續は左記要項を口頭又は書面を以て申出づれば可なり。

一、住所姓名及職業
二、依頼の要項
三、依頼に對する應答希望期限
四、其の他參考となるべき事項

尙本所には依頼書を用意せるにより申込次第分與す。

水道事業の沿革並に現況

創設　本市に上水道布設の議の起れるは遠く明治十三年の頃なりしが當時各種の事情に妨げられ其の實現を見るに至らざりき爾來幾變遷或は府市當路の熟心なる調査となり或は私立衛生會の建議となり遂に明治二十四年に至りて機運漸く熟し同七月の市會に於て工事施行に關する議を決したり是れ即ち本事業實施の端緒なりとす越えて明治二十五年八月工事に着手し同二十八年十月全く其功を竣へたり其設備は給水人口六十一萬を目途としたるものにして水源地を淀川の左岸通稱櫻の宮に相し貯水池を大阪域址に置き之より自然流下に依りて市内に配水する爲延長八十二里餘の配水鐵管を敷設せり工費を投すること貳百參拾九萬八千九百四拾五圓餘なり。

第一回擴張工事　尋て明治三十年四月近接町村を市に編入したる結果遽に配水鐵管の增設を必要とするに至れるを以て工費八拾八萬千九百參拾壹圓餘を投じて延長三十五里餘の鐵管を敷設したり其の工事の竣功したるは明治三十四年十二月なり。

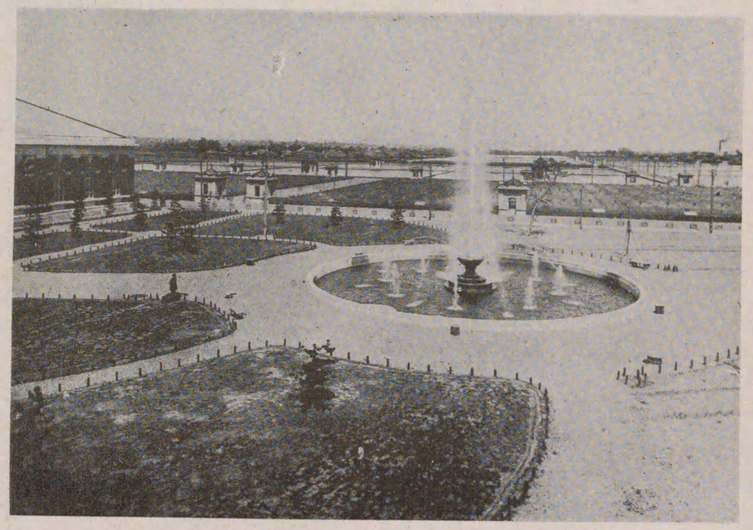
設備の補充　其の後人口の增加に伴ひ上水の需要者著しく增加したるを以て明治三十七年には濾過池三個を增設し同四十年には沈澱池一個竝四十一年には送水喞筒四臺を增設し同四十二年には取水喞筒三臺の取替並に二臺の增設同四十四年には汽罐十臺の取替及四臺の增設を行ふの外明治四十二年には送水鐵管一條の增設をなす等專ら設備の充實に努め以て克く人口八十萬に給水し得るに至れり。

然れ共市勢の膨脹は駸々として停止するところなく此の如き姑縫的應急策のみを以てしては到底此の大勢に適すべくもあらず水量窮乏して屢々制限給水をなすの已むなきに至り一大擴張工事を起し以て水量の潤澤豊富を圖るを焦眉の急とするに至れり。

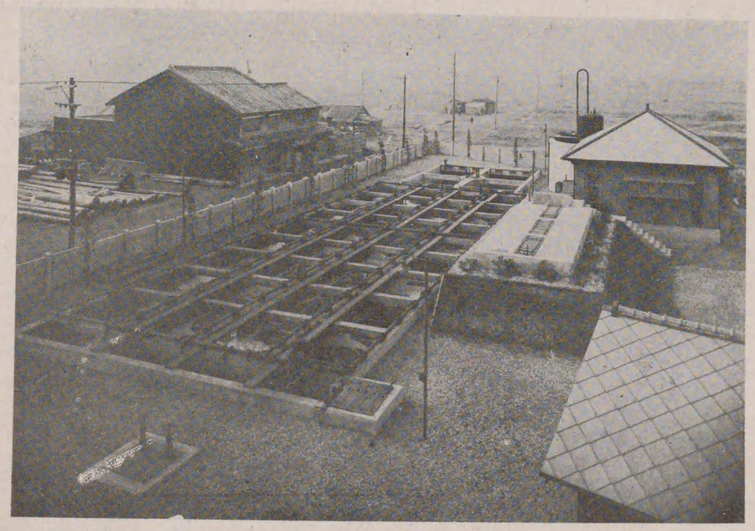
第二回擴張工事　茲に於て地を府下西成郡西中島村柴島にトし一大水源地を創設し喞筒直送式に依り市内に配水するの計畫を立て一面各戸に量水器を取付け上水の濫用を防止することゝして明治四十年八月市會の議決を經翌四十一年一月之が工事に着手せり爾來鋭意工事の進捗を圖り量水器取付工事は明治四十三年三月擴張工事は大正三年三月其の功を竣へたり此工費合せて金千四拾六萬七千五百餘圓なり此の如くして給水能力新舊設備を合せ人口百五十萬人分に達するに至れり。

櫻の宮水源地作業の休止　如上第二次擴張工事成り給水能力充實して柴島水源地の設備のみを以てして克く其の需要を充たすに足るに至れるに拘らず櫻の宮水源地の作業を繼續するは經濟上極めて不利なりと認めたるを以て大正四年九月以後之を休止することゝしたり。

柴島水源地の補充設備　然るに大正三年勃發したる塡塞の紛擾一轉し



水　源　地



濾　過　池

て世界的戰亂となるに及び本市の商工業殷賑を極め人口亦頓に激增して上水の需要日に增加し大正六年以來殊に其の著しき者ありて遂に水源設備の不足を訴へむとするに至れり而も櫻の宮水源地は元來地盤軟弱なるが上に創設以來幾多の歲月を經過し其の間絕へず本市給水の任に當れる自然の結果として設備の頹廢甚だしく大なる修繕を加ふるに非らざればまた用を爲すに足らず加之近年其の上流に各種の工場設備簇出して源水を汚濁するの虞ありて到底之を永遠に使用すべくもあらず茲に於て應急策として柴島水源地の設備補充をなすの有利なるを認め大正七年六月より同八年三月に亘りて藥物沈澄裝置の新設送水用電動唧筒三臺の增設受電裝置の新設送電線取水管の增設並に城內貯水池に達する內徑二十六吋送水鐵管一條の敷設工事を施し以て給水上支障なきを得たり此の工費參拾九萬九千參百九拾八圓餘なり。

第三回擴張工事　前述の如く設備の補充をなしたる結果柴島水源地の送水能力は一日百三十五萬石に達したりと雖も之を統計に徵すれば大正十一年に至りて殆んど供給能力に餘裕を存せざるに至るべし今に於て適當なる計畫を立つることなくんば既往十數年前に嘗めたる水量窮乏の苦痛は幾年ならずして再び之を繰返すに至るべく一大擴張工事の施行は益々急を要するに至れり茲に於て柴島水源地の擴張及市內配水幹線の計畫を立て大正八年五月市會の議決を經同年九月工事に着手したり爾來工事は着々進行し大正十一年三月豫定に先つこと一年にして全く其の功を竣へ以て給水に些の支障を來さゞるを得たり此の間資を投ずること金千四拾萬參千九百六拾六圓にして施設の主なるものは沈澱池三、濾過池十、貯水池二、取水唧筒三臺、送水唧筒十二臺、配水管敷設延長二十三哩餘なり。

櫻の宮水源地の廢止　櫻の宮水源地は既述の如く永久に之を存置すること能はざるの狀態に在り一面擴張工事は豫期の如く進捗し一給水上些の懸念なきに至りしを以て大正九年九月市會の議決を經同年十二月內務大臣の認可を經て遂に之を廢止したり。

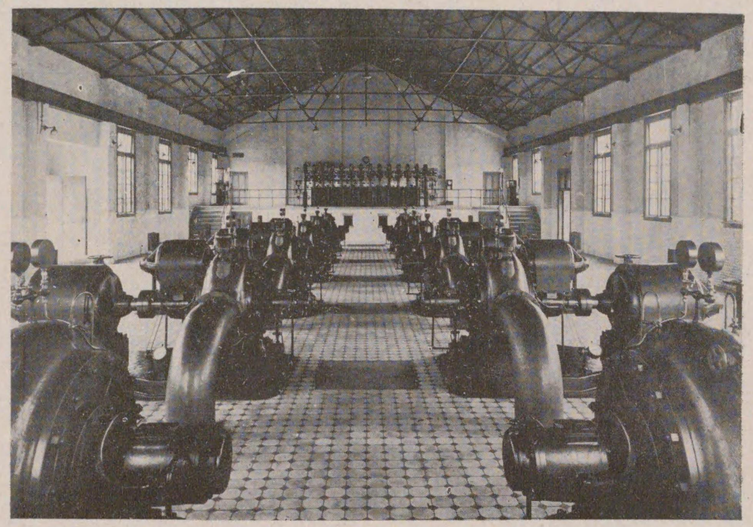
現在の設備　本市水道設備は大要上述の如き經過を以て發達し今や柴島水源地は一日二百十萬石を供給するの能力を有し配水管は本支管を合せ延長百九十二里餘を算するに至れり之を明治二十八年水道創始の時代に比すれば轉た隔世の感なき能はず左に現設備の梗概を示さむ。

柴島水源地梗概

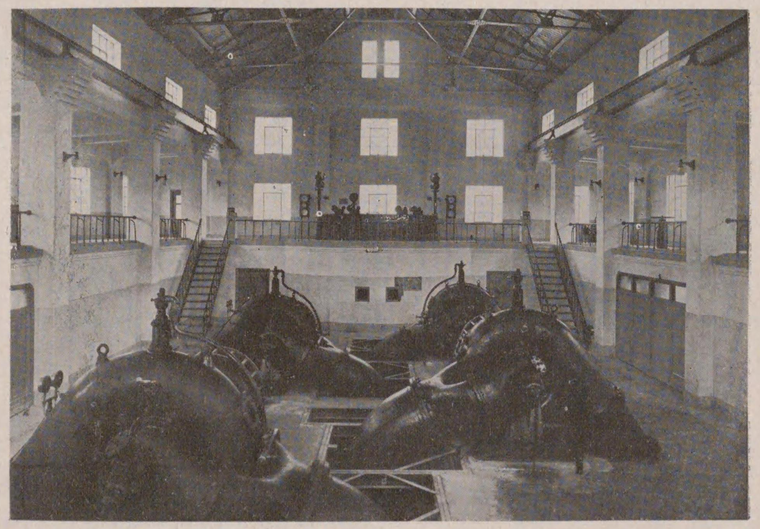
位置及面積　淀川の右岸東淀川區柴島町地內にあり用地の面積十五萬三百九坪五合四勺にし、東方鐘淵紡績會社分工場に境して起り柴島の部落を擁して長く西方に展開す。

取水塔　前記鐘淵紡績會社分工場附近の河中に二基を設く其の構造は煉瓦造にして一圓形をなし各塔共に長徑廿二尺五寸短徑十五尺高さ河底上より廿尺なり而して各塔は四十八吋管三條を以て取水し三十六吋管二條を以て之を砂除池に導く。

砂除池　四隅を圓弧とせる長方形のものにして其數二個なり一池の大さ長二十五間巾六間深十尺にして鐵筋混凝土を以て之を築く各池共三十六吋管二條を以て取水塔より水を取り流速の緩徐により水中の粗なる砂塵



電働唧筒室



取水唧筒

を沈ドせしめ四十五吋鐵管を以て取水喞筒場吸水溝内に導く。

取水喞筒場　鐵筋混凝土造にして總建坪百二十九坪七合七勺高さ軒壁上端迄二十二尺三寸なり屋根は鐵骨小屋組石綿鈑葺とす。

取水喞筒　電動機直結離心型喞筒にして總數九臺を設備す九臺の内六臺は揚水量一臺一分間に千二百五十立方呎（一時間一萬一千七百石）にして一臺所要馬力百馬力なり他の三臺は揚水量一臺一分間千七百立方呎（一時間一萬六千六百石）にして一臺所要馬力百五十馬力なり而して揚水高は總て二十八呎にして前六臺中一臺及後三臺中一臺を豫備とす砂除池より來れる水は此等喞筒の作用により四十二吋管二條（鐵管一條木管一條）及び四十五吋管二條（鐵管一條鐵筋混凝土管一條）を通して沈澱池に到る

眞空喞筒室　木造平家建拾壹坪にして室内には眞空筒壹基眞空喞筒二臺を設置し三十馬力の三相誘導電動機により運轉する裝置とす。

吸水管　直徑三十吋の鐵管を新淀川堤防を横斷して吸彎形に埋設し一端を川水中に他端を取水喞筒吸水溝に連絡し眞空喞筒の運轉に依り水位落差五呎の時一分間二千一百立方呎（約三百三十石）取水し得るものとす。

沈澱池　長方形にして總數十池とす一池の大さ長五十六間巾四十三間有効水深九尺にして十池合せて一日最大給水量に對する十二時間半の沈澱時間を有す。

十池の内七池は其構造側壁に一割の勾配を付し張石及混凝土を以て築き其の底部も亦混凝土造となし側壁の外周及底部混凝土の下部に加ふるに粘土又は土瀝青を以てす他の三池は其構造全部混凝土造となし特に周壁には鐵筋を加へ池底には「アスファルト」工側壁には粘土工を施し以て漏水を防ぐ。

而して各池共に其長側壁に併行に二條の環流壁を築きて三區劃に分ち水の混濁せる時必要に應じ之を環流せしめ其混濁甚だしき時は砂除池に設けたる裝置に依り藥物池澄法を行ふものとすかくして取水喞筒より來れる水は此池に於て停滯し細かき砂塵其他の混合物を沈渣し濾過池に入る

濾過池　一池の大さ長巾共各四十間を有する方形にして總數二十四池とし其内四池を豫備とす二十四池の内十四池は混凝土造にして壁部表面は煉瓦張とす他の十池は全部混凝土造にして特に壁部には鐵筋を加ふ各池とも側壁の外周に粘土工底部混凝土の下部には粘土又は「アスファルト」工を施し以て漏水を防ぐ濾過層は玉石（又は煉瓦）砂利川砂より成り其厚さ三尺五寸乃至四尺五寸にして其砂面上水を湛ふること四尺とす濾過速度は毎二十四時間に十二尺とし出口に節制機を設けて之が調整をなせり即ち一池一日の濾過水量は約十萬六千石にして砂除池澱兩池に於て砂塵其他の混合物を去りたる水は此池の砂層を滲透して黴菌其他浮游物を除去し玆に全く清冽なる淨水となりて貯水池に入る。

貯水池　長方形にして總數六池とす。

六池の内四池は各池の大さ長四十六間幅三十九間有効水深十尺にして四池を合せて約三十四萬石貯水に堪ゆるものとす其構造凡て混凝土造にして各水共其中央部に當り水の入口ある所に一の隔壁を造り其の左右に環流壁八條を設けて入り來りたる水をして絶へず此壁に沿ふて流動せしめ以て停滯より生ずる腐敗を防ぐ又上部には鐵筋入穹窿形屋蓋を設く其上に土砂を置き以て淨水をして汚るゝことなからしむると同時に寒暑に際し水温の變化を少からしむ而して他の二池は共に大さ長四十間幅三十九間有効水深十尺とし二池を併せて約十六萬石の貯水に堪ゆるものとす構

造は總て鐵筋混凝土造にして各池共十一條の環流壁を築き上屋を設け土砂にて覆へり尚六池共側壁外周には粘土工庭部混凝土の下部には粘土又は「アスファルト」工を施し以て漏水を防ぐ。

送水喞筒場　總數二棟あり一棟は煉瓦造平家建總建坪六百四坪五合三勺にして高さは軒壁上端迄三十二尺九寸屋根は鐵骨小屋組石綿鈑葺一部を銅板葺とす之を第一送水喞筒場とす他の一棟は鐵筋混凝土造地下室及附屬建物附平家建にして總建坪二百六十七坪八合三勺七才あり高さは軒壁上端迄二十一尺屋根は鐵骨小屋組石綿鈑葺にして一部銅板葺なり之を第二送水喞筒場とす。

送水喞筒　蒸汽喞筒と電動喞筒の二種とす。

蒸汽喞筒は一分時間に九百三十七立方呎（一時間約八千八百石）の設を百六十呎の高さに揚げ得る能力を有する三重膨脹複式凝縮器附「プランジヤー」型のものにして蒸汽の使用量を節約すると共に鐵管破裂に際し喞筒機械に破損を生ぜざらしめんが爲優等工程裝置を附屬せしむ其數は九臺にして平素内七臺を使用し二臺を豫備とす而して一臺の運轉力に約四百馬力なりとす電動喞筒は一分間に六百立方呎（一時間約五千六百石）の水を百六十呎の高さに揚げ得る電動機直結離心型喞筒にして其數十二臺内三臺を豫備とす電動機一臺三百馬力なり而して各喞筒設備の操作は「ペンチボールド」型遠隔制禦式支配盤により電氣的に之れを行ふものとせり。

以上は凡て市内直送用に供するものにして此外一分時間に四百五十立方呎（一時間四千二百石）の水を二百呎の高さに揚げ得る電動機直結離心型喞筒を設置し城内貯水池への送水用に供す其數三臺にして平素内二臺を使用し一臺を豫備とす電動機一臺二百八十馬力なり、

受電塲及變電所　第一變電所は煉瓦造にして總建坪八十一坪九合高さ軒壁上端迄十七尺三寸なり屋根は鐵骨小屋組石綿鈑葺とす又別に第一送水喞筒場の一部を以て第二變電所とす。

受電所變壓設備　所要電力三千「キロワツト」を本市々營電氣局九條發電所及宇治川電氣株式會社より一萬一千「ボルト」にて受電し之を所要の電壓に變じて取水喞筒電働送水喞筒の運轉其他水源地構内各種の動力電燈等に使用す其員數左の如し。

七百五十「キロボルトアンペヤ」單相變壓器四臺（内一臺豫備）第二變電所
五　百「キロボルトアンペヤ」單相變壓器四臺（同　同）同
二百五十「キロボルトアンペヤ」單相變壓器四臺（同　）第一變電所
二十　五「キロボルトアンペヤ」單相變壓器九臺　内六臺第一變電所　内三臺第二變電所
配　電　盤　一式第一變電所

發電機場　煉瓦造にして總建坪百二十一坪一合六勺高さ軒壁上端迄二十七尺九寸なり屋根は鐵骨小屋組石綿鈑葺とす内部は現在の設備の外將來尚增設を要する場合には主要發電機一臺を据付け得る餘地を存す。

發電設備　宇治川水電及九條發電所に故障を生じたる際使用する火力發電機にして其員數左の如く總發電力八百二十五「キロボルトアンペヤ」なり。

主要發電機三臺　一臺の容量二百六十五馬力
補助發電機二臺　一臺の容量百馬力
主要冷却機三臺

補助冷汽機二臺
配電盤一式

汽罐場　煉瓦造にして汽罐室節炭機室及施風機室に區劃を設け屋根は鐵骨小屋組混凝土打にして一部亜鉛引浪板葺たり其建坪及軒壁上端迄の高さ左の如し。

汽罐室建坪約三百四十六坪四合八勺　高さ二十七尺二寸
節炭機室同約九十坪八合　同　二十七尺二寸
施風機室同約八十四坪四合　同　二十三尺
煙突は其數二基煉瓦造にして口徑九尺高さ八十尺なり

汽罐及附屬品　其員數は左記の通にして運炭機を除く他の諸機械は平素全設備の半數を使用す而して汽罐一臺の公稱馬力は二百八十七なり。

汽罐（ストーカー付）　十六臺
運炭機　一組
節炭機　四組
旋風機　四臺

給水量　一人一日の平均給水量を三・二立方尺（約五斗）とし一人一日の最大給水量を四、五立方尺（約七斗）とす又一日中の最大給水を要する一時間の最大給水量割合を一人一日六、七立方尺（約一石）として人口約三百十萬人に供給し得べきものとす。

送水管　城内送水用電動唧筒專用として柴島水源地と城内貯水地とを連絡す口徑二十六吋の鐵管一條なり。

配水本管、東部北部西部及中部四幹線とす　東部幹線は四十二吋北部幹線は三十九吋にして夫々大阪市東部及北部の配水幹線に充つ此二幹線は相併行　て東淀川區柴島町の第二送水唧筒場を發し水管橋に依り新淀川を渡り北長柄町及南長柄町を徑て大阪市北區天神橋筋六丁目に至る之より相分ッて東部幹線は市營電車線路に沿ひ南行し寺町に於て三十九吋となり南森町を左折し更に天神橋筋を南下して東區追手門筋に至り左折又南下して法圓阪町より上本町筋に入り上本町一丁目に於て三十六吋となり再び電車線路に沿ひて天王寺區上本町六丁目に於て三十吋に同九丁目に於て二十七吋に椎寺町に於て二十四吋天王寺西門前に於て二十吋となりて阿倍野筋に出て市電霞町玉造線に到りて終に既設鐵管と連絡す此延長約二里廿八町四十間あり。

北部幹線は市電梅田善源寺線に沿ひ北區浮田町に於て三十六吋となりて梅田停車場前に出で出入橋を渡りて再び電車線路に入り此花區玉川町に於て三十三吋に西野上の町に於て三十吋となるそれより朝日橋を渡りて四貫島町に出て千鳥橋に於て二十七吋となりて春日出町に至り恩貴島橋筋に於て二十四吋更に恩貴島南之町に於て二十吋となり島屋町を經て終に櫻島町に至り既設鐵管と連絡す此延長約二里三十四町十間なり兩幹線とも市内適當の箇所に分岐管を出して既設鐵管に連絡せしむ。

西部及中部　兩幹線は夫々四十二吋及三十九吋にして第一送水唧筒場より發し併行して東淀川區南方町地先に出で水管橋により新淀川を渡り本庄町に入る此所にて兩線相岐れて前者は梅田停車場の西手より梅田橋に出で安治川を渡り木津川橋附近に到りて三十九吋となり花園橋に到りて三十三吋に運河を渡りて二十七吋となり遂に築港に達す此延長約二里廿三町四十七間なり。

後者は梅田新道を經て堂島川を渡り中之島に入り土佐堀川より西横堀川の西側に入り筋違橋附近に到りて三十六吋となり助右衛門橋附近に到りて二十七吋となりそれより道頓堀川を渡り既設管に連絡す此延長一里三十二町三十一間なり兩幹線共市内適當の箇所に分岐管を出して既設鐵管に連絡せり。

第四回擴張工事　現在の設備は前述の如く一日二百十萬石なるも本市の發展は各方面に於　豫想外に著しきものあり從て現水量の如きも近時急激なる增加を招致し既に大正十三年夏期に於ける一日最大配水量は前回計畫當時の豫想百五十萬石に對し實に百七十萬石を超え此增加率を以てせんか現在の施設は僅かに大正十五年夏季に於ける需要を充し得るに過ぎざるべきは想像に餘りあり又一方一人當り給水量の增加も年と共に著しく當今既に六立方尺二五（約一石）を超え而も尙增加の傾向著しきものあるの現狀を呈せり茲に於てか將來大大阪市として都市計畫に順應すべき大水道施設を講ずるに先立ち其仲繼として擴張工事を施行し焦眉の急に應ぜざるべからずとし種々考究の結果工費八百萬圓を以て大正十三年度より大正十七年度迄五ケ年繼續事業とし本擴張工事を計畫し大正十三年十二月三日市會の議決を經大正十四年四月十日內務大臣の認可を得たり而して本工事の規模は過去數年間の統計に準據し大正二十五年に到達すべき推定配水量三百二十萬石（一人一日最大給水量を七立方尺五即ち一石一斗六升として給水人口二百七十五萬人に相當すを目途と爲すを妥當と認め之を基礎として諸般の設備を計畫せるものにして其の工事方法としては現在の濾過速度一日十二呎を十六呎に增大せしむる施設により一日約五十七萬石を增加すると同時に新に現在の水源地構內空地に一日約五十三萬石の能力を有する急速濾過裝置を設くることに依りて合計百十萬石の水量を增加せしめ以て前記三百二十萬石の配水に備へんとするものなり。

下水道事業の沿革

一、大阪市の地勢及び下水の影響

大阪市は東部上町方面に於て南北に走る小丘陵を除く外概して平垣なる低地にして其の間を淀川、堂島、土佐堀、木津、安治川等の諸川及是等に連絡する大小幾多の枝川貫流し遙か西南の大阪灣に流入す、而して一旦豪雨あれば雨水は道路及び溝渠に溢流し加之人口の増加と工業の發展とは下水量を激増せしめ是等の汚水は附近の枝川に殺到し市内河川の水質を汚染すること甚しく水流動もすれば停滯腐敗して異臭を發散するに至る。殊に夏期旱天時に於てはあらゆる溝渠は悪水停滯して不潔を極め以て傳染病發生の源泉となりて市民の衞生保健を脅かすに至れり。

二、下水道改良事業の沿革並に現況

(い)中央部舊市域下水道改良事業

偖明治十九年及二十三年兩度に起りたる虎疫の流行は忽ち市民をして下水道改良の急を叫ばしむる機運に逢着せり。然れども其の具体案と成りて議に上りたるは明治二十六年十月にして當時幾多の曲折を經たる後ち明治二十七年以降五箇年の繼續事業として先づ以て溝渠の改良と舊市域の一部に於ける下水道改良とに着手するに至れり。

次で明治三十一年及三十二年の兩年度に亘る事業として下水道改良の工事を起し三十二年十二月所定の工事を完成せり其後明治三十四年迄に明治三十年編入したる新市域の一小部分に對する改良工事をも合せ施行したるを以て市の中央部に於ける下水道改良工事は殆ど全部完成するに至り其の施設として總延長九萬九千五百九間餘の幹枝線と抽水所一箇所とを有するに至れり。右抽水所一箇所は九條にありしが後年境川抽水所改造工事に際して是れを撤廢し第一回下水道改良計畫に於ける境川抽水所に合併せり。

下水處理裝置說明書

一、緒　言

本市の發展に伴ふ人口の增加と工場の激增は市内河川を汚染する傾向著しきを以て之が改善を講ずると共に屎尿處分の難問題を解決すべく下水最後の處理は今や捨て置き難き當面の重要問題となるに至れり本市に於ける新編入町村を含む下水處理の計畫に關しては既に其大要を發表せるものありと雖も之が實施を策するに當りては更に愼重なる調査と細密なる實驗とに俟たざる可からざるは言を要せざる所にして殊に同計畫中一部に施行せらるべき促進汚泥法に關しては既に歐米諸都市にありて大規模の計畫の實施されつゝある現狀なりと雖も之を本市に採用するに當りては下水の成分並に清淨度の如何に應じ構造上並に作業上の諸點に就きて充分なる調査と實驗を遂げ大規模の施設に際し萬違算なきを期せざる可からず是本處理裝置を設けたる所以にして其設置箇所は實驗的設備としての所要地敷面積處理汚水量並に放流河川の汚染度等の諸點を考慮の上尼無川右岸市岡抽水所構内に撰定し大正十三年度に於て第二回下水道改良事業の一部として施工せるものなり。

二、處理の法式と其理論

下水處理の方法は種々ありと雖も現今最も普通に行はれ而も清淨度の高き法式は濾過法と促進汚泥法なり此兩方式は共に細菌的清淨法にして下水中に溶存せる有機性体を空氣の存在の下に好氣性細菌の活動により酸化淸淨するものにして其淨化の程度高きを以て下水の放流に依る河川の汚染を許さゞる所にてするものなり而して尼無川に於ける水運の狀況並に汚染度等を考慮するときは相當高度の淨化を期し得べき處理法たるを要するを以て促進汚泥法を採用せり蓋し本法は現今歐米諸都市に於て下水處理の方法として將に絶對的權威を有するに至るべき趨勢にあるものにして他の處理法に比し卓越せる點は

一、流出水の淸淨と設備の單純なること

二、所要面積の僅少なること

三、處理場附近に於て臭氣の發散少なきこと

四、損失落差比較的少なきこと

等なりされど其欠點とする所は處理に依り生ずる汚泥量が他法に比し最も多量にして其の處置に困難を感ずる點なりと雖も本處理場に於ては後述の如く剩餘汚泥は水運の便を利用して比較的簡單に處分し得るものなり。

今此處理法の原理とする所を概言すれば豫め下水中に空氣を送入し熟化せしめて得たる所謂促進作用を有する汚泥の適量を下水に混和し之を送氣攪拌して下水の消化及分解作用を好氣性細菌の活動に依り行はしむるものにして其結果下水中の浮游物及溶解有機物は略完全に酸化せられ生産せる汚泥を沈澱せしめたる後の流出水は透明にして高度に硝化せられ且下水中に含有せし細菌の大部分は除去せらるゝを以て下水淨化の目的を達成し得るものなり而して沈澱せる汚泥は水分多く腐敗性なれ共窒素含有量多きが故に肥料として價値あるものたるなり。

大阪市

社會部事業概觀

イ、沿革

本市は明治二十二年市制實施と共に窮民救助、貧民施療及棄兒養育規則を制定し、更に同四十二年夏北區の大火に際しては畏くも勅使を差遣せられ金一萬二千圓の御下賜金があり同時に內外篤志家よりも金七十三萬九千餘圓の義捐金があつたので、右の內金三十五萬一千三百八十圓を罹災者一萬二千三百二十五口に對して交附し、殘餘金元利合せて三十五萬二千餘圓に、これと同額の資金を本市より醵出するの趣旨により年々其の利子相當額を補助金として支出することにしたものを合はせこの資財の性質に副ふべき恒久的施設を計畫したのが慈恩救濟を目的とする今日の財團法人弘濟會成立の礎地で大正二年以來本市は同會に對し右補助金を交附してゐる。

越えて大正六年には都市社會衞生の必要に鑑み全國に卒先して肺結核療養所を設立し、亞いで同七年四月には物價の昂騰による市民生活の脅威がその極に達したので臨時市場四ケ所を設置したるも同八月には全國各地に所謂米騷動なるものが勃發し本市民の一部も暴徒化するに至つたので簡易食堂三ケ所を設けると共に市內各所に米の廉賣を行ひ、更に同年九月本市有志者は大阪救濟事業後援會を發起し弘く檄をつたへて救濟資金募集につとめたところ時勢を觀るに敏にして同情を表するに切なる各方面の有志は倏ち資を捐て翕然として之に應じ有力なる後援を與へられたので、翌八年三月を限りその寄附募集を締切つたにもかゝはらず其の後續々寄附の申込ありて募集開始以來の寄附金總額實に九十三萬七千餘圓に達し之に內務委託寄附金十二萬一千餘圓及別途取扱金の利子三月までの分一萬一千餘圓を加算すると優に百七萬圓を突破することゝなつたから、本市は市費及低利資金をこれに加へて今日見るが如き積極的防貧的社會事業を企畫施設するに至つたのである。

斯く本市社會事業は大正七年における所謂米騷動を一轉機として從來慈善救濟又は博愛の名によつて呼ばれて

ゐた消極的救貧的社會事業から社會問題の核心に打つかるといふ性質上の變化を經驗したわけで、その活動の範圍も先天的の弱者や社會生活の落伍者をして各自の環境に適應せしめんとする限りにおいては極めて狹い範圍に限られてゐたが、其の性質が進歩し境遇を改善して其の目的を達成せんとするに至つて各種の方面に積極的運動を試みることゝなつたのは當然である。

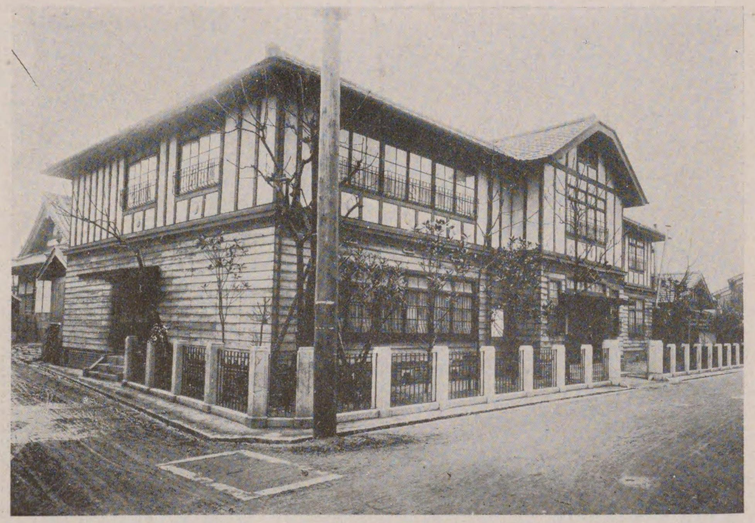
茲において本市の社會事業は從來の如く單に一黨一派又は特殊の階級や職業或はまた特定の人のみを對象とするのでなくて廣く一般民衆の福利を增進する事業と解して差支へないことゝなり、其の施設としてはまづ住宅、簡易食堂、共同宿泊所、職業紹介所、兒童相談所、實費診療所、人事相談所、託兒所、浴場、理髮所、勞働紹介所、產院、少年職業相談所等を新設すると共に一面勞働調査機關を特設して勞働生活の實相を明確忠實に調査研究することによつて實際施設の好參考を提供し、一方結果の發表によつて一般市民の都市社會狀態に對する注意を喚起したほか公設市場の開設、肺結核療養所の完備等に夫々懸命の努力を拂つてゐる。

以上は大體大正九年までの施設であるが其の後引續き產院、住宅、託兒所、浴場、理髮所、公設市場、職業紹介所の施設及市民館、乳兒院、共同宿舍、市民病院、青年宿舍、質舖の新設等によつて一向社會施設の充實擴張につとめたので各種施設はこゝに勢ひ長足の發達を示すことゝなり、事務上の機關も亦當然膨脹せざるを得なかつた。

ロ、組織

本市はこれ等諸施設經營の中心機關として大正七年七月はじめて救濟係を置き從來庶務課の管掌であつた救濟事務を繼承し同年十一月にはこれを救濟課に改めたが、大正九年四月になると更に部制を布いて庶務、事業、職業及兒童の四課より成る社會部を置き、翌十年四月には既設の勞働調査課を合併して庶務、住宅、職業、兒童及調査の五課同十一月には庶務、事業及調査の三課、更に大正十四年十二月より左に表示する如く事業及調査の二課制を採つて今日に及んでゐるといふ風に專ら事務を簡捷にして能率增進をはかるの趣旨において再三課制の改廢を行つてゐる。

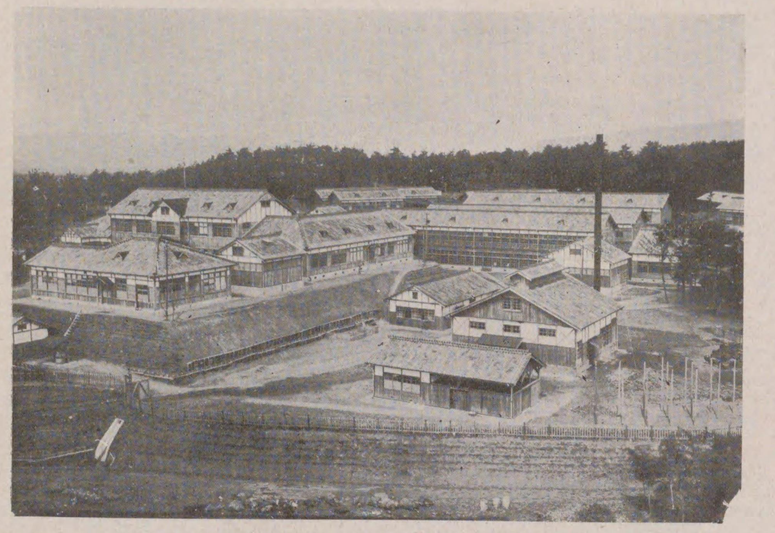
市民館



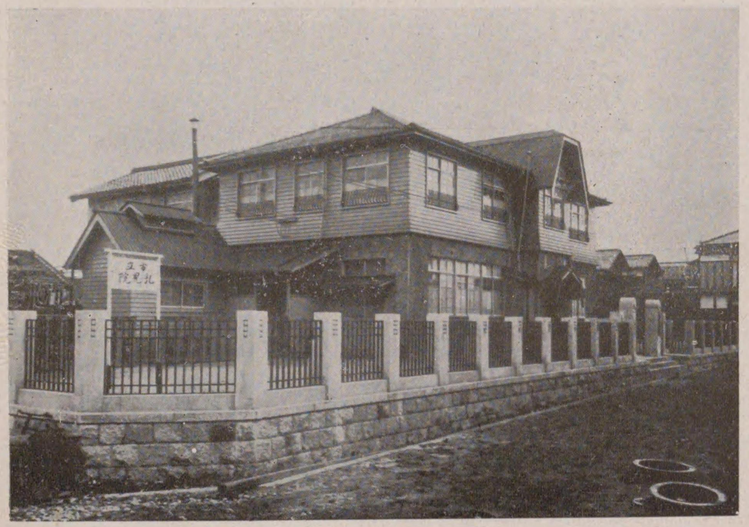
職業紹介所

社會部

- 市民館
  - 調査課
    - 勞働の福祉増進及生活、娯楽、其の他市民の教養に資する為の調査、統計、報告的施設
  - 事業課
    - 住宅係
      - 住宅、宿泊所、託児所、共同浴場、簡易食堂、共同宿泊所、市民の福祉増進に資する為の施設
      - 住宅地区内に於ける住宅保健組織施設、方面連合、警察署との連絡、改善介護、宿泊者の紹介
    - 職業紹介係
      - 今宮職業紹介所
      - 今宮出張所
      - 今宮託児所
      - 今宮宿泊所
      - 今宮共同浴場
      - 今宮共同宿泊所
      - 今宮共同食堂
      - 今宮簡易食堂
      - 今宮住宅
      - 今宮市民館
      - 今宮市民館分館
      - 今宮診療所
      - 今宮保健相談所
      - 今宮人事相談所
      - 今宮理髪所
      - 今宮浴場
      - 今宮託児所
      - 今宮宿泊所
      - 今宮共同浴場
      - 今宮共同宿泊所
      - 今宮共同食堂
      - 今宮住宅
      - 今宮市民館
      - 今宮診療所
      - 今宮保健相談所
      - 今宮人事相談所
      - 今宮理髪所
      - 今宮浴場
      - 今宮託児所
      - 今宮宿泊所
      - 今宮共同浴場
      - 今宮共同宿泊所
      - 今宮共同食堂
      - 今宮簡易



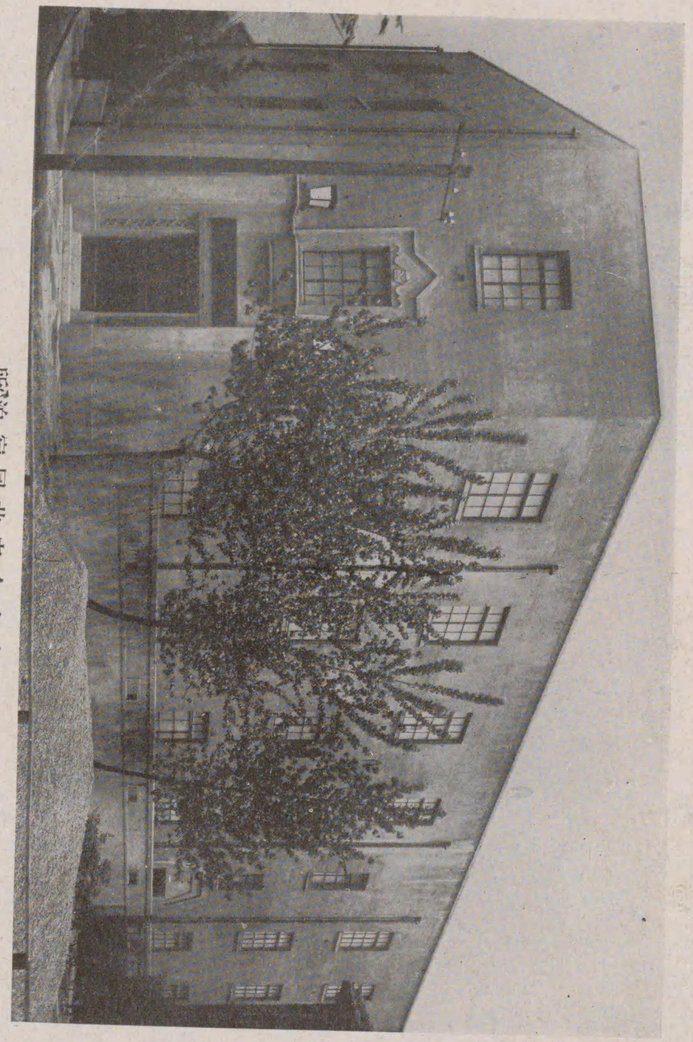
塲浴營市
（一其）



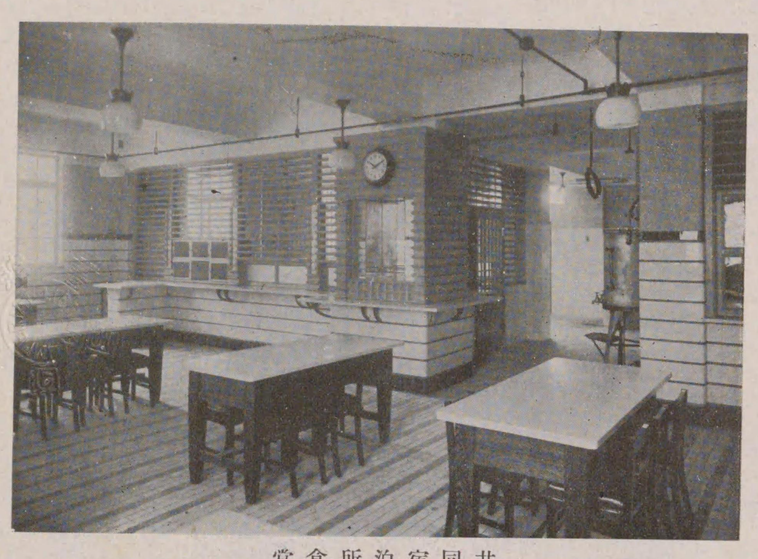
市立乳兒院

塲浴營市
（二其）

刀根山療養所



所寄泊宿同共営今立市
（一　其）

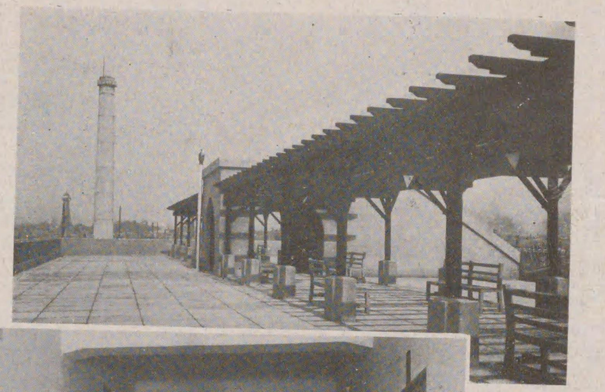


共同宿泊所食堂
（二　其）

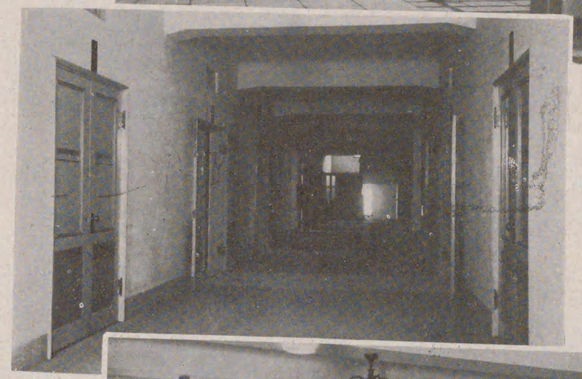
同上寝室
（三　其）

今宮共同宿泊所

（其四）



屋上

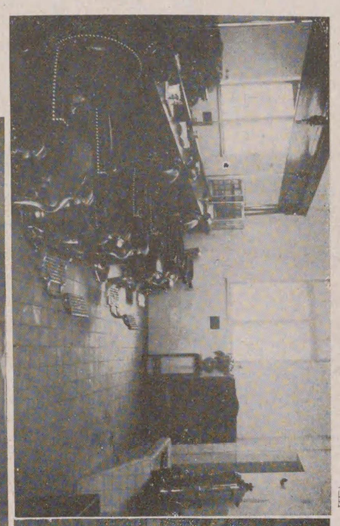


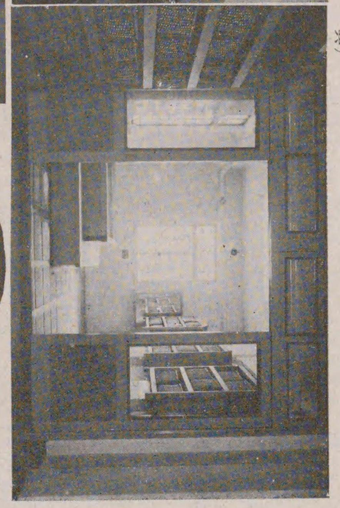
廊下

食堂

今宮共同宿泊所

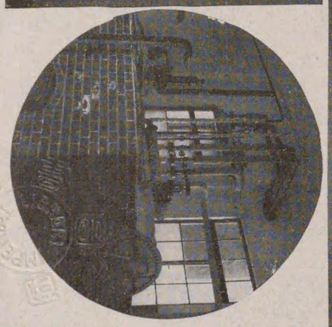
（其五）





理髮室

讀書室



裝汽罐室

市營住宅
（一　其）

上　　同
（二　其）

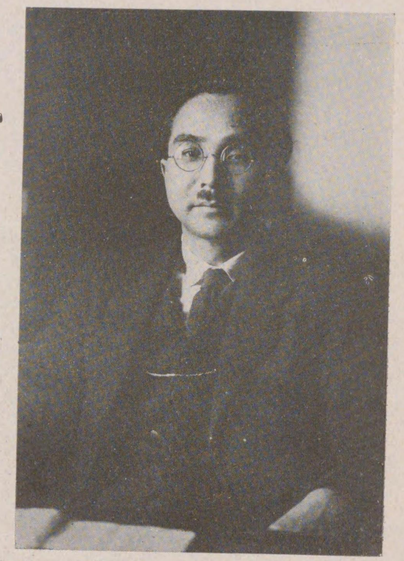
所　　兒　　托
（一　其）

上　　同
（二　其）

財團法人

弘濟會

事業一覽



序言

會長　上山善治

商工業と大阪とは、何れの方面から見ても、言葉の連結がある。これと同樣の意味で、大阪と社會事業とは、近代的な言葉の連結を作つた。從つて大阪が日本一であるならば、社會事業も日本一であらう。のみならず、我大阪の社會事業の歷史は古い。萬治延寬の頃から、元祿享保に渉つて、その事業の蹟を窺ふことが出來る。殊に四天王寺の建立に次いで、敬田院、悲田院等の創設を見たのは、大聖聖德太子の御代千百餘年の昔時である、如斯我國社會事業史の卷頭を有することは、寔に我大阪の誇りとすべきである。

こうした史實を有する點に於ても日本一であると云つてよい。

現今では大阪の社會事業中組織と系統を確立して居るものでは、府の施設市の施設、並に弘濟會の施設である。市の施設は社會政策を中心とし府の施設は第一次救濟を中心とし、弘濟會は最後の救濟中心としてその手を伸ばして居るのである。私は今自己の責任の立場から、弘濟會の持つその意義と抱負とを明白にして置かうと思ふ。

回顧すれば、明治己酉の北區大火に亞ぎ、同四十五年一月、東南兩區に渉つて大火災が起つた、末曾有の悲慘事であつたことは、今尙ほ記憶に存するところである。而してこの間畏くも、皇室から御下賜金の御沙汰を蒙ること二回本市々民は洪大なる聖恩に、感泣したことであらう。公私共に百事を放擲して、

應急善後の處置に沒頭すると共に、皇室の御慈心を如何に永久に記念すべきかに苦心したのである。一面時代の推移と本市の興隆發展とは、社會事業の施設を促すこと急であつた。茲に好個の記念として、また時勢の要求に順應すると共に明治四十四年二月十一日御下賜の勅語中「施療施藥以外濟生ノ道ヲ弘メントス」の御句より弘濟の二字を拜戴して會名となし大正元年八月本會は設立されたのである。

由來社會事業は、時勢の變化に添ふことは必要であるが、その土地と密接なる關係を持つものでなくては、十分の根據を有することが出來ない。社會全般の趨勢から見て必要があるとしても、その土地に不可分の關係を持たねばならぬ。社會事業は決して效果の擧るものではない。この意味に於て、弘濟會はその土地の必要から生れたものであるが故に、存在の意義が如何に深いものであるかを知ることが出來る。從つて大阪市勢の進運に依る弘濟會の進運は當然である。私はこの關係を進んで考察して置こう。

惟ふに、凡そ都市の興隆發展には、常に多大の犧牲を拂ふことは、都市の發展史に潛む事實である。我が土大阪は素晴しい發展をした。正に我國第一の大都市であると云つてよい。乍然、蹶つてその內部を視るならば、日に月に貧富、幸不幸の隔りが大きくなり、地上の悲しき人々が增加して行く。そは貧と病と孤獨と錯綜に苦しむ人々である。文明大都市發展の一面には如斯き悲慘な境遇の人々が呻きの涙を絞つてゐるのであるが。誠に弘濟會に於て大正元年から昭和二年三月までに救助收容した總人員を見るならば、四百七十七萬九千四百人である。如何にその多數であるかを知ることが出來やう。これ大都市の發展に共ふ何人も深く注意せざる犧牲である。而して如斯き多數の貧困ドン底生活者の存在とその增加は單に彼等が持つ運命や、自業自得であると斷定出來ないほど社會の情勢の變化に關係がある。即ち我等が生存する社會に內在せる種々の缺陷がその原因をなして居るのである。一人の生存の幸と不幸とは社會的原因からであることは、決して否定出來ないと共に、現代が持たねばならぬ良心の認定である。

一人の生活に表れたる悲慘は、社會の大より見るならば極めて小であるかも知れないが、その一人の生存と完ふせしむることが社會自体の責任ではないか、私はこの一點に社會から着目してほしい。

大阪市の發展と極貧者の逐次增加と、社會事業と、社會連帶責任と、極貧者生存の保護との合理的關係に思ひを潛めて、我が弘濟會は、大阪市勢の進運と共に將來に向つて進出を爲しつゝあるものである。

本會の目的と構成及維持

本會の目的、構成、及び維持方法は、左記寄附行爲の示す通りである。

社團法人 **弘濟會寄附行爲**

第一章 名稱

第一條 本會ハ財團法人弘濟會ト稱ス

第二章 目的及事業

第二條 本會ハ大阪市明治巳酉火災罹災者廢兵軍人遺族家族ノ授産及養育其他一般慈惠救濟ニ關スル事業ヲ擧グルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、巳酉火災罹災者中救助ヲ要スルモノヽ授産及ビ養育
二、陸海軍人遺族家族中救助ヲ要スルモノヽ授産及ビ養育
三、棄兒及ビ孤兒貧兒等ノ養育
四、窮民ノ救濟
五、浮浪無賴者ノ授産及感化
但シ當分ノ內免囚及不良少年ヲ除ク
六、救貧病院
七、救療施藥

第四條 左ニ列記スル事業ハ資産ノ充實ト會務ノ整頓トニ隨ヒ漸次施行スルモノトス

一、廢兵授産
二、貧民子女ノ晝間保育
三、簡易貧兒幼稚園
四、貧民子守教育(晝間)
五、貧兒教育(夜間)

六、勞働者ノ職業紹介及無料代書

第三章 事務所

第五條 本會事務所ハ假ニ大阪府大阪市役所內ニ置ク
但評議員會ノ議決ヲ經テ且ツ主務官廳ノ認可ヲ受ケ之レヲ變更スルコトアルベシ

第四章 資產及會員

第六條 本會設立ノ日ニ於ケル資產ハ大阪市明治巳酉火災ニ關スル義捐金中ノ處分殘餘元利金參拾五萬貳千五百貳拾參圓トス

第七條 基本財產ノ設定及動產ヲ不動產ニ不動產ヲ動產ニ變更セントスルトキハ評議員會ノ決議ヲ要ス

第八條 基本財產ハ總テ他ノ資產ト區別シテ之レヲ管理シ其元資ハ之レヲ保存スルモノトス基本財產ハ評議員三分ノ二以上同意ヲ得且ツ正副總理ノ承認ヲ經テ之レヲ處分スルコトヲ得

第九條 本會ノ資產ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若クハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入シ利殖ヲ圖ルモノトス

第十條 本會ノ經費ハ資產及事業ヨリ生ズル收入並ニ大阪府及大阪市ヨリ受クル補助金及下渡金ヲ以テ支辨ス

第十一條 本財團寬贊ノ爲メ寄附ヲ受ケタル金品ハ凡テ之レヲ基本財產ニ編入ス
但シ其目的ヲ指定シタルモノハ其用途ニ充ツ

第十二條 本會ノ事業ヲ寬贊スルモノハ會員ト稱ス會員ノ種類及待遇ハ別ニ之レヲ定ム

第十三條 每會計年度ノ終リニ於テ剩餘金アルトキハ基本財產又ハ事業擴張準備金ニ編入ス但シ剩餘金ノ一部ニ限リ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第五章 役員

第十六條 本會ニ正副總理、會長各一人、及理事、監事各三人、評議員廿人以內、相談役、顧問各若干名ヲ置ク
總理ハ大阪府知事ノ職ニ在ル者副總理ハ大阪市長ノ職ニ在ル者ヲ推戴シ理事及監事ハ評議員會ニ於テ推薦シ正副總理ノ承認ヲ受クルモノトス

會長ハ理事中ニ就キ正副總理ノ指名ニ依リ上任ス

第十七條 正副總理ハ會務ヲ董督ス

第十八條 會長ハ命ヲ正副總理ニ承ケ本會ヲ代表シ事務員醫員等ヲ指揮シ一切ノ事務ヲ處理ス會長故障アルトキハ正副總理ノ指定シタル理事代ツテ共職務ヲ行フ

第十九條 理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ臨時評議員會ヲ開キ補缺推薦ヲ行フ若シ直チニ補缺推薦ノ必要ナキトキハ次期ノ定期評議員會又ハ他ノ理事監事ノ改任期ヲ俟ツコトアルベシ

第二十條 評議員及相談役顧問ハ正副總理之レヲ囑託ス

第二十一條 理事ノ任期ハ五年監事及評議員ノ任期ハ二年トス、但再任ヲ妨ゲズ

第二十二條 役員補缺ノ任期ハ前任者ノ後任期間トス

第二十三條 理事及ビ監事ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ其後任者ノ就職スル迄ハ仍ホ前任者ニ於テ其職務ヲ行フモノトス

第二十四條 本會ニ事務員、教師、醫員、藥劑手、及授業師各若干名ヲ置ク

第六章 評議員會

第二十五條 評議員會ハ每年二回之ヲ開ク評議員會ハ議長之ヲ召集ス
但議長ニ於テ必要ト認メタル時ハ臨時之ヲ召集シ若クハ書面ヲ以テ議決ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 監事又ハ評議員三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ臨時評議員會ヲ開クコトヲ要ス

第二十七條 評議員會ノ議長ハ副總理之ニ當ル副總理故障アルトキハ會長之ヲ代理ス
評議員會ノ議長及書面議決ハ總テ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル

第二十八條 評議員會ハ評議員四分ノ一以上出席スルニ非ラザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ
但シ同一ノ事項ニ付再會召集ノ場合ハ此限リニ在ラズ

第七章 補則

第二十九條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル規程ハ評議員會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定メ正副總理ノ承認ヲ受クルモノトス

第三十條 將來此ノ寄附行爲ノ條項ヲ變更セントスルトキハ評議員四分ノ三以上ノ同意ヲ經テ正副總理ノ承認ヲ受ケ且ツ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第八章 附則

第三十一條 本會設立ノ後初次ノ役員ニ對スル推薦及ビ囑託ハ總テ設立者之ヲ行フ

第三十二條 理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者理事ノ職務ヲ行フ

會計狀況

昭和元年(大正十五年)度

收入	三四四、三八〇圓	創立以來累計 四、三三七、二六二圓
支出	三一一、〇一五圓	創立以來累計 三、二六七、八八一圓
資產	一、二九四、八四六圓	

本會の役員と名譽職員並に職員

昭和二年十一月末日に於ける本會の役員名譽職員並に職員は左の通りである

本會役員

總理	大阪府知事	田邊治通
副總理	大阪市長 法學博士	關一
理事	前大阪市助役	有田邦敬
同	大阪府學務部長	上田莊太郎
同	弘濟會長	上山善治
監事	大阪市收入役	北岡八矢雄
同	大阪府社會長	大谷繁次郎
評議員	辯護士	乾吉治郎
同	實業家	泉仁三郎
同	大阪動物愛護會理事長	稻田穫
同	ドクトルメヂチネー	緒方銈次郎
同	衆議院議員	片岡直温
同	大阪府務長	小栗一雄
同	醫學博士	高安道成
同	大阪府警察部長	村井八郎
同	大阪朝日新聞社長	村山龍平
同	辯理士	山口房五郎
同	大阪市會議員	增田種松
同	實業家	前島右市郎
同	男爵	藤田平太郎
同	實業家	二川茂助
同	實業家	尼崎伊三郎
同	住友合資會社理事	湯川寬吉
同	大阪市會議長	白川朋吉

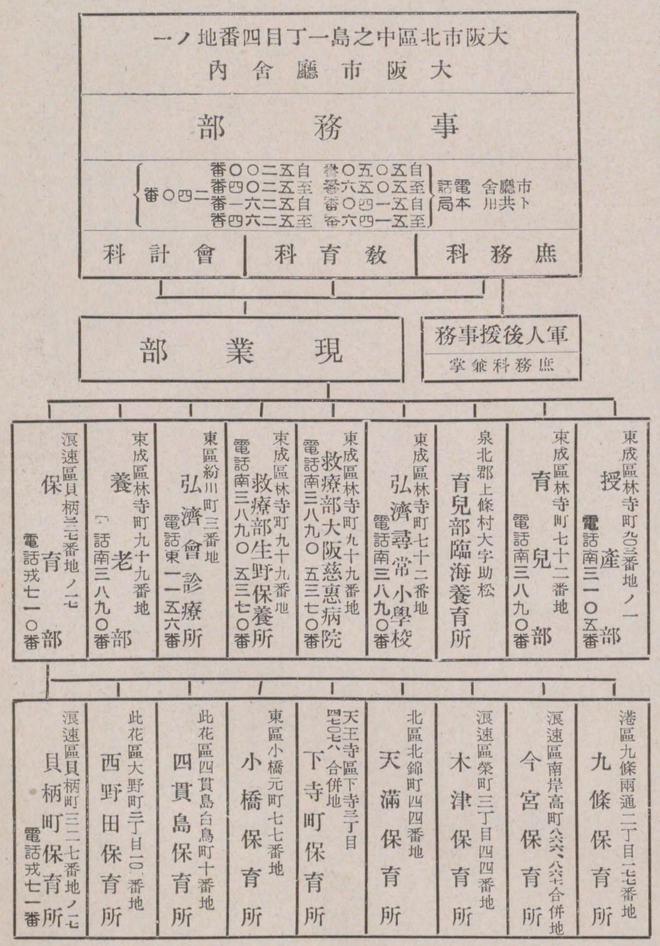
名譽職員

	ドクトルメヂチネー	緒方銈次郎
	醫學博士	高安道成
	醫學博士	緒方祐將
	ドクトルメヂチネー	內藤達

會務の分掌と施設

本會事務所は大阪市廳内にある。其の執務の方法は大体のそれに準じて居る、本會の事務一切は此處に統轄せられ、對外的の交涉は總て此處を通じて行はれる、會長、事務長は常務として日々本事務所に出勤して、正副總理董督の下に會務を掌理し、重要の案件は寄附行爲の定むるところによつて評議員會を開き之に諮る。尚本會議諸般の事務を處理する爲め本事務所に左の三科を置き各主任を配して事務を分掌して居る。

業務組織



(一) 事務部

〔イ〕 庶務科　人事、文書、議事、豫算、決算、契約、財産管理並に軍人及軍人遺家族援護等に關する事項を管掌する。

〔ロ〕 教育科　一般收容者の感化教養、文化施設及統計調査作成並に會報編纂等に關する事項を管掌する。

〔ハ〕 會計科　金錢の出納、物品の購買並に保管等經理に關する事項を管掌する。

以上は本會に於ける事務部であるが、此外に收容者に接して、現に事業を遂行しつゝある所を現業部と稱し、左の五部一校一院十二所に別れて職務を分掌して居る。

(二) 現業部

〔イ〕 授産科　浮浪無賴者の感化的授産並に之れに附帶して軍人及軍人遺家族中の援護的授産を要するもの及び其他の授産事業を管掌する

當部は明治十二年頃小林佐兵衛なる人が、獨力で市内に小林授産場と云ふを創設して、浮浪無賴の徒や貧困者を收容したのが濫觴である、爾來幾變遷して大正元年十二月十七日に、北區牛丸町四十番地の土地建物其他の一切を本會が買收すると同時に、其收容者も全部之を引受け、漸次內容も改善したが、屋舍も破損し且つ狹隘を感ずるに至つたので、大正五年七月西成郡豊崎町北長柄に新築移轉し、更に大正十三年十一月現在の位置に改築移轉して、密針、印刷、製袋、精米の業を授けて居る。

〔ロ〕 育兒部　棄兒、迷兒、幼少の市救助人及準行旅病人等の哺育教養を管掌する。

當部は元大阪汎愛扶殖會の使用する所であつたが、大正二年二月二十五日本會が買收して改善を加へ、超へて五月三日從來大阪市より博愛社、愛育社、汎愛扶殖會へ委託して居た棄兒、孤兒、貧兒等を引受けて事業を開始したのであるが、當時は構內に養老部、救療部、保養所等が併置してあつたのを、大正三年十一月に隣地に移したので稍病室の設備や家庭の配當や庭園の姿態等趣を整ふるに至つたが、年々と曆を重ぬるに從つて、收容兒童も增加し十五六歲以上の年長兒も相當多きに及んだので、大正六年七月には更に隣接の汎愛扶殖會殘存建物をも買收して屋舍を擴張し、更に大正六年八月十五日には當部の內に左記臨海養育所の一所を新設した。

臨海養育所　育兒部收容者中には、往々先天的に身体の羸弱なる者や、境遇上性格の險惡執拗な者があつて、之等は醫療を加ふるよりも轉地靜養を可とする理由から夙に此點に留意して居たが、之等兒童を嚴密に診定した結果、海養轉地を可とするものが山地轉地のものよりも常に多數であるので、先事一着手として臨海養育所を泉北郡上條村に新築したのである。

〔ハ〕 弘濟尋常小學校　育兒部收容兒童の學齡に達した者其他を入學通校せしめて義務教育を施す機關である。

本校は大正二年五月二十六日に大阪府知事の認可を受け、同年六月二日に創立し、同年十月三十日には教育勅語を拜戴した。

〔ニ〕 救療部　救貧的施藥施療、一般收容者の醫療及び健康診斷、並に一般收容所の衛生事務等を管掌する。當部は更に左記大阪慈惠病院生野保養所、弘濟會診療所の一院二所に分れて居る。

大阪慈惠病院　行旅病人、市救助人、本會特別救助人等其他救療患者の入院並に會內他部收容者の通院及會內全般の醫事衛生を掌り、尙軍人遺家族及廢兵中入院又は通院を要する者を取扱ふ、特に院內には癩患者の假收容所をも併置してある。

當院は明治二十一年六月二十一日大阪市に貧民救療の機關なきを憂ひて、有志相諮り、慈惠會と云ふを組織し、東區唐物町一丁目圓光寺內に假病舍を設けて之れを、大阪慈惠病院と稱したのが始めである、同年十一月には之れを同區北久太郎町一丁目元浪速尋常小學校跡に移し、更に明治二十七

年一月には同區粉川町の府有地を無料借用の許可を得て之れに移轉した、爾來漸次に事業を擴張したが、大正二年五月一日に至つて、基本財産並に建物設備等一切を擧げて當時收容しつゝありし府市委託の行旅病人、準行旅病人、市救助患者、濟生會患者等と共に之れを本會に提供したので、此時より名稱を弘濟會救療部大阪慈惠病院と改め益々內容の改善を計り、大正十三年十二月一日現在の位置に改築移轉したのである。

生野保養所　大阪慈惠病院の保養機關であつて癒疾者又は病後の輕快者を轉收して給養せしめ、心身の治療を期する。

當所は養老部と共に育兒部の前身たる、大阪汎愛扶殖會の使用樣內にあつたのを、大正三年十一月九日隣地なる現在の位置に移轉したものであつて肺結核寮をも併置してある。

弘濟病院　一般勤勞生活者の實費醫療機關であつて疾病傷疾の爲生活の脅威を受け又は受る虞ある人々に最も適當なる料金を定め容易に入院又は通院を得せしめてゐる、尙院內には看護婦養成所が併置してある。當院は大正九年五月十日元大阪慈惠病院の一部を利用して開設し、弘濟會實費診療所と稱して入院並に通院の患者を取扱ふて來たが、大阪慈惠病院が移轉したので其跡へ鐵筋コンクリート三階建の獨立した完全なものを建築し大正十五年二月二十日弘濟病院と改稱して今日に至つたもので晝夜を通して開院してゐる。

〔ホ〕 養老部　窮困なる積齡市救助人準行旅病人並に本會特別救助人等を收容救護する。

當部は保養所と共に育兒部の前身たる、大阪汎愛扶殖會の使用樣內にあつて、大正二年五月三日、嘗て大阪市より財團法人大阪養老院に委托せられて居た積齡者を引受け事業を開始したのであるが、大正三年十一月九日、隣地なる現在の位置に移轉し更に大正十三年十二月救療部大阪慈惠病院の改築移轉と共に多少其の容姿を改めた。

〔ヘ〕 保育部　市內在住の勞働者又は細民中、幼兒が足手纏ひになつて充分に能力を發揮することが出來ない人々の爲めに、晝間その兒童を預り、家庭に代つて保育の任に當り、教育及び衞生の見地から之を保育すると共に、その兒童の愛を通じて家庭の薰化隣保の善導を圖つてゐる。

當部は大正二年十一月二十五日に開設せられ、直接兒童を收容する所を保育所と稱し、市內に九ケ所を分設して居る、夫等保育所は特に勞働者細民の生活地區を撰んで設置し、各所に保姆長保姆を配置し之れを統轄する所を保育部と稱し、創設當時は元南區の木津北島町二丁目五十四番地に置いたが大正三年六月一日には、南高岸町八百六十六番地に移轉し、更に大正八年二月十六日には新築落成した現在の位置に移轉した、保育所は初めは市內に散在して四ケ所を設けた、即ち、九條、今宮、木津、天滿の四保育所は最も古く、大正二年十二月から開始した、而して大正三年二月には下寺町保育所を大正四年五月には小橋保育所を同年六月には四貫島保育所を大正八年二月には貝柄町保育所を同年三月には西野田保育所を漸次に增設して來て、現今では九ケ所の保育所を有することゝなつた、更に內容の改善については大正四年十月には保育部內に醫療設備を施して從來の保育方針に一步を進め兒童の家庭は勿論その附近一帶の細民病者の救療に着手し、更に大正六年八月には相談部を置いて書面や願屆の代讀代書に應じ、失業者の爲めには職業の紹介をなし、疾病其他不幸の場合には之れに處する方法を指示し、尙又各保育所の創立記念式には、父兄母姉を案內して保育の狀況を知らしめ諸種の講話等に依つて修業と慰安とを計り、特に坐談式に據る家庭會は、隔月一回宛各保育所にて行ひ、實際教育の方法に依つて家政、育兒及躾方を指導し、保姆長保姆は常に保育兒の家庭を訪問して相互の連絡を計り、又文化運動の一方法として、每月各保育所を巡つて演藝會を催し、附近の人達に公開し、淸新なる和洋音樂を提供して趣味の向上を計り、一方美しい子守唄を宣傳すると共に

兒童の教養衞生貯金等に關する民謠の宣傳を行ひ、更に又貯金は家庭の生活を安定し、向上の念を起さしむるを以て、機會ある毎に之れが勸誘に力めて居る。

九條保育所　大正二年十二月一日開所
今宮保育所　大正二年十二月六日開所
木津保育所　大正二年十二月十九日開所
天滿保育所　大正二年十二月二十四日開所
下寺町保育所　大正三年二月一日開所
小橋保育所　大正四年五月十八日開所
四貫島保育所　大正四年六月一日開所
貝柄町保育所　大正八年二月十六日開所
西野田保育所　大正八年三月一日開所

(三) 軍人援護事業

本事業は本會寄附行爲第二條に定められた廢兵軍人遺家族の授産及養育を行ふものであつて、詳說すれば公的の救助を受くるも尙充分ならざる者に對する補助、戶籍上の關係等により全然公的の×助を受くること能はざる者の救助、現役兵にして入營後家計困難となり公的救助によれば兵役免除となるべき筈の者に對しその家族の援護等である。

本事業は本會創立後間もなき、大正二年の三月に、元大阪市報効會寄附金計金參萬四千壹百四拾八圓四拾九錢七厘及び帝國軍人援護會寄贈の援護金計金貳萬九千壹百四拾六圓六拾壹錢七厘を大阪市より下附を受けてその事業を繼承したのに初まり、左の三種の方法によりこの事務は別に現業部として獨立せず、本會庶務科で兼掌して居る。

收容援護　疾病又は看護者なき老少者其他家庭の事情により自宅に於て援護する能はざる者は本會各部所に收容するものにして、授産援護、入院援護の二種に區別する。

自宅援護　軍人遺家族の面目を保ち、相當の職業に從事せしめ、幾分の收入を得せしめつゝ、自宅に於て生活費を補助する。

通院援護　輕症病者は在鄉軍人會方面委員の手を經、或は本會病院より直接診療券を交付して救療部大阪慈惠病院に通院せしめる。

取扱上の種別と收容の經路並に處遇法

(一) 取扱上の種別

〔イ〕本會特別救助人　第一は明治巳酉の北區大火罹災者中市窮民の取扱を受くるに至れる不幸な人々で、第二は本會が特に救助の必要ありと認めたる者第三は本會に收容中の棄兒又は極貧者にして滿十三歲に達したる爲め公費の救助を廢停せられた收容者である。

〔ロ〕棄兒及迷兒　嬰兒若くは匍匐兒にして道路又は公衆集散の場所等に遺棄せられたる棄兒並に扶養者を離れたる迷兒を收容する然し迷兒にして往々棄兒に編入せらるゝものがある。

〔ハ〕市救助人　大阪市在籍者又は寄留者にして自活し得ざる貧困者は、市救助人(市窮民)として收容する。

〔ニ〕行旅病人　大阪市に居住の實蹟なき者、若くは行旅中にある者等にして、疾病の爲め自活し得ざる者を收容する。

〔ホ〕準行旅病人　行旅病人の携帶兒、同伴者、或は浮浪の少年少女、又は老者にして自活し得ざる者等にして、何れも當時無病の者を收容する。

〔ヘ〕一時救護癩患者　癩患の疑ある者、若くは癩患と決定したるも收容所の都合等にて直に送致し得ざる場合に一時之を收容する。

〔ト〕軍人遺家族及廢兵　本會の寄附行爲に基き特別經濟を以て入院又は收容をなすもの及通院援護又は自宅援護をなすものである。

〔チ〕實費支辨患者及收容　特に入院又は收容を希望するものにして幾分資力ありその必要を認めたるものに對しては實費を徵收して收容する。

〔リ〕保育兒　保育部所屬の保育所に於て保育料を徵し勤勞階級兒女の晝間保育をなす。

〔ヌ〕授產生　特に授產部の作業所に於て教育を受けんと希望する大阪市住民の子女にして適當と認めたるものに對して入所又は通所せしめる。

〔ル〕實費診療患者　本會の特別經濟を以て經營する弘濟病院に於ては一般勤勞生活者の爲めに最も適當なる料金を定めて容易に患者の入院又は通院を得せしめる。

(二) 收容の經路

〔イ〕本會特別救助人〔ト〕軍人遺家族及廢兵〔チ〕實費支辨患者及收容者等以上三種に屬する者は、本會に於て、或は本人の申出により、或は關係官衙の照會によつて本會が直接に收容方法を採ることが出來るけれども、〔ロ〕棄兒及迷兒〔ハ〕市救助人〔ニ〕行旅病人〔ホ〕準行旅病人〔ヘ〕一時救護癩患者等以上五種に屬する者にありては、總て一旦市內の十三區役所の手を經て、委託の形式により收容せらるゝのであつて、前者の救護費は本會の負擔する處なれども、後者の救護費は契約によつて、一定の救護料を府市から本會に下附せらるゝのである。

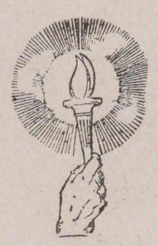
(三) 收容者處遇法

收容者の種類により一定した規矩を設くることは出來ぬが、大体に於て本會の主義とする處は左の通りである。

〔イ〕境遇漸變主義　收容者の境遇が救護を受けたが爲めに、俄かに贅澤又は華美に流れるのを避ける爲めに、衣食の二點はなるべく收容前の狀態と大差なき樣出來得る限り質素を旨とせしめて居る。

〔ロ〕勤勞不斷主義　人の德は勤勞にありとし、病者と雖も輕快に赴き醫療の妨げとならざる限りは老幼男女を問はず、總て相應の勤勞に服せしめて居る、固より老者病者には決して強要はせぬが而し奬勵はして居る。

以上の二主義は本會收容者處遇上の大綱であつて、時には篤志家を聘して宗教上の訓話を聞かしめ、或は作業並に教育と相俟つて品性の陶冶を圖り、或は貯金を奬勵して將來自活の途を啓かしめ、或は保育部に於ては保育兒を保護教養するに止まらず、進んで其家庭は勿論附近地區一帶の隣保改善に向つて培ひ、以て苟も機會を逸せざらんことを期しつゝある。



取扱狀況

左に掲ぐる(イ)(ロ)(ハ)の三表中には軍人遺家族及廢兵中の自宅援護並に通院に屬する者は之を算入せず、但し(ロ)(ハ)の二表中には實費診療患者中の入院に屬する者にして大正九年より大正十三年までに取扱たる者は實費支辨患者及支辨收容者と共に一括して實費支辨者の項に入れたり、(ニ)の表に於ては本會取扱者の全部を統計せり

(イ) 昭和元年中取扱人員出入表

種別	性別	入員 新入	入員 轉入	入員 計	出員 退出 單獨	出員 退出 引渡	出員 退出 送還	出員 退出 脫出	出員 死亡 火葬	出員 死亡 埋葬	出員 死亡 渡轉	出員 計	年末現在人員	延人員	一日平均人員
本會特別救助人	男	三五	四	三九	一				一			二	三八	三一、五九三	五八、四一
	女	三	一	四										八一、七二四	
軍人廢兵遺家族	男														
	女														
授產生	男	一四	六	二〇	二							二	二三	一、一〇三	四、八七
	女	三	四	七										六七四	
保育兒	男	二五	七四	九九	三				一			四	三五	七八、二八一	三八、四一
	女	二一	六九	九〇										五八、一九二	
棄兒	男	二五	一四	三九	三				一			四	三五	八、九九五	三九、一三
	女	一四	三	一七										五、二九一	
迷兒	男	一	一	二										四九七	〇、五三
	女														
市救助人	男	三	一	四										六五、六九五	三五、六〇
	女	一		一										三八、三四六	
行旅病人	男	三	一	四										六五、六九七	三五、六〇
	女	一		一										三八、三四六	
準行旅病人	男	四	一	五										一〇一、八八一	五四、八〇
	女	一		一										六五、六九七	
一時救護癩患者	男	一		一										三八、三四六	
	女														
特別實費支辨患者	男														
	女														
實費支辨收容者	男														
	女														
計	男	七四	一九	九三	六				二			八	四二	四、八七	二五八、四一
	女	四二	一四	五六										六七四	
合計		一一六	三三	一四九	六				二			八	四二	五、五六一	二九四、〇八

(ロ) 累年取扱者表

會員	性別	年次	延人員
本會特別救助人	男	大正元年	一、四五八
	女		
軍人廢兵遺家族	男	全二年	一、〇一四
	女		
授產生	男	全三年	一、〇五五
	女		
保育兒	男	同四年	一、一〇五
	女		
棄兒	男	全五年	一、一八八
	女		
迷兒	男	全六年	一、二〇九
	女		
市救助人	男	全七年	一、二〇五
	女		
行旅病人	男	全八年	一、二一二
	女		
準行旅病人	男	全九年	一、二一二
	女		
一時救護癩患者	男		
	女		
濟會患者	男		
	女		
實費支辨者	男		
	女		
計	男		一、四五八
	女		
合計			二、九四五

（八）累年退出者表

年次	性別	本會特別救助人	軍人遺家族	廢兵	授産生	保育児	薬児	迷児	市救助人	行旅病人	準行旅病人	一時救護患者	済会生患者	實費支辦者	計	合計
大正元年	男	二													二	一、〇〇三
	女															一、〇〇三
二年	男	七	一一			七	一四	三	四		一五	一四	三	一四	一〇三	三、〇一七
	女	三	一一			二	一四	八	一四		一五	一四	三	一四	一〇三	三、〇一七
三年	男	五四	六			三一	三一	三五	八四	一五三	六八	一四	一	一四	三一五	三、三三二
	女	五四	六			三一	三一	三五	八四	一五三	六八	一四	一	一四	三一五	三、三三二
四年	男	三一	一〇			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	三一	一〇			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
五年	男	二九	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	二九	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
六年	男	二六	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	二六	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
七年	男	二四	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	二四	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
八年	男	二二	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	二二	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
九年	男	二〇	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	二〇	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
十年	男	一八	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	一八	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
十一年	男	一六	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	一六	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
十二年	男	一四	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	一四	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
十三年	男	一二	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	一二	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
十四年	男	一〇	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	一〇	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
昭和元年	男	八	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	八	一四			一五	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
計	男	一四一	一七九			一七	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
	女	一四一	一七九			一七	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三
合計		一四一	一七九			一七	一六	一五	一〇	一四	一〇	一四	一	一四	一四一	三、四七三

（二）各部所別取扱人員表

部所別	人員	昭和元年中取扱人員 實人員	昭和元年中取扱人員 延人員	創立以來累計取扱人員 實人員	創立以來累計取扱人員 延人員
授産部		一二	一四、六九一	二、二九四	二四、七〇六八
育児部		一四五	二〇、九五一	一、六六六	一四、五五二五
救療部大阪慈恵病院		一、二三三	一〇一、三六三	一八、四三七	九五、四一〇
救療部生野保養所		一八四	三〇、六二一	三、七七八	四六三、二四
弘濟病院		二五、二五四	八〇、九四七	二九、二三〇	八〇、一〇一
養老部		二三三	二四、四七二	一、三〇五	一一、六三〇
保育部		七四六	七、四三五	一、五五一、九四四	一一、六三〇
軍人援護事業		三	一八、二〇六	七六、八一七	六九六、四〇四
合計		四五、九四二	二四五、八九二	六九、〇六四	六九六、四〇四

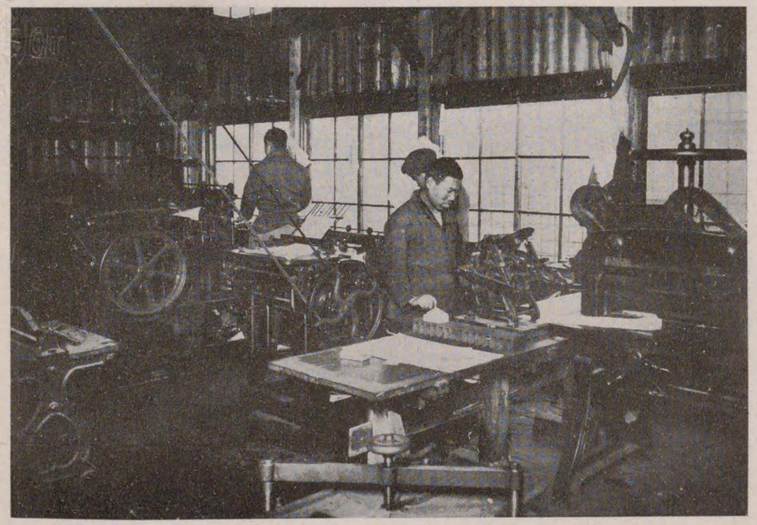
景全部產授

弘濟會授產部

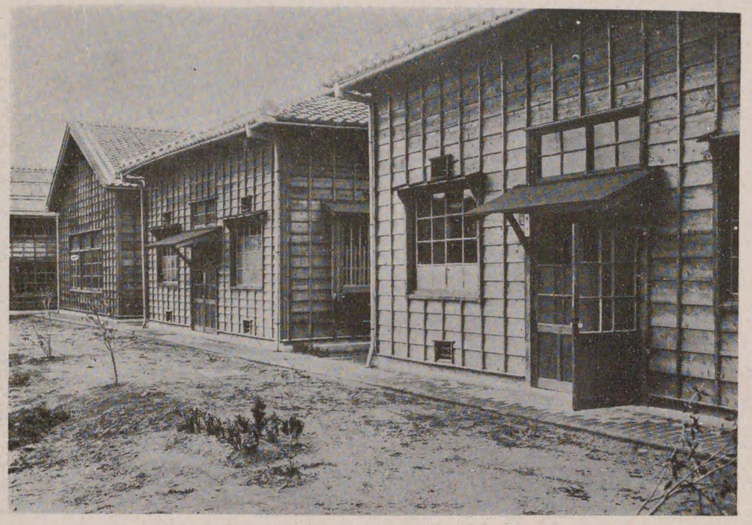
（東成區林寺町弁天番地ノ一）
（電話南三一〇五番）

住むに家なく、街から街を浮浪してゐた十四歳以上の青少年や職を失した人達は、授産部に收容せられて、感化的授産を受けて將來獨立自營の出來得るやうに訓育を受ける他、軍人遺家族及廢兵中授産を要する者、並に外來の人達にもその境遇と適性に應じて、洋裁縫、印刷、製本、木工、造花、精米等の作業教室に送られる。尚製品は原價で販賣してゐる。

洋裁縫教室

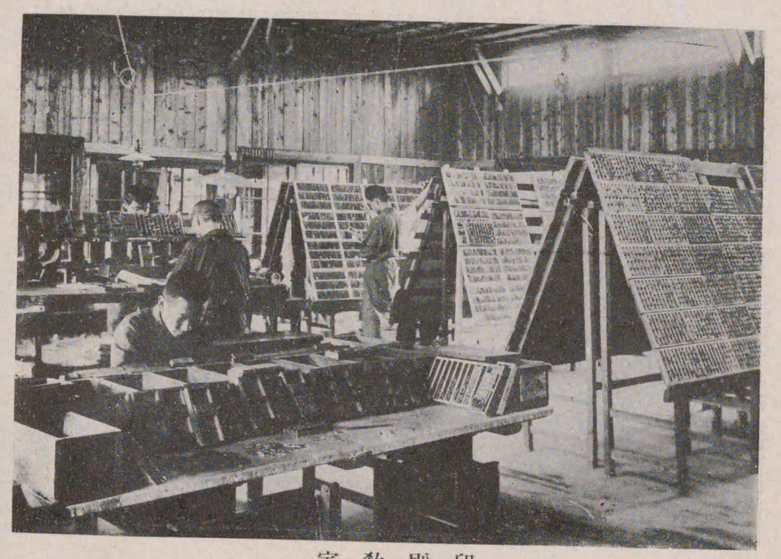


同上印刷室



舍　　寮
（五　其）

動　　運
（六　其）



室教刷印
（三　其）

室教本製
（四　其）

弘濟會育兒部

東成區林寺町七十二番地
電話南三一〇五番

生れながら父母の顔さへ知らぬ薄倖な子供達や、寄邊なき可憐な子供等は。こゝに收容して將來立派な人間に仕上げるやうに教養してゐる。

學齡兒童は部内の弘濟尋常小學校に就學せしめ、身体の弱い者は臨海養育所に保養せしめる。尚赤ん坊は里子委托制を採用して、自然に惠まれた近郊に委托する。成績の優秀な者は更に進んで上級學校に進修させると共にその他年長兒は附屬農園に勤勞教育を施し或は家事見習や徒弟見習と修業に出す。

育兒部全景

家庭の一部

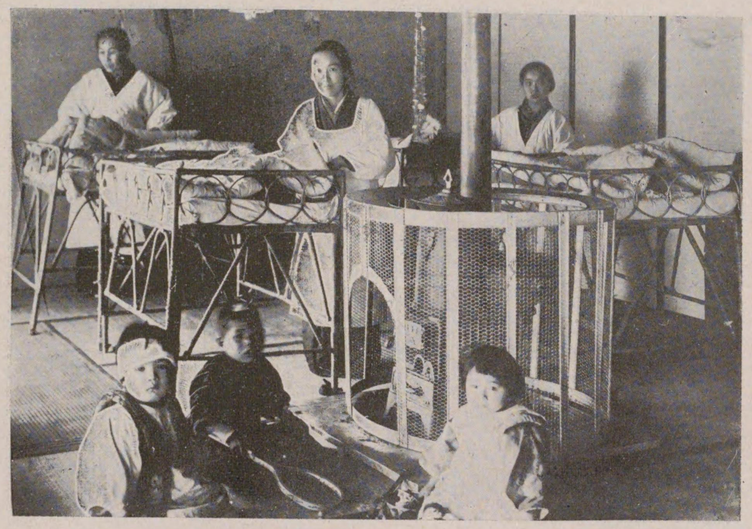
(弱き子供達のために設けられた家庭で凡ては斯うして健かれと育まれて行く)

生母と別れた「赤ちやん」も
献身的な保姆の温かい
手によつて育てられる

（乳兒室の一部）

勤労の精神を體得せしめる爲
に學校の放課後は伸び行く彼
等の前途になければならぬ力
を養ふために、自然を相手に
合同作業を行ふ。

（農　場）



臨海養育所の全景

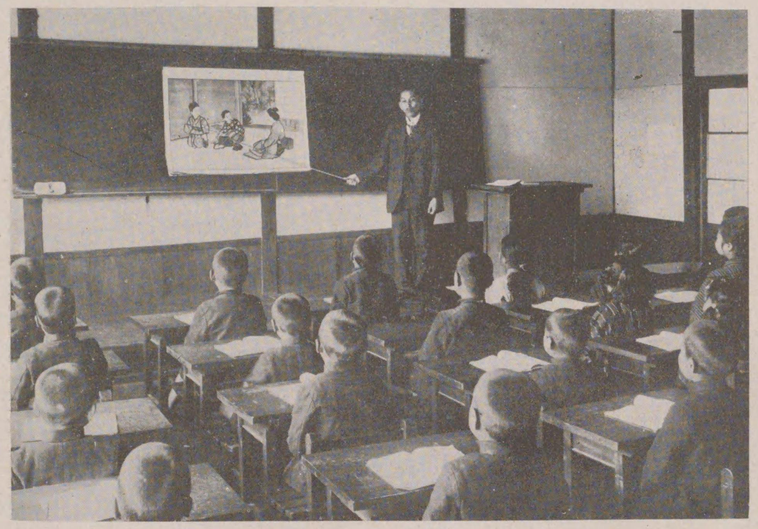
日一の活生海臨

本所は病弱兒童のため特に設けたもので、清淨な海氣の中に、健康へ導いて居る。謂はゞ育兒部の別莊とでも云ふべきところである。

弘濟尋常小學校

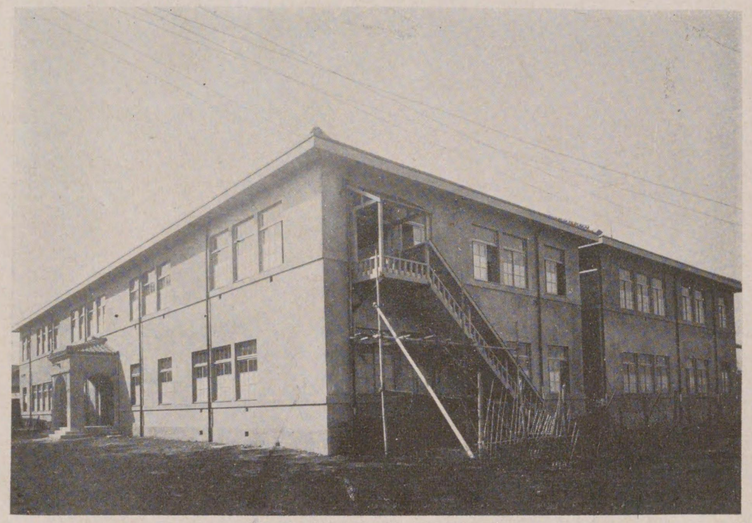
（東成區林寺町七十二番地
電話 [illegible]三一〇五番）

何不足なく育てられた育兒部の子供達が學齡に達すると、仝構内に設けられた本校へ入學する。尚此處へは授産部收容兒童中義務教育未修了者も入學せしめて、教育を施す。特に教育の目的は卒業後一人立ちの出來得るやう。夫々個性啓發精神修養及體育に重を置き、社會に出る準備教育を施す。



教授

運動場の一部



大阪慈恵病院全景
（舊舍燒失に付一部改築）

中庭より救療部生野保養所を望む

弘濟會救療部 大阪慈恵病院

（東成區林寺町九十九番地）
（電話南三八九〇、五三七〇番）

衣食住の途なく病んでは治療の資もない人達が、一人のこらず當病院に收容せられる。その他窮民への施藥施療をやつてゐるところである。尚同構内の保養所では、病疾又は病後の輕快者に對し、療養と休養とを計り、再興の活力を養ふて居る。なほ肺結核寮をも併置してある。

大阪慈恵病院内に於けるそのの分教室

舍病離隔核結肺所養保野生

看護婦の養成

救療事業に適する看護婦の養成を目的に弘濟病院内に大阪府指定の看護婦養成所が置かれてある。此處では着護婦に必須なる學科と實務とを授けて居る。

弘濟病院の全景

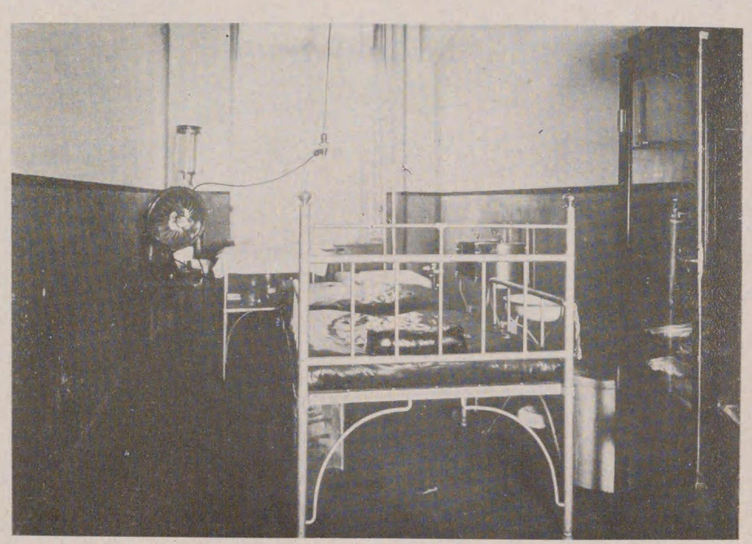
弘濟病院（東區粉川町三番地 電話東一一五六番）

市の高臺を占めた弘濟病院は、純然たる社會施設として開設されたものである。

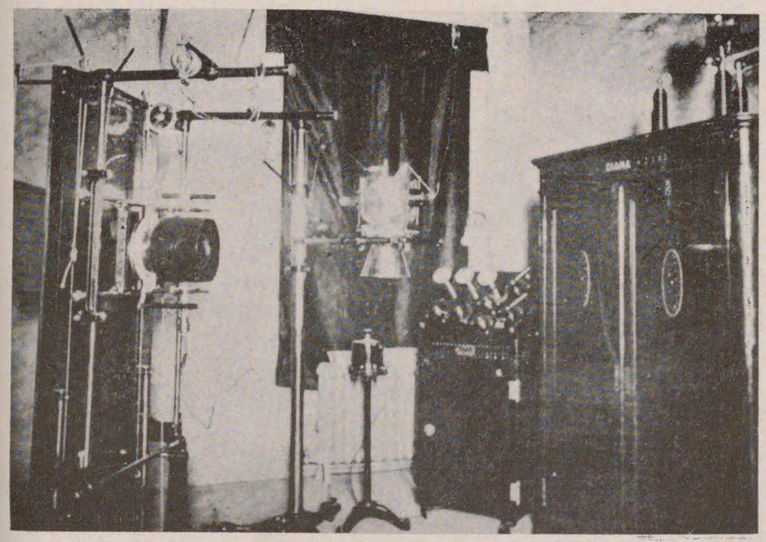
疾病のため生活上の脅威を受け高い料金で入院が出來ないやうな人々に、實費診療を行ふて居る。

同病院内の一部

内部は總て完全なる最新式設備を有し、齒科を除く各科が備つて居る。そして、新進氣鋭の博士又は學士等の醫員十數名が、專任從事して居る。

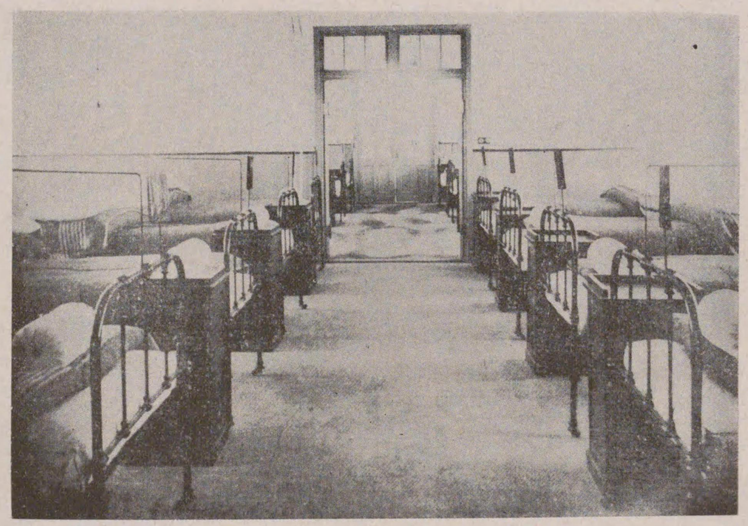


段階プーロス



室ンゲトンレ

分娩室



大病室

養老部

（東成區大寺町九十九番地　電話南五三七〇番）

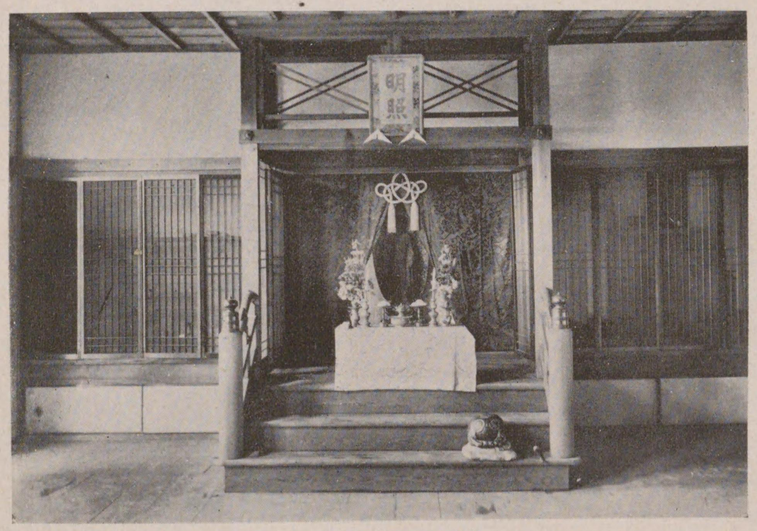
子供や兄弟はもとより身寄の者とては誰一人もない孤獨い老齢者、たさに扶養義務者があつてもその能力たくしかも自活し得ぬドン底に喘ぐ老人達は當部に收容して何の心配もなくこの人達の晩年は守られて行くのである

（養老部全景）

老先き短い耗弱孤獨の身に、死後の樂土を樂しませんため、特に設けられた禮拜堂である。そこには時折り宗教家を聘して法話を聽かせる。

（禮拜堂）

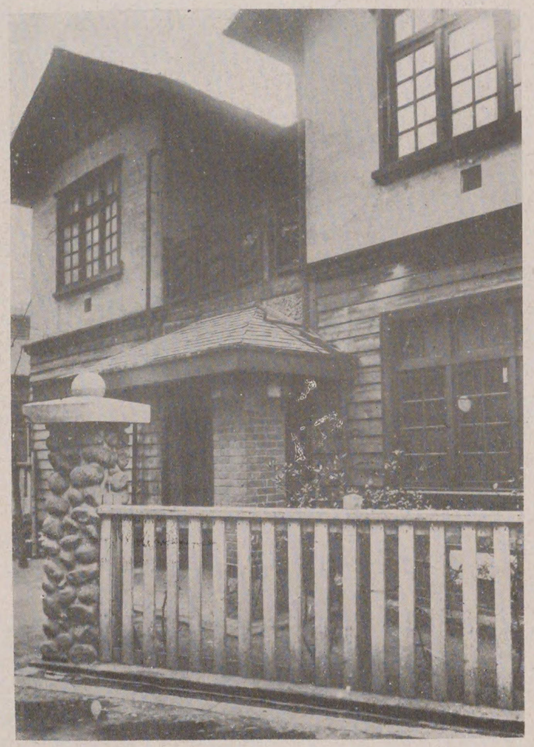
養老部居室女工部



禮拜堂

養老部の手工

動き得る者が徒食することはよくないと謂ふ主義から、仕事の出來得るものには簡易な手工（袋ハリや、折慰斗）に從事せしめてゐる。



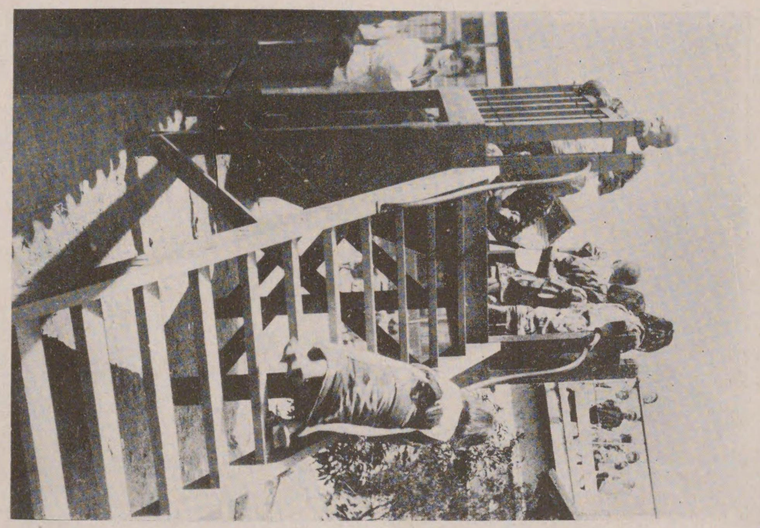
九箇保育部の事務其他を總括せる

保育部全景

弘濟會保育部

（浪速區貝柄町一九番地　電話戎七一〇番）

市内に散在する勞働者又は無産者で、幼兒が仕事の手纏ひになる人達の爲めに、晝間その幼兒を預り、年長兒は幼稚園の保育法に準じ教養を施しながら、親に代つて萬事の世話をして居る。尚保育愛を通じて其家庭生活を向上してゆく。そしてその周圍に良い風をなびかせるため、文化運動の一として盛に演藝會を開いたり、種々の連絡をとり又いろ〳〵な相談等にも應するため座談式の「家庭會」を時々開く。その他衛生と謂ふ立場から特に專屬の醫師が幼兒の保健に努めてゐる。



保育所の一

市内九ヶ所の細民街又は勞働街に散在してゐる保育所は移動式と固定式の二つに分れて居る。寫眞は固定式保育所の一つである。

（四貫島保育所）

保育所内の一部

コドモとコドモが遊んでゐる。保育所の庭暖かい日ざしコドモの遊びは無心である。

（自由遊び）

童話劇

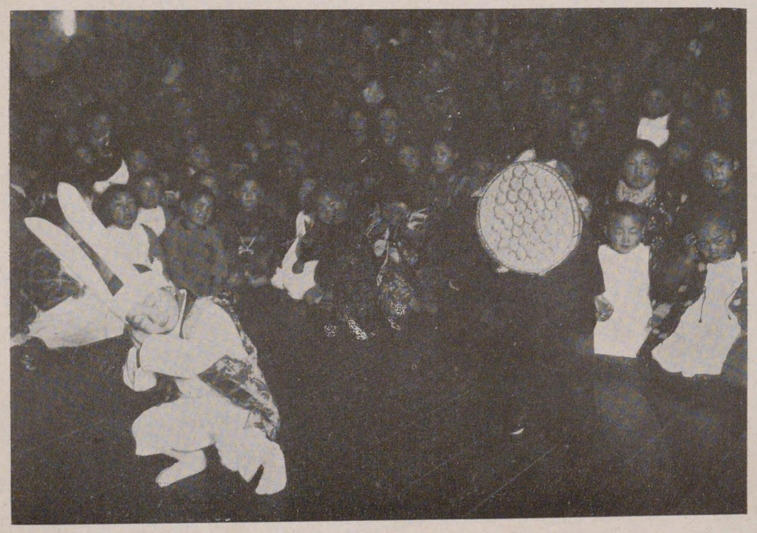
各保育所の記念日は、親達も勞苦を忘れて愛兒の遊戲に汗を握る父、嬉し涙にくるゝ母、

（其一）

同上

可愛い踊、無邪氣な歌、小ない音樂家達が坊くして無踊、對話劇、童話獨唱等に時を忘れてゐる。

（其二）

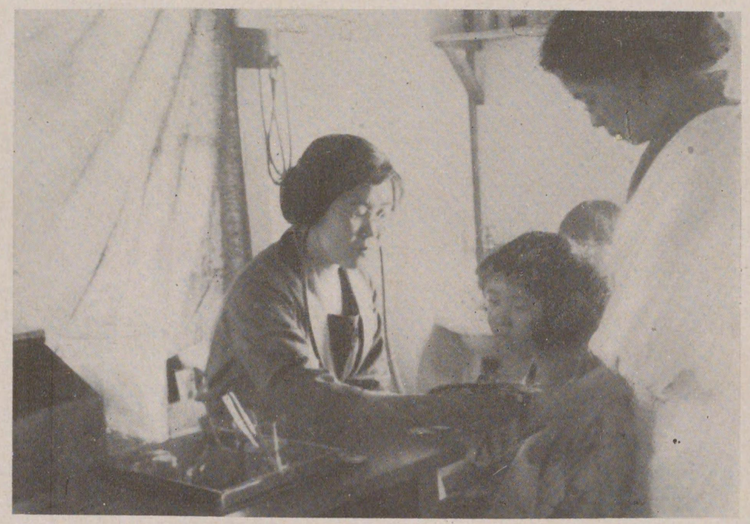


保育所診察室

多くの子供を預つてゐる關係上、特に之等のために保育部内には醫局を設け、專屬の醫師は子供の保健に努めて居る。尙九ヶ保育所の巡廻診療をも行つてゐる。

家路へ

街の工場からポーと氣笛の音が聞へる時、子供の顏色は母の愛にほてる、嬉々として親達のお迎へを受ける。先生左樣なら……。



大阪鐵道案内所

ジヤパン　ツーリスト　ビユーロー出張所

大阪堺筋安土寺町　角電話本町三一一番

營業案内

當案内所はジヤパン、ツーリスト、ビユーローと協力して、旅行者其の他一般の方々に旅行上の便宜を提供することによつて社會と鐵道との關係を一層親密なるものにしたいといふ使命を以て、停車場裡より街頭へ乘出して開いた、鐵道の新しい旅客案内機關であります。

されば旅行をせられる際等は勿論其の他鐵道に關する事柄に就ては何事に拘らず御利用下さつて鐵道に對する理解と親愛とを深められ時には良き忠告者として、鐵道業務一般に對する御注意、御要求等を御聞かせ下さるならば、幸ひ之に過ぎるものはありません。

取扱業務一般

一、旅客及荷物に關する事務一切の御案内
二、遊覽地の紹介旅行計劃の作製等旅行上の便宜提供
三、團体旅行の主催、團体旅客の御引受
四、大阪、湊町、今宮、天王寺、桃谷、玉造、京橋、櫻宮、天滿、片町の各驛より各地に至る左記乘車券類の發賣

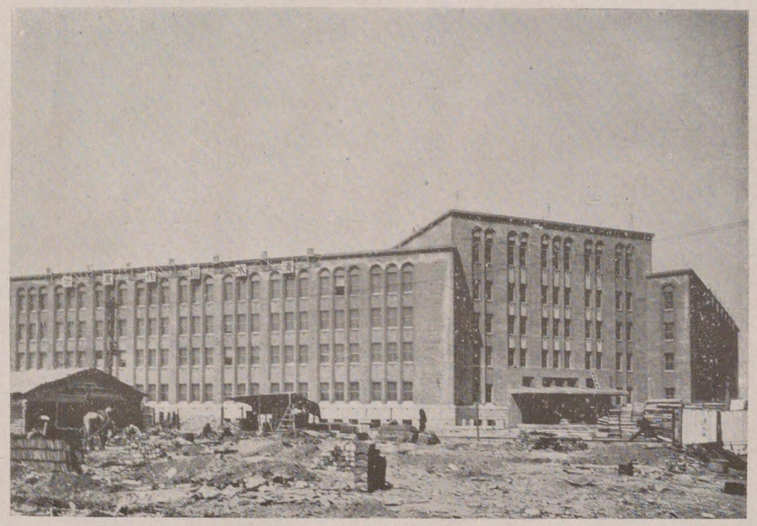
片道乘車券、往復乘車券、廻遊乘車券、定期乘車券、回數乘車券、團体乘車券、貸切乘車券、急行券寢臺券、入場券、乘車券引換證

五、旅客及手荷物の運賃及料金の御拂戻
六、鐵道運輸營業一般に就ての御注意、御申告、御要求等の拜承
七、鐵道運輸營業に關する宣傳

ジヤパン、ツーリスト、ビユーロー、業務一般

一、海外旅行の御案内、斡旋。
二、海外行乘車券類の發賣。
三、外人旅客に對する御案内。

營業時間　前九、〇〇—後五、三〇



大阪鐵道管理局（清水組施行）

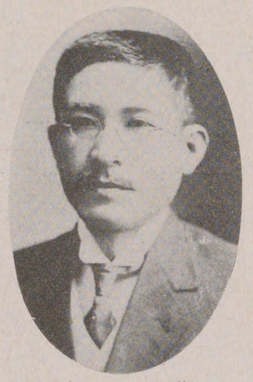
大阪驛（梅田）

大阪市電氣局

概說

大阪市が始めて電氣軌道を敷設せるは明治三十六年九月にして當時敷設を見たる西區九條花園より築港埠頭に達する三哩餘の線なりとす。之より先大阪の市當局者は前記の新設街路に市の事業として電氣軌道を敷設するの計畫を立て、明治三十五年十二月十九日市會に該計畫の提案をなせり。爾來歷代の市長相踵いで當該計畫の發展に盡せしを以て今日の完成を見たるなり。左にその功勞ある歷代市長の寫像を掲げて當時の偉を偲ばむとす。

電氣軌道創業以來の歷代市長



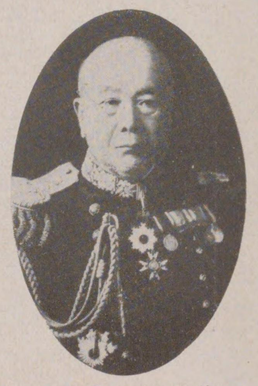
關一氏

故鶴原定吉氏

池上四郎氏

故山下重威氏

植村俊平氏

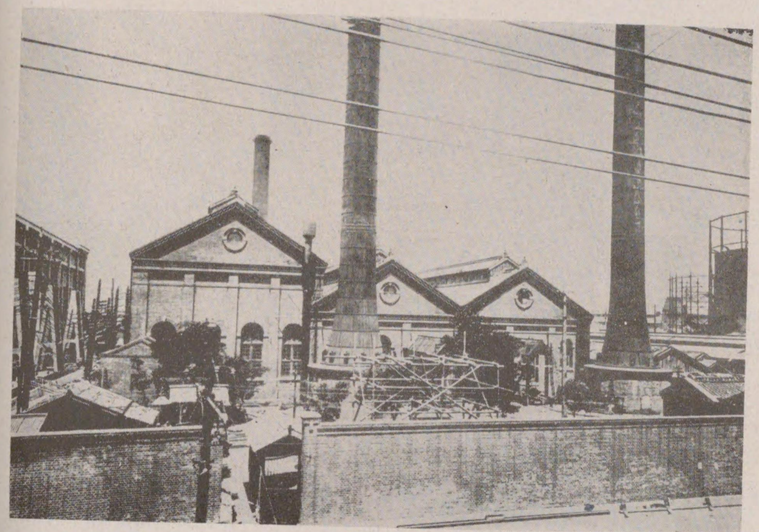


故肝付兼氏

電氣鐵道九條事務所

電氣鐵道九條事務所

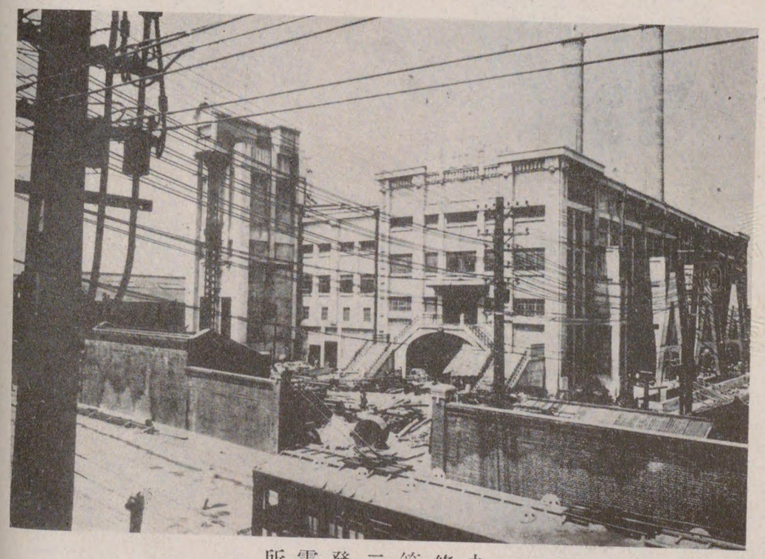
仝上四ッ橋事務所



九條第一發電所

（景　　全）

（工竣月四年一十四治明）



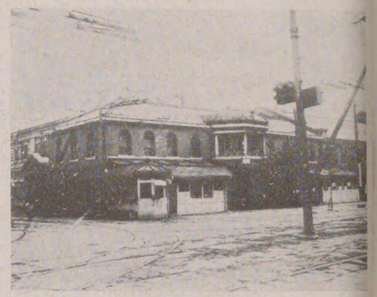
九條第二發電所

（景　　全）

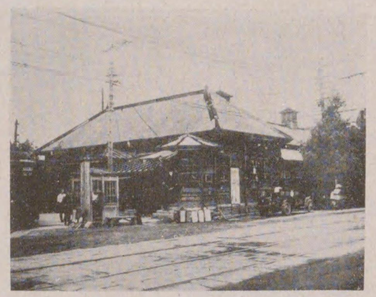
（工竣月八二十正大）

所張出輸運

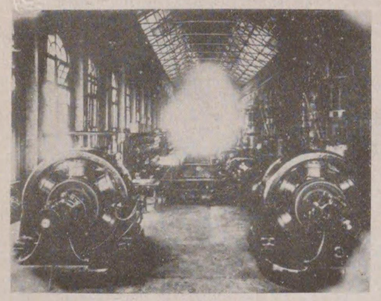
上本町運輸出張所



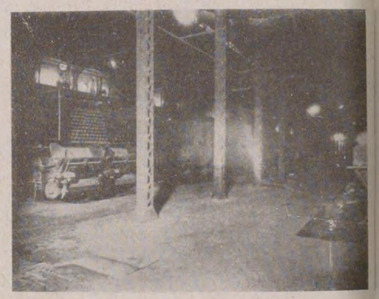
九條運輸出張所



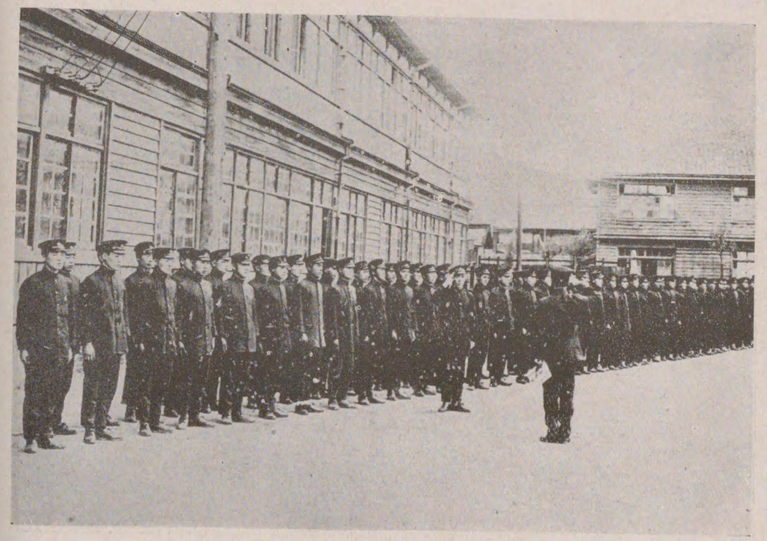
天王寺運輸出張所



發電室

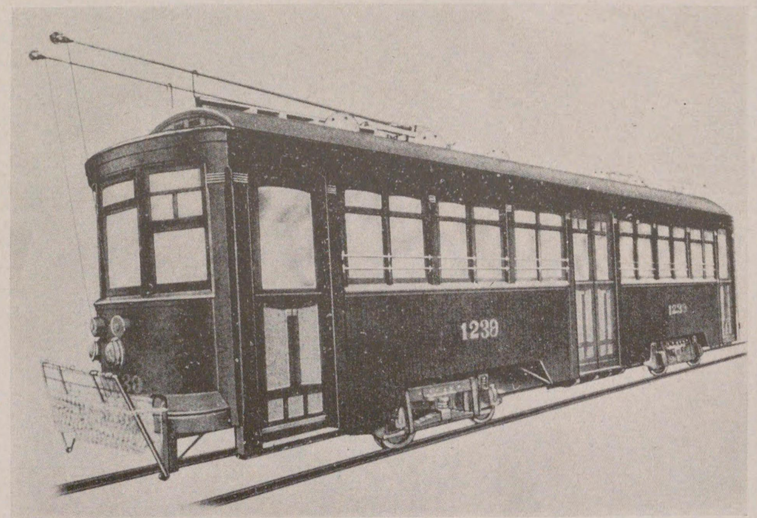


機關室

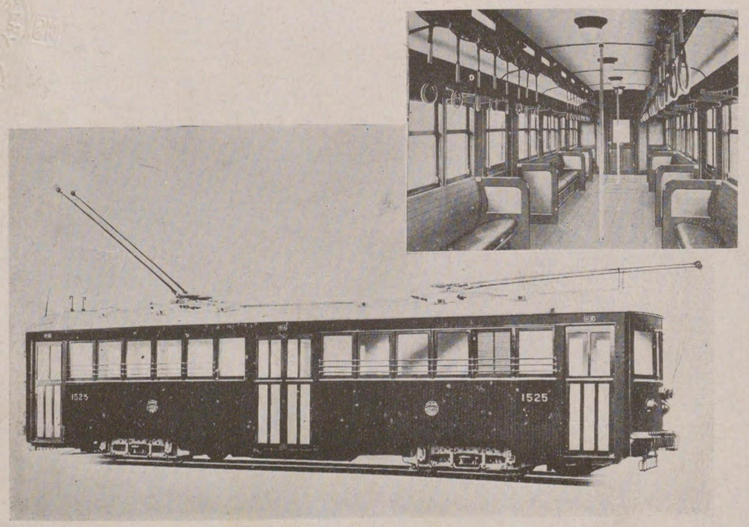


大阪市電氣局從業員教習所
(見習生の点検)

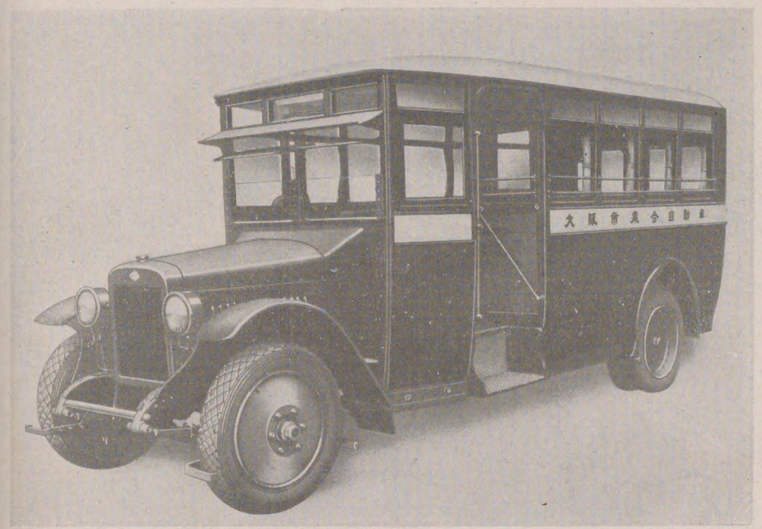
四ッ橋交叉点の實況



市電ボギー車
（藤永田造船所納入）



上　　仝
（田中車輛工場納入）

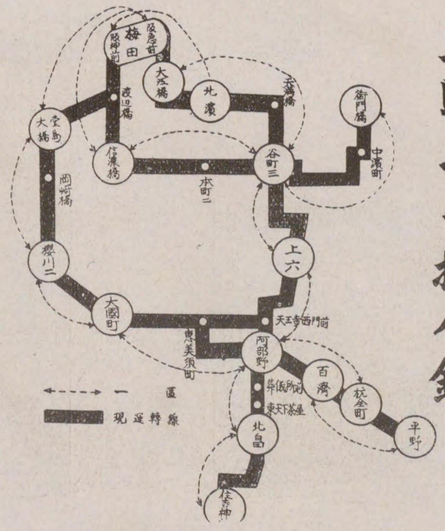


昭和二年六月製造十八人乗リ「インターナショナル」乗合自働車
（田中車輛工場納入）

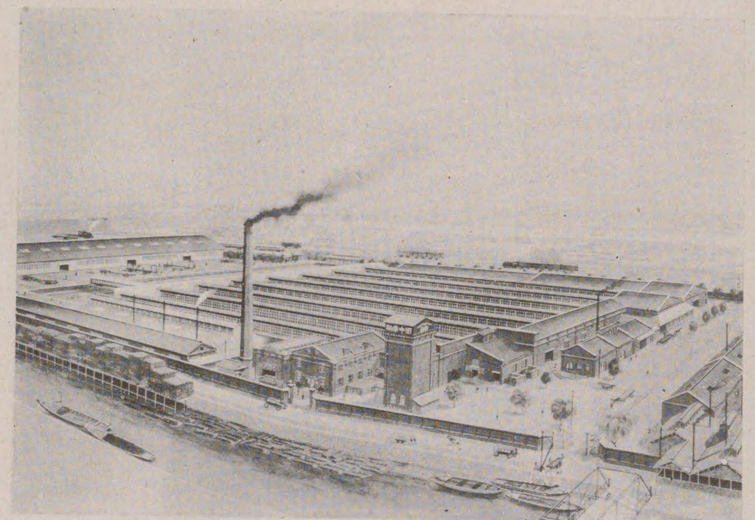
一區六錢　二區拾貳錢
三區以上拾八錢

○本市乘合自動車には電車の回數券でも乘れます

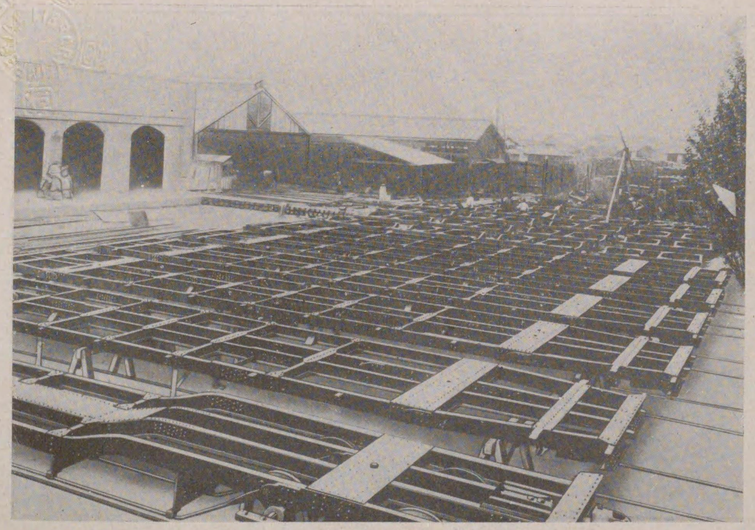
大阪市電氣局



市營乘合自働車運轉區域
（昭和三年三月現勢）



田中車輛工場全景



仝上客車臺枠組立場の一部

田中車輛工場概要

一、名　稱　田中車輛工場　電話東　長四〇二番
　　三四七番
　　五三〇九番
　　五七四三番

一、製造品名　鐵道用客貨車電車並に自働車の製造

一、所在地　大阪市北區新喜多町壹番地（城東線京橋驛下車）

一、沿　革　元田中鐵工所と稱し尼崎市に於　鐵工業を經營
大正六年末より鐵道用車輛製造仝十三年現所に
移轉今日に至る

一、固定資本金　金貳百萬圓也

一、代表者　經營主　田中太介

一、技　師　長　工學士　中野健

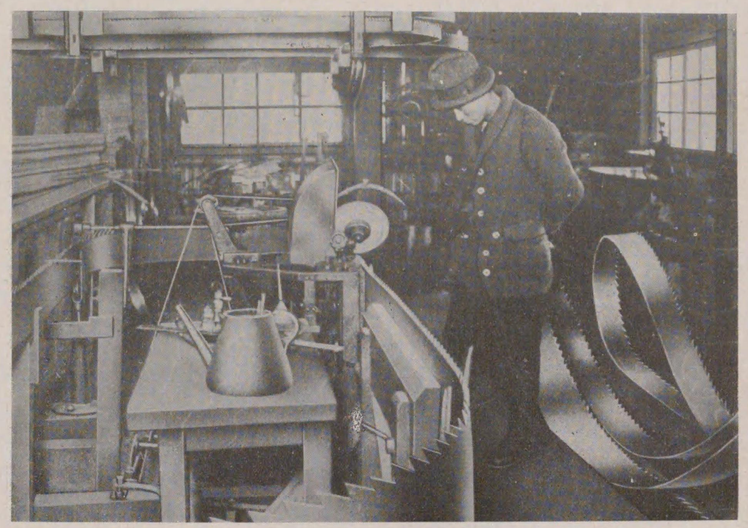
一、技術員及事務員　五十一名

一、從業職工數　五百三拾名

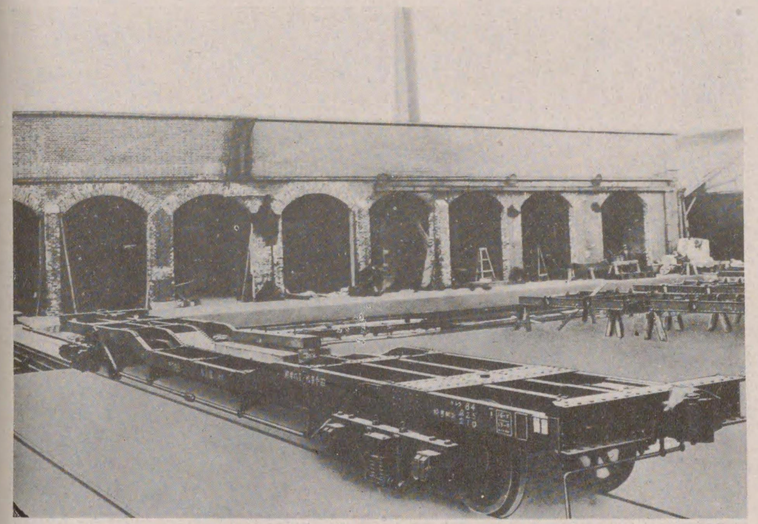
一、工場の敷地及建物　敷地九千〇六十六坪
建物七千百八十四坪

一、一ヶ年製産能力　鐵道省用客貨車貳百輛、電鐵用電車百五十輛
自働車体三百輛　其他鐵道車輛百輛
此金額金三百五拾萬圓也

一、主なる供給先　鐵道省、陸軍省、南滿洲鐵道株式會社
大阪市電氣局、各地電鐵、鐵道諸會社並に
朝鮮滿洲方面



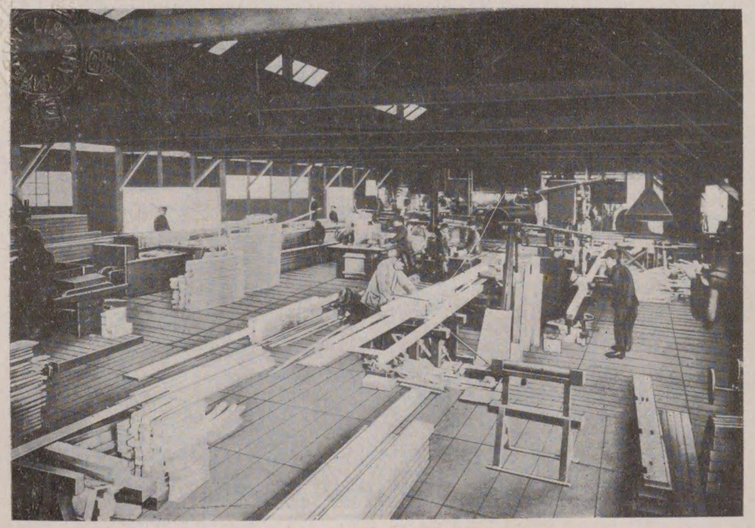
同工塲大鋸目立工塲の一部



田中車輛工塲車輛組立工塲の側面

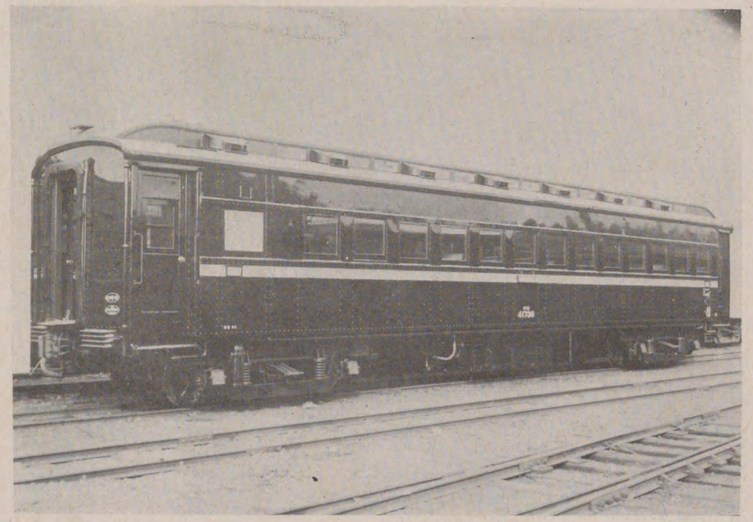
同工塲大鋸目立工塲の一部

田中車輛工塲車輛組立工塲の側面



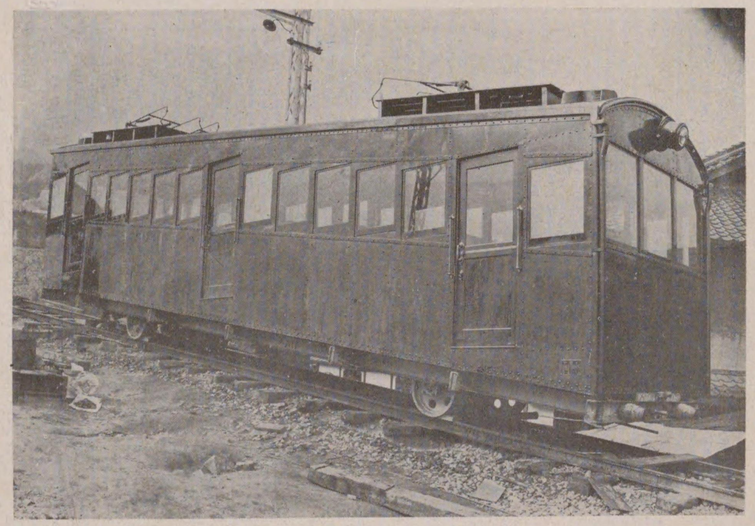
全上製材工塲の一部

全上大鋸挽立塲の一部

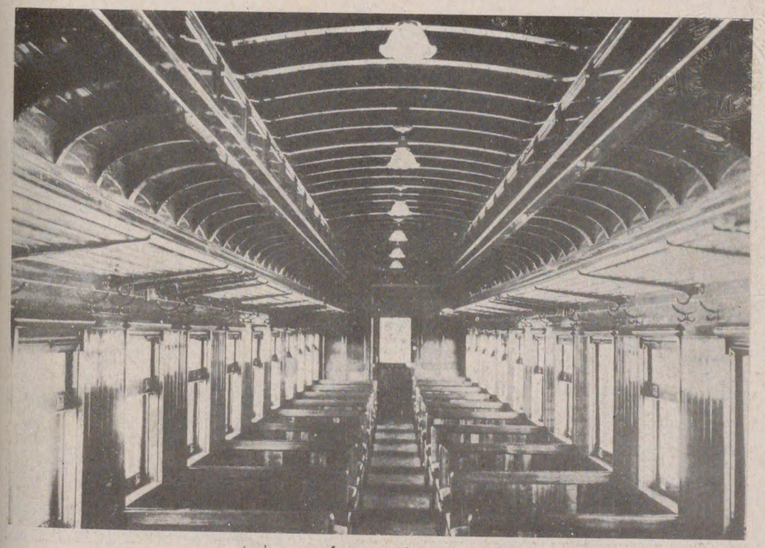


鐵道省納入　半鋼製二等客車
（昭和二年　田中車輛工廠製造）

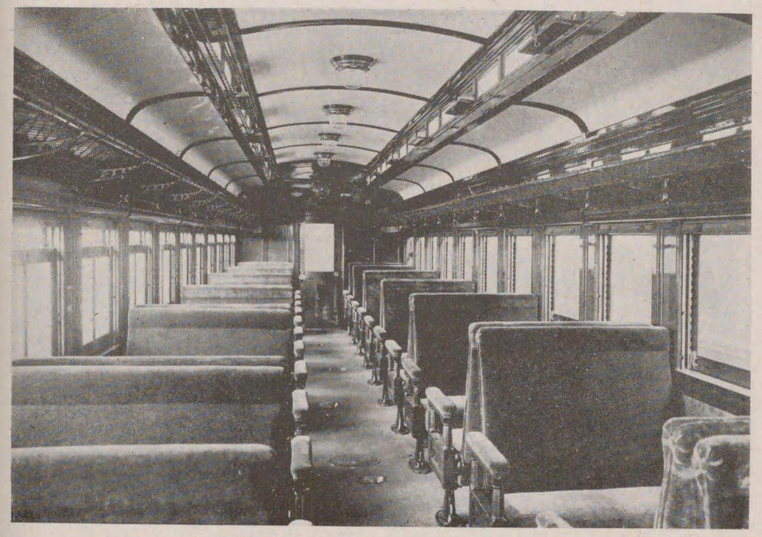
（大正十五年田中車輛工廠製造）　納道鐵洲滿南
三等客車外部



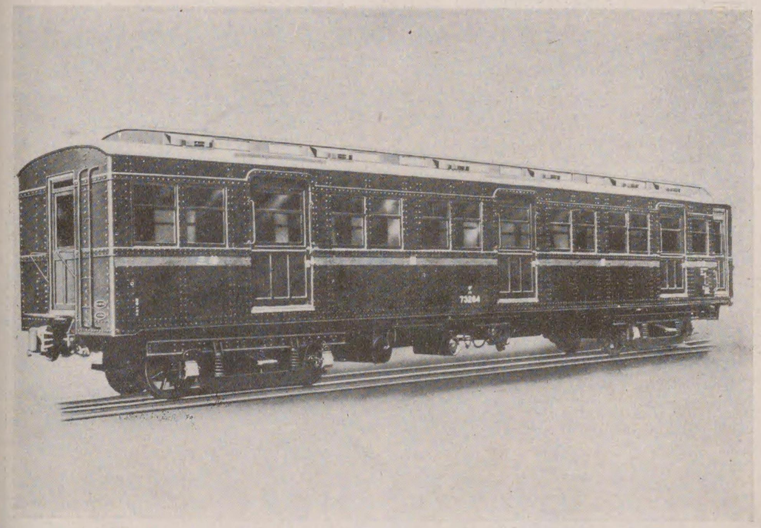
（大正十四年同工廠製造）　納線駒生軌大
ーカルブーケ駒生



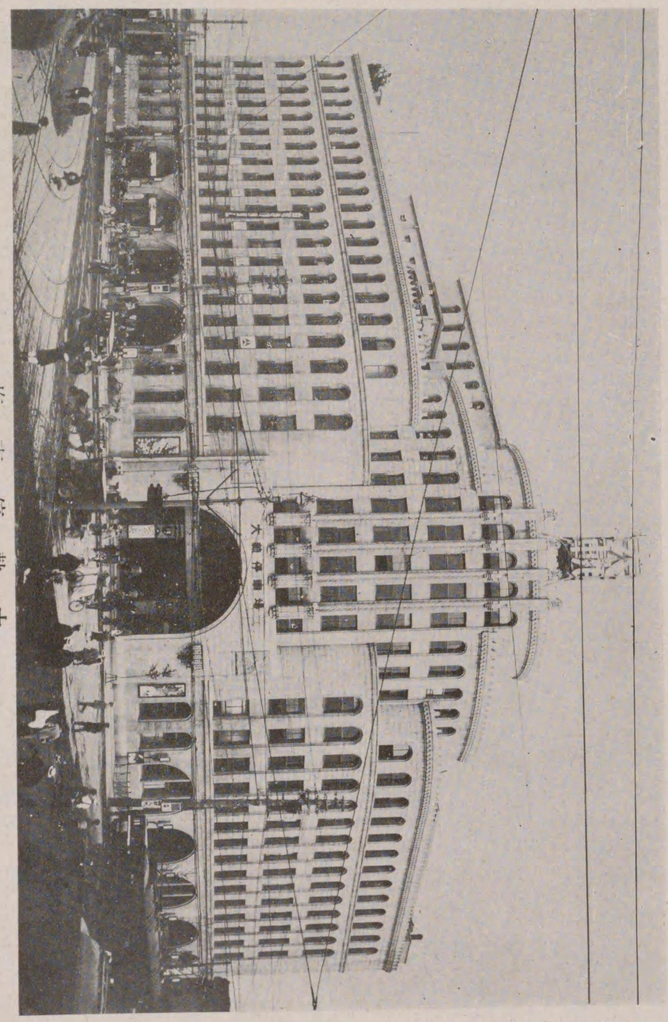
（上　　仝）　納　上　仝
三等客車內部



鐵道省納（昭和二年十一月田中車輛工場製造）
半鋼製二等客車内部轉換式フトン及凭

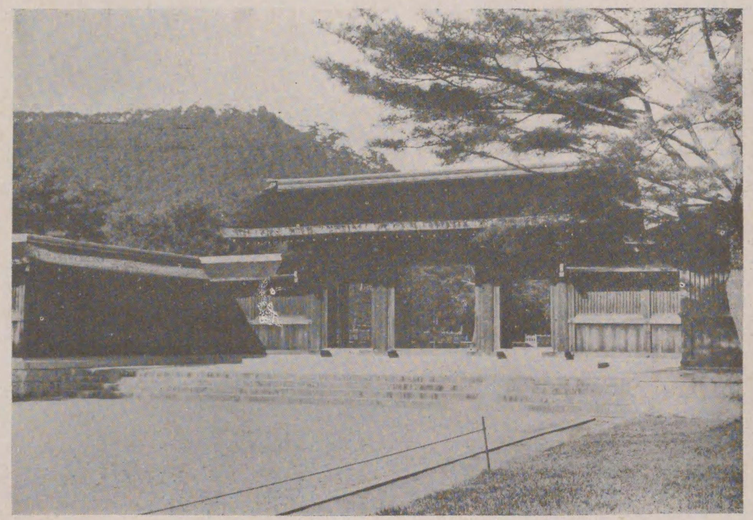


鐵道省納（昭和三年三月同工場製造）
半鋼製電動車
（現東京山の手線運轉）

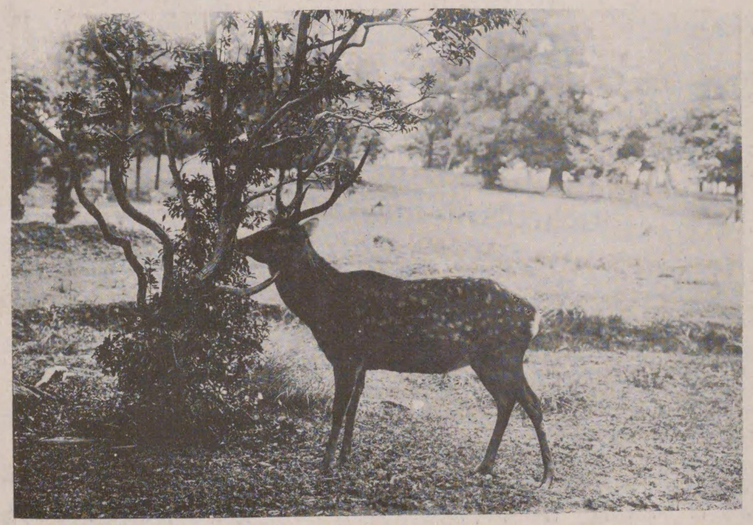


大軌停車場

大阪市東區上本町六丁目を基点に延長一千八百五十間の生駒大隧道を拔けて南部奈良市に達する大大阪東部の關門、大軌停車場、日々乘降の客數萬を算し、沿線文化の發達に貢獻しつゝあること多大なり、建築物の美觀壯麗古今の粹を納む大軌電車及沿線に關する寫眞及說明は以下所載するものである。



橿原神宮



奈良公園

大軌電車沿線案内

(一) 本線 大阪奈良間

◆上本町停留場　本線の起點であつて、市電とは停留場前で連絡し各方面行に至極便利な位置にある停留場は七層樓の洋館で地下室は日用品マーケットなどがあつて其上の一階は切符賣場、賣店、乘客係、銀行、日用品店其他は乘客の待合所になつて居る二階三階は直營食堂と百貨店、四階九階は齒科内科小兒科の醫院上町倶樂部の事務所及び大軌の事務所になつてゐる六階七階は上町倶樂部で日々賑つてゐる。

◆布施停留場　(八木線の分岐點)

◆小阪停留場　樟蔭女學校(南二丁)帝國キネマ撮影所(北二丁)

◆若江停留場　大阪方の忠臣木村重成の墓(東南十三丁)香煙常に絶えない。

◆瓢箪山停留場　瓢箪山稻荷神社(南すぐ)南北を軸とせる車塚の中央にある社で辻占に名高く參詣者が多い毎月十八日と午の日が例祭日。徐生院六萬寺(東南十丁)楠氏の氏寺で正行の位牌を安置し正行の墓は正成の塔と並んで居る。水呑地藏(東南約一里)昔弘法大師この坂路に水なく行人の難澁を憫み祈つて水が出たのと後に地藏を祭れるより名に殘るといふ。

◆枚岡停留場　官幣大社枚岡神社(東すぐ)元春日と云ひ、神武天皇の時天兒屋根命、比賣大神を御祭になつたのが起原で粥占神事(毎年一月十五日)は年の農作物の豐凶を占ふもので仲々賑ふ。平岡梅林神社の南園一帶で遊園地は平垣、婦女子の遊散にも適し眺めよく梅樹が多い。

◆額田停留場　長尾の瀧(東十餘町)雄雌兩瀧あつて高さ二丈、その附近の慈光寺はほとゝぎすの名所。

◆鷲尾停留場　生駒大隧道の西口で河内平野を一瞥にあつめて此のあたり孔舍衙坂は神武天皇東征の古戰場として知られて居る生駒大隧道長さ一萬千百尺海拔四百一尺。

◆生駒停留場　生駒寶山寺(南十三丁)役行者の修行跡延寶六年伊勢の人澁海大伽藍を建立不動明王が本尊である其傍に祀る歡喜天は世人の信仰厚く參者の絶え間がない毎月一日十六日は緣日で殊に賑かである生駒の驛からケーブルカーで僅に十分、複線であるから待たずに樂に參詣が出來る。

◆富雄停留場　鼻高山、松茸の産地で名高い。眞弓山長弓寺(北廿五丁)金鷄發祥地(北四十丁)靈山寺(南十八丁)

◆菖蒲池停留場　あやめ池遊園地は昔奈良朝時代官女の行樂地であつた事に由つて名高い、今は本社の遊園地として梅櫻、つゝじ、萩、楓などを澤山に植付け周圍一里の池の汀にあやめ、かきつばたを增植したから四季折々の眺は申込もなく料理店、茶店、有料休憩所、無料休憩所、演藝場、小供用、運動器具等も揃つて池には遊船、ボートを浮べて來てゐる。五月雨の頃はほとゝぎすの名所である。

◆西大寺停留場　(畝傍線の分岐點)西大寺(西南すぐ)南都七大寺の一で十月一日から一週間晝夜不斷光明眞言大法會が行はれる又春の茶盛式は珍らしい。秋篠寺(北八丁)光仁桓武兩帝の本願で寶龜十一年善珠僧正の關基大極殿址東十丁平城京内裏址の東南に當り高く芝地が殘る法華寺東十四丁天平勝寶五年光明皇后が父不比等公の邸宅を喜捨して伽藍としたので國分尼寺の首位である。海龍王寺法華寺の東北西金堂は奈良朝時代、講堂は鎌倉時代の建築である。神功皇后陵(東北十丁)成務天皇陵、孝謙天皇陵、垂仁皇后陵東北五六丁平城天皇陵東十丁仁德皇后陵東十五丁

春日神社お ん祭の行列

五重の塔

◆油阪停留場（奈良驛前）省線奈良驛は南二丁、興福院（北九丁）尼寺で庭は小堀遠洲の築造。不退寺（興福院の西七丁）平城帝の皇居址を其孫在原業平が寺にしたといふ。多寶塔は鎌倉時代の特建。

◆奈良停留場　興福寺法相宗の一本山、平城遷都の始めに藤原氏が氏寺として建立、四丁四面の大伽藍は今は金堂（本尊釋迦如來）東金堂（應永三十三年建立本尊藥師如來）五重塔（建立同上）北圓堂（鎌倉時代）南圓堂（西國三十三所の第九番）三重の塔等が殘つて居る。猿澤池、興福寺の南で采女入水の昔を偲ぶ衣掛柳は今尚殘つて居る。其東の大御堂（十三鐘）には石子詰の傳說がある。春日神社（東十八丁）一の鳥居を東に進むと南に丸窓の梅林がある。二の鳥居を經て右に行くと若宮、此の上方が御蓋山で大杉、蝙蝠窟、七本杉がある。引返して樓門を入ると四社列んである神護景雲二年の創建で若宮の祭禮は十二月十七日おん祭と稱へ數日に渡つて賑ふ境内水谷川の上方には洞の紅葉、月日の窟、鶯の瀧がある。嫩草山は一帶の草山で婦人子供の登攀によく、每年二月に行はれる山燒は見ものである。手向山神社（東十三丁）嫩草山の麓にある俗に八幡宮と呼ぶ。三月堂、手向山神社の北、脩良辨の開基、本堂は天平五年の創建で奈良最古のもの。二月堂は其北にある實忠の開基本尊は觀音、世の信仰が厚い三月一日から二週間行はれる水取の行事は古式を傳へて珍らしい。大佛殿（東北約十丁）聖武帝の創立佛敎の最隆盛時代の俤を…ぶ唯一の記念物で堂は天平勝寶三年に落成したが二度兵火に罹り今のは元祿年間の再建で世界最大の木造建築である。天平勝寶元年に出來た南大門は運慶湛慶の作と稱する日本一の仁王が殘つて居る。門の東方は奈良の運動場で、公會堂に接して居る大佛殿の西方には戒壇院、後には帝室の寶庫正倉院がある。奈良帝室博物館（東四丁）古代彫刻繪畫等美術工藝の粹を集めて居る。石佛行脚（春日奥山めぐり）天を翼ふて杉の中を行く爽快さは森林地…の味がする若宮の南からが近道で新藥師寺を山手へ二三丁で右に高圓山左に春日山が谷を挾んで迫るあたり岩石重疊景色がよい。五六丁登ると「寢佛」四丁行けば朝日觀音又數丁で地獄谷朝日觀音は美術家考古學者も珍としてゐる。次に穴佛を見、歸路洞の石佛や、佛頂石、石荒神、地藏像と鑿刻の跡深き印象を刻む。

（二）八木線（本線布施にて分岐）

◆久寶寺口停留場　久寶寺御坊、顯證寺（南七丁）勝軍寺（南十五丁）共附近に大連物部守屋の墓がある。

◆八尾停留場　八尾地藏（西一丁）は弘仁の昔小野篁の作日本一休の一であると云ふ安産の地藏を本尊とし寺號を初日山常光寺といふ。八尾御堂（西三丁）は大信寺といひ、門內右方の太鼓樓は豊公の遺物を桃山御殿より移したるものである。

◆田本停留場　籌曲の弱法師、淨瑠璃合邦辻で知られた俊德丸の屋敷跡（東十四丁）法藏寺（東二十丁）此附近に大小種々の古塚多く千塚の名がある。琵琶の瀧（東十八丁）玉祖神社（北東約廿五丁）附近西方に高安梅林がある。神光寺（東十五丁）西光寺（東三丁）

◆高安停留場　天理敎高安敎會、お初德兵衛の墓（東四丁）敎興寺（東五丁）元善光寺（東六丁）梅岩寺（東八丁）眺望願るよろし

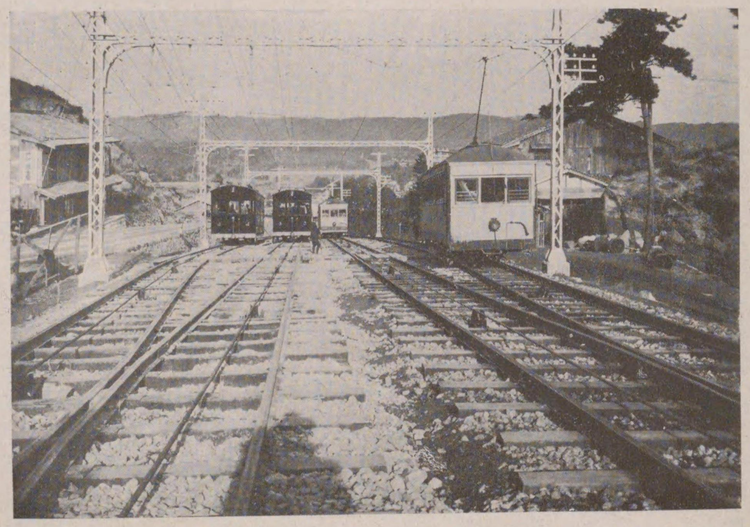
◆恩智停留場　天理敎中河大敎會（東一丁）恩地左近の城址、同墓（東三丁）恩智神社（東六丁）常世岐姫神社（東三丁）安養寺（東五丁）

◆法善寺停留場　瑠璃光寺（北東約七丁）本尊厄除藥師如來は行基の作堂の傍の閼伽井の水は眼疾に靈驗があると。

◆堅下停留場　鐸比古鐸比賣神社（東五丁）高尾山（東十五丁）山腹に老松巨巖の奇勝があり、遠く茅海を一眸に收め眺望絶佳堅下葡萄園山裳に沿ひ作付五十萬坪・年收百萬圓の產額があり、堅下葡萄の名で以て市場に覇を稱へてゐる。

◆安堂停留場　大和川（すぐ）大和を發した諸川を集めて河內にはいる大和川と石川との合流點を落合といふて南北朝時代から戰國時代の古戰場である。天冠山（東北五丁）天冠山智識寺

あやめ池



生駒ケーブル

址(東北三丁)大日寺(東三丁)普光寺址(東南六丁)天湯川田神社、宿奈川田神社 東南八丁)後者は白阪明神ともいひ婦人病に靈驗ありと云はれ舊七月十四日には賽者で賑ふ、竹原井頓宮址(南七丁)元正・聖武兩帝の頓宮のあつた所龜瀬越の西口で勝景地である。龜瀬、修德館(東南廿丁)を過ぎて行くこと十丁、大和川の始めて河内に入る所、奇岩怪石突出して一大峽をなし、四時景趣深く、鮎狩又は觀楓に絶好の地である。

◆國分停留場　松丘山古墳(東六丁)數個の古墳の大板石は今の石碑の始まりださうで學界の好資料になつてゐる。安福寺、玉手山遊園(南五丁)寺は行基の開基だといはれ、寛文年中、淨土宗の珂憧上人の中興したるもの遊園地は茅海と河泉二洲を一眸に收め眺望絶佳、つゝじ、萩、松茸狩等四季の野遊びに最もよい。河内嵐山(東數丁)國分村から東へ大和川に沿ふて行くと兩岸は宛ら京都嵐山に似てゐるので此名がある秋景は殊によい。

◆關屋停留場　亀鶴峰(西七丁)總面積約四萬坪、白壁屏風を立て連ねた樣で奇岩面白く天然の一大庭園となつて、遠方からは鶴が屯してゐるかの樣に見えるので此名ありと云はれ、秋は紅葉によろし。觀音寺(西七丁)本尊は楠公尻城に安置せられてゐた千手觀音で、左の乳脇に出血の痕跡があり、矢除觀世音とも云はれ楠公の身替佛である。旗尾池(北五丁)一名大池といひ、大和第一の廣さで風景絶佳、附近一帶は松茸の産地である。

◆二上停留場　二上山(頂上二で廿五丁)男岳女岳相對し山上からの眺望は素的によく、秋には松茸が澤山できる。大阪山口神社(東北四丁)

◆下田停留場　武烈天皇陵(西北廿丁)顯宗天皇陵(西北十丁)阿日寺(南十丁)石光寺(南廿五丁)天智天皇の勅願で創建せられ本尊は彌勒菩薩、境内に牡丹多く、中將姫に由緒ある染の井がある。染寺とも呼ぶ。當麻寺(南廿丁)二上山麓の松林の中にあつて、眞宗淨土兩宗の本山である。堂塔樓門甍を列ね、東西兩塔は草創のまゝで本堂は鎌倉時代の建築、須彌壇には源頼朝寄進の鎌倉塗の大厨子を安置し、これに中將姫曼陀羅の寫しの文龜曼陀羅が祭つてある。此寺には中將姫の哀しい歷史が殘されてあつて、毎年五月十四日には盛大な練供養が行はれる。境内には殊に牡丹が多い。

◆五位堂停留場　狐井の板佛(西八丁)狐井城址(西八丁)往昔岡崎因幡守(口碑には岡周防守)の據つた所である。

◆築山停留場　片岡葦田陵(南すぐ)俗に之を城山ともいふて御陵墓傳說地で茅渟皇子の墓だといふ。靜御前墓(南廿五丁)田の中で僅に二坪餘、碑石も墳塋もないが里人は昔から靜御前の墓だと云ひ傳へてゐる。笠神の杜(南廿五丁)葛木御縣神社(南すぐ)

◆高田停留場　賀名生梅林(南一丁)省線高田驛に汽車に乘り五條驛下車南へ約二里、乘合自動車(一人六十錢)正平の昔數十年間南朝皇居の在つた處。今尙その舊跡が殘つて吉村寅太郎の筆になる「皇居」の扁額もかゝつてゐる。文久三年天誅組苦戰の地附近一帶史蹟景趣に富んでゐる。梅花は口の千本、見返り葛本、東雲千本、西の千本、奥の千本等峯に谷に馥郁として月ケ瀬と共に天下無双の一大梅林である。

◆眞菅停留場　十三塚(北すぐ)田甫中に突起した芝地で三丁四方内に點在する古墳で元十三あつたが、其一つは位置不明で今は十二を殘してゐるのみである。此附近一帶に石鏃、縄紋土器等が掘出されて共に考古學上重要視されてゐる。

◆八木停留場　(畝傍線に合する所)小房の觀音(東南八丁)無量山觀音寺本尊十一面觀音、癪の病に靈驗があるとて賽者常に絶えない。鴨公神社(東南十丁)此邊一帶は持統帝から元明帝に至る十六年間帝都の地である。國分寺(東北三丁)、長谷寺(東二丁省線畝傍驛から櫻井で下車、長谷鐵道で長谷驛下車東十丁)初瀨寺ともいふ西國八番の札所長い廻廊の兩側の三千餘株の牡丹は長谷の牡丹として天下に知られてゐる「人はいざ」の歌に名高い貫之の古里の梅がある定家卿の墓もある

三笠山

櫻の山郡

春の櫻の眺は一段とよい。談山神社（櫻井から南五十丁乘合自動車の便あり）磯城郡多武峯にある鎌足公を祀る別格官幣社で社殿の壯麗なることはいふ迄もない、德川が日光廟を建てるに範をこの宮に取つた事でもわかる。それかあらぬか關西日光の名が今日殘つてゐる花に紅葉に雪に眺めはよい。

(三) 畝傍線（本線西大寺にて分岐）

◆尼ケ辻停留場　垂仁天皇陵（西南すぐ）大和にある車塚の最も大きなものである。安康天皇陵（西五丁）菅原神社（西北四丁）垂仁帝の時野見宿禰に賜つた地、子孫永く茲に住し神社は其祖に菅公を配祀してある。善光寺菅原神社の向ひ大佛殿の模型で試み堂ともいふ。

◆西の京停留場　唐招提寺（東北四丁）律宗本山孝謙天皇御願唐僧鑑眞の開基棟上西端の鴟尾は當時のものである。藥師寺（東すぐ）法相宗本山、天武帝の皇后御病氣平癒祈願の建立、三重の塔は當時のものが殘つて居る。金堂の藥師三尊は我國銅像中の最優秀なるもの、東院堂（鎌倉時代の特建）佛足堂には奈良朝時代の佛足石、及び碑がある。

◆郡山停留場　郡山城址（北二丁）足利時代小田切氏の築城豊臣秀長に至り百萬石となつたが後屋城主を昔へ享保に柳澤氏十五萬石の城地となつた。本丸には柳澤神社あり櫻樹多く花時の遊樂には最もよし、矢田地藏（西一里）眞言宗金剛山寺、天武帝本願智通の開基、豊臣秀長の墓（すぐ）源九郎稻荷（東二丁）戯曲「義經千本櫻」の忠信の狐でしられ、九郎判官、大和大納言秀長は深くこの神を敬し守護神として祀られたもので今尚伏見、豊川と並び稱せられる。松尾寺（西一里）天武帝の皇子舍人親王の御願本尊は十一面觀音（親王作）大黒天（弘法大師作）鎭守稻荷は初午二の午に賑ふ。郡山錦魚は柳澤侯封内の財源として自ら奬勵せられたるより現今も各地に譽ぐ産額宇内無比である。

◆筒井停留場　筒井順慶の城地今も城壕の痕跡がある。

◆平端停留場　此處を東西に通ずる鐵路は元の天理鐵道線で東は丹波市西は法隆寺にのびて法隆寺と此處との間は今も輕便鐵道は其儘である。平端桃林停留場の附近一帶桃樹夥しく花時人出が多い。　井順慶の墓（東北一丁）

◆天理停留場（省線丹波市驛すぐ）天理敎本部（東八丁）明治四十一年獨立開宗信徒四百萬本部本殿は宏壯な建物で各敎會詰所は其附近に城廓の樣に建て詰つてゐる。敏祖の墓は北四丁豊田山にある。官幣大社石上神宮（東十餘丁）崇神帝七年の創立で靈劍布都御魂を祀る。拜殿樓門共に鎌倉時代の特建。

◆新法隆寺停車場（省線法隆寺驛前）法隆寺（北十丁）法相宗本山推古帝、聖德太子建立、金堂、五重塔、中門、廻廊等は千三百年前飛鳥朝時代のもので、奈良朝時代五棟、藤原時代二棟、鎌倉時代九棟、其他特建合せて三十餘棟ある。境内は東西兩院に分れ西院に金堂、五重塔、大講堂の一廓あり其西に三經院、西圓堂（峯の藥師）に聖靈院（太子殿）綱封藏（寶藏）食堂、東大門等があり、東院には夢殿（本尊救世觀音）繪殿、舍利殿、傳法堂等がある。寶物は數百點に上り宇内無比の名刹である。緣日は四月十一日、官幣大社廣瀨神社、崇神帝の創立。（又畝傍線に戻りて）

◆田原本停留場（大和鐵道田原本驛すぐ）平野氏の陣屋のあつた所津島神社（町内に）鏡作神社（北八丁）崇神帝の時神鏡を鑄たる所。

◆笠縫停留場　笠縫宮址（西南十丁）多氏の祖先を祭つた所で境内に古事記の選者太安萬侶の社がある。

◆新の口停留場　戯曲「梅川忠兵衞」で名高い所、忠兵衞の墓は北半丁善福寺のものといひ最近又村内安樂寺に發見せられたりともいふ。

◆神武御陵前停留場　神武天皇陵（西すぐ）兆域廣く周圍五百廿八間總坪數二萬坪あり。綏靖天皇陵（西北二丁）畝傍山口座神社（西南六丁）畝火山の頂上にあり。大和三山、天香久山、耳成山畝火山は太古ながらの森嚴な姿を備へて鼎立し傳說、歌謠に壯重な感に打たれるものがある。

夏の行樂　大和川の鮎狩

團體乘車賃金割引表

人員＼種別	普通團体	學當小學校生徒團体	學當小學校以外ノ學生團体
片道五十人以上百人未滿往復廿五人以上五十人未滿	普通賃金二割引	同五割五分引	同一割引
片道百人以上三百人未滿往復五十人以上百五十人未滿	同二割ヵ分引	同六割引	同三割五分引
片道三百人以上五百人未滿往復百五十人以上二百五十人未滿	同三割引	同六割五分引	同四割引
片道五百人以上往復二百五十人以上	同三割五分引	同七割引	同四割五分引

回數券ハ普通賃金ヨリ約一割乃至一割五分引

◎生駒ケーブル線連絡賃金

大阪、上六ⅱ寶山寺間	片道	四四	往復 八三
奈良、郡山ⅱ寶山寺間	片道	三六	往復 六七

◎吉野電車連絡賃金

大阪、上六吉野間	大人	片道	一、二〇	往復 二、三〇
	小人	片道	六〇	往復 一、一五
大阪、上六下市口間	大人	片道	一、一〇	往復 二、一〇
	小人	片道	五五	往復 一、〇五
奈良吉野間	大人	片道	九四	往復 一、八八
	小人	片道	四七	往復 一、九四
奈良下市口間	大人	片道	八三	往復 一、六六
	小人	片道	四二	往復 八三

◎六和鐵道連絡賃金

大阪、上六櫻井間	片道	一、八〇	但春秋遊覽期には特別割引あり
	往復	六〇	

回數乘車賃金

軌ケ鐵道ブーケーブル線	種別	賃金	種別	賃金
一區	三十回	二、一〇	大阪上六、今里間	三十回 一、五〇
二區	二十回	二、八〇	大阪上六、小阪間	
三區	二十回	四、二〇	大阪上六、長瀨間	三十回 三、〇〇
四區	二十回	五、六〇	奈良、郡山間	
五區	十五回	五、二〇	大阪上六、安堂間	二十回 四、五〇
六區	十五回	六、二〇	奈良、油阪間	三十回 六、九〇
七區	十五回	七、一五		
八區	十五回	八、一五	〔奈良、郡山、生駒〕池間	三十回 三、〇〇
九區	十回	六、一〇	菖蒲	
十區	十回	六八〇	右小兒用	三十回 二、四〇
ケーブル線	普通（往復）三、八〇		區廿五回 一、一三	
	學當生（廿回往復）二、八五		區廿五回 二、二五	

（鐵道線端 平野法隆寺間）

一車貸切賃金 貸切乘車賃金は一車の定員に乘車區間の普通賃金を乘じたるもの、倍額を申受けます（但し二區乃至四區の場合は二區賃金を申受けます）

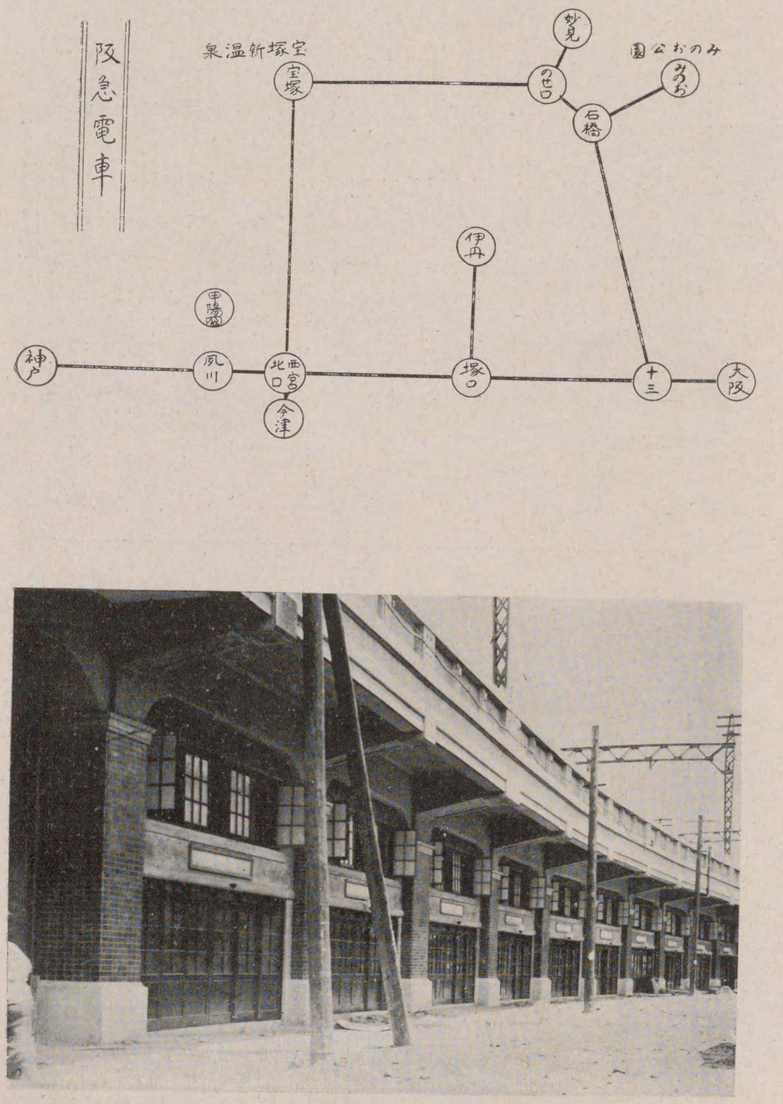
大阪市天王寺區上本町六丁目　大軌電車運輸課　電話 南 五五五五 五五五九 六一六〇 番
南 三〇〇四 四八〇一 番
（運輸課用）
（案内所専用）
（直營食堂用）

狩ヶ丘の下堅ふ著もき幼も老　房一のさゝる滋味滋

（物名節季線沿軌大）

「狩ゴサイ」ふ服に寒和
「ゴサイ」の知恩き高名に

— 沿線名所 —



阪急高架線

阪神急行電鐵株式會社

沿線遊覽案内

◉一月

初まをり（一日ノ出より十五日迄）　みのお聖天
中山寺　柴燈天護摩（十七日）
清荒神　桃花
門戸厄神　山苺かり
摩耶山　新緑
栄の遊び
西ノ宮北口　三ツ塚神社　櫻
新淀川　崎國　納涼
◉二月
十日戎（九日）　池田吳服神社　西の宮戎神社
修正會（十七日）　撃劍大會
厄除開運厄除祭（十八日）（十九日）　門戸厄神　灌頂會
◉三月
大師命日（廿一日）　中山寺　明治天皇祭（三十日）　摩耶山　秋
初天神祭（廿五日）　服部天神　梅見
◉四月
初大師（廿一日）　中山寺　太々神樂祭（十六日）（二十日）　能勢妙見　古式獅子祭（九日）（十日）　原田神社（岡町）　花
初荒神（廿七日）（廿八日）　清三寶荒神　弘法大師會（廿一日）　有馬温泉　苦樂園　甲陽園　避寒
◉五月
節分　能勢妙見　釋尊降誕會（八日）　摩耶夫人尊供（十五日）　無緣經法會（一日より十五日迄）　勝尾寺　中山寺　丹
初午　能勢妙見　社　若楓
初元節　紀元祭（十一日）　廣田神社　牡
釋尊涅槃會（十五日）　中山寺奥の院　つじ
廣田神社　涅槃會（廿五日）　摩耶山　御田植祭（十六日）　廣田神社　天
◉六月
大師命日（廿一日）　中山寺　弘法大師誕生會（十五日）　摩耶山　狩
甲山大師　善通寺　伊丹
◉七月
護摩（七日）　摩耶山　夏祭（十六日）　能勢妙見　夏越祓（三十日）　中山寺　茅の輪
◉八月
星祭（九日）　中山寺　四萬六千九百日會（九日）　摩耶山　法
◉九月
暑避　彼岸會　施餓鬼（十六日）　勝尾寺　施餓鬼（十九日）　中山寺　門戸厄神　觀楓三日　十善寺　公園　仁王會（三日）　中山寺　勝尾寺　丹
◉十月
大般若經法會（十一日より十三日迄）　中山寺　大護摩修行（廿一日）　甲山大師　己成金小判授與（七日）　濁安寺　秋祭（十六日）　廣田神社　納骨堂施餓鬼（十七日）　摩耶山　秋祭（十一日より十三日迄）　多田神社　狩
◉十一月
秘密供修行（十四日より廿三日迄）　箕面聖天　物展覽（六日より十五日迄）　寶塚植物園　温泉めぐり　甲陽園　寶塚温泉　苦樂園温泉　ガウム温泉　越木岩温泉　試
◉十二月
火焚神事（十四日）　泉田神社　服部天神　除夜　廣田神社　祭（廿一日）　摩耶山　名庫　武神　川川　公園
大師命日（廿一日）　中山寺　十善寺　山　天
温泉　寶塚温泉　甲陽園　三ツ塚神社　山　寺　山　寺　山　寺

西の宮線

今津 西宮北口から高架線で省線、阪神國道を越すと今津に出る阪神電車との連絡驛で阪神線から寶塚へ出る人は此驛で乘替ゝ

門戸厄神 門戸厄神前下車、西北三丁の東光寺は人皇五十二代嵯峨天皇の厄難除願所で厄神明王は弘法大師の自作と云はれ古來靈驗著しく賽者常に絶えません。

ゴルフ場 逆瀬川下車、寶塚ホテル附屬ゴルフ場まで七丁。

平林寺 小林下車、東北二丁、聖德太子草創の靈刹で城内頗る廣く海内無双と云はれる名木臥龍松は寺内寶珠院にあります。

寶梅園 寶塚南口の西約五丁、園内眺望秀れ、紅梅の美近郊その比を見ない。

寶宛ホテル 寶塚南口驛前にある最新式の洋式ホテルで各種の娯樂機關完備してゐる。

寶塚線

大願寺 三國下車、東十丁、長柄人柱の舊蹟として世に知られ蘇我岩氏の墓があります。

服部天神 服部停留所前、脚氣天神と云はれて參詣者常に絶えません

萩の寺 曾根停留所から三丁、天平年間行基大僧正の草創に係り、寺域に萩多く、萩の寺の名もこゝから起つたものであります。

原田神社 岡町は曾根豊中と共に土地高燥、松林所々に茂り、住宅地として年々居住者增加し、原田神社は北攝奇習の一名物古式獅子祭で有名であります。

畑の大梅林 石橋下車。北へ十丁、菅公遺跡の大梅林で神敕により村民敬意を植え來つて一萬本を越え花季には花の海の壯觀を呈す。

茅野三平の遺趾 牧落から十丁、三平の屋敷跡と墓があります。

箕面 **みのおは近郊無比の森林美の仙境で**あります。瀧は二百尺餘流は十八丁、山容水態他に比類がありません。春は櫻、夏は綠、秋は日本一の紅葉で名高く、瀧安寺は公園一の橋から北六丁、有名な辨財天は日本四辨天の一つであります先頃大阪府によつて廻遊道路完成され愈々探勝の興趣深き

勝尾寺 みのおの瀧から卅町、西國二十三番の札所開成天皇の御創建に係り、光明院の御廟があります。寺内廣く眺望廣濶、秋は滿山の樹葉紅に染まつて美觀譬やうがありません。

呉服神社 池田は酒の名産地、呉服神社は機織裁縫の祖呉媛漢媛を祀ります。

多田神社 能勢口乘換、能勢電車多田驛下車、西八丁多田源氏發祥の地で源滿仲、賴光を祀り境内森嚴社殿宏壯「さつき」多く關西日光の名があります。

能勢妙見 能勢電車とケーブルカーで樂に行けるようになりました。能勢妙見は、海内無比の靈場と稱せられ、信仰歸依の人々頗る多く、尚この電車沿線は、頗る名勝に富み、牡丹の名所木部、皷ケ瀧の奇勝和泉式部の墓、眞言宗の古刹久安寺源賴光の母が菩提寺賴光寺、その他枚擧に暇がないのであります。

加茂桃林 花屋敷下車、南方七丁、滿開の頃この邊の丘陵に登つて眺むれば、一眸の中桃花ならざるはありません。花屋敷は雲雀ケ丘と共に規模廣大な住宅地、滿願寺は多田滿仲の創建

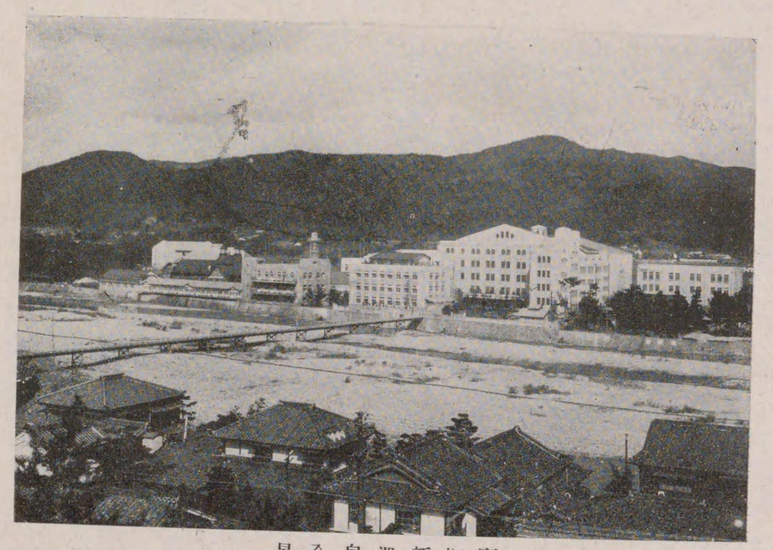
最明寺瀧 平井下車、北七丁。

中山寺 中山停留所前、眞言宗御室派の別格本山、西國二十四番の札所、十一面觀世音を祀り、俗に中山觀音といひます。堂宇伽藍巍立し、僧房末寺甍を列ね、毎年四月十五日から二十一日まで無緣經大法會、八月九日には有名な星下り御會式が執行され、善男善女の相聚るもの無慮十數萬といはれます。奥の院は本堂より山上十八丁。

めふ神社 寛布神社は延喜式内神社でさつきの名所であります。

清荒神 清荒神驛の北八丁、日本三體の第一清三寶荒神を祀り寛平七年宇多天皇の御創建に係り日本第一清荒神澄寺といふ勅號を賜つたのであります。驛に近く米谷八阪の梅林あり。武庫川の清流に臨み、周圍に桑疇を負ふ結構雄大な新温泉パラダイスは四千人大歌劇場も竣成しました。新溫泉に隣接して遊園地運動場植物園動物園ルナパーク等があります

阪急直營住宅地 阪急電鐵は夙に沿線景勝の地を撰び住宅地として着々經營致してをります目下の經營地は岡本、仁川、甲東園、豊中、櫻井、稻野の六ケ所で、理想的住宅地である。



寶塚新温泉全景

寶塚パラダイス内部

神戸線

猪名野神社　伊丹終點下車、伊丹は酒と由多加織の名産地縣社猪名野神社は、停留所の北五丁、素盞嗚尊を祀つてあります。

廣田神社　夙川驛下車、東北十丁、由緒ある官幣大社で天照皇太神の荒御魂を奉齋し、神功皇后三韓征伐の砌御祈願の地として名高く櫻とつゝじの名所であります。

甲陽園　甲陽園カルバス温泉は甲山の南麓に在つて天然の勝域に人工の風致を添えた理想的遊園地であります。温泉、旅館、料亭、その他甲陽歌舞劇場、大グラーンドをはじめ、娯樂機關完備し、園館の遊樂に好適の地であります。電車は遊園地前まで參りますから大變御便利になりました。

越木岩靈泉　苦樂園口驛下車、胃腸に良く効く靈泉で汲取人日に數百人、近く温泉、旅館が出來た。

甲山　甲山大師神呪寺は、甲陽園より約十二三丁弘法大師自作の如意輪觀世音を祀り、春は櫻秋は紅葉、美しく眺望絶佳の勝地。

苦樂園　苦樂園口驛下車、海抜百尺眺望に富み、四季風致深き天然公園で名高いラヂーム温泉があります。苦樂園までは停留所より乘合自動車の便あり片道廿錢。

汐見櫻　芦屋川に夙川　岡本、御影と共に理想的郊外住宅地として定評があります。汐見櫻は芦屋川停留所北二丁、優麗無比京都祇園の櫻と比び賞せられてをります。

この附近は松露松茸を産し、芦屋川の上流に高座瀧、芦屋ロックガーデンの奇勝がある。

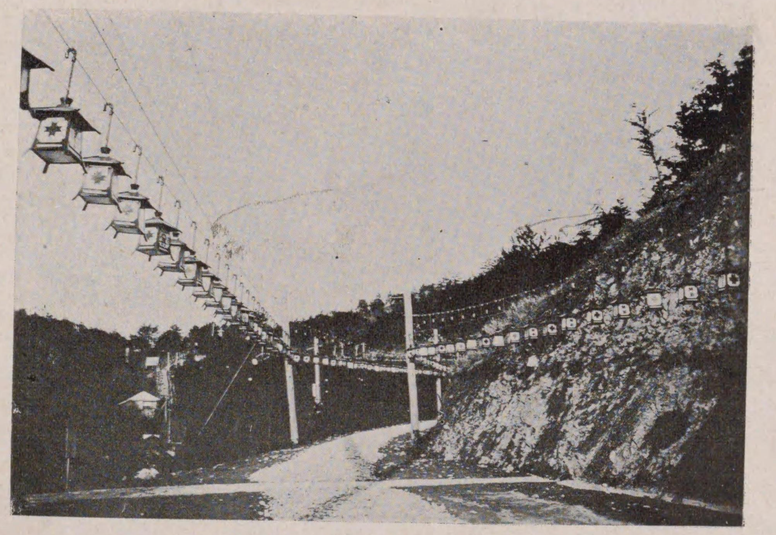
岡本梅林　岡本停留所の前、園内の廣さ二十丁歩、梅樹一千本二樂莊はこゝから西五丁。

六甲山　六甲驛下車、山頂まで一里十六丁、山道は、ゆるやかで婦女、幼年にも苦なく、海抜三千尺、眺望の美筆舌に盡し難い、六甲より有馬越二里十八丁山頂には、東洋一の大ゴルフ場、夏はテント村、冬はスキー、スケート場があつて、眞に理想的山上公園であります。山上には會社直營の食堂、倶樂部（一泊三圓）があり御食事に御宿泊に至極御便利である尚無料休憩所も設置してあります。

十善寺　六甲停留所より東北約七丁、十善寺は、弘法大師が延暦十四年自ら尊像を彫つて安置したといふ由緒深い寺で、境内に八十八ケ所の大師堂があります。境内は廣く幽邃で、さつき紅葉の名所風光明媚であります。

摩耶山　山上の天上寺は眞言宗の名刹で海抜二千三尺百ケーブルカーが開通致しました。

寶塚ゴルフ場



能勢妙見

箕面公園

日本一の紅葉の名所としてかくれのない箕面公園は、たゞに秋の紅葉のみならず四季とりどりに興趣つきない世界有數の森林公壷である大阪より阪急電車で僅か卅分で此の幽邃閑雅な仙境に遊び得ることは都人士にとつて大なる悦といはねばならぬ。

有名な箕面の瀧は高さ二百尺、瀧壷より泡を飛ばすこと珠を散すが如く霧を噴くこと雲の如し、日光これを燭して璀璨目を奪ふと古書にも記されてゐるが眞に近郊無二の美しい瀧である。

春は辨天堂境内の古木を始め、全山の櫻花咲き亂れて優艶を極め花見の名所としても近郊隨一の感がある。

夏の箕面公園は、溪聲涼しく綠蔭に河鹿鳴く絶好の銷夏境で神戸、大阪よりは十度も涼しく、全山の木々は枝を交えて炎熱をさえぎり、青葉に包まれた大瀧は萬斛の涼味を滿たす、實に言葉通り夏を知らぬ別天地である。秋は全山の楓樹一齊に紅葉して燃ゆるが如く、溪流も紅を浮べ樵夫は錦を着て家に還る、紅葉小逕を埋むる箕面の秋の面白さは又形容の言葉がない。

箕面の紅葉は日本一同時に世界有數の偉觀である白雪、霏々と降る箕面公園の雪景色はそのまゝ一幅の名畫である。

回遊のしをり

第一路

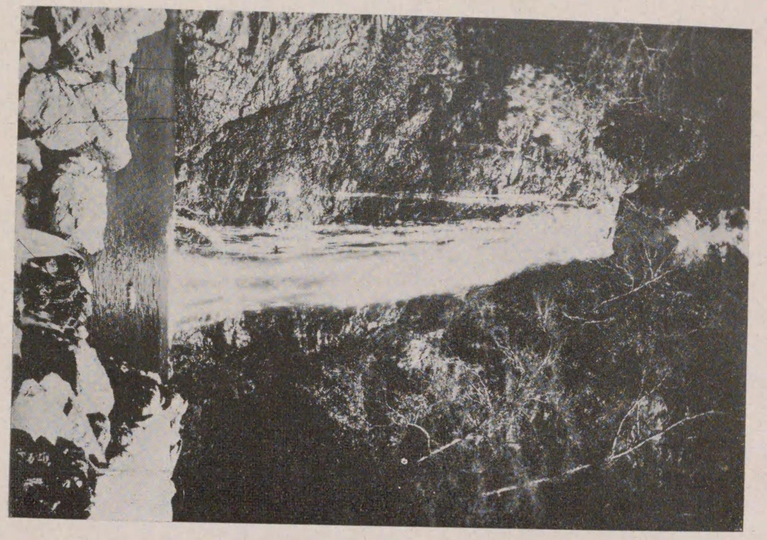
最もよく知られた所謂舊道である、一の橋から雌瀧に到る道で行程十八丁、道は平垣で婦人童幼も樂々と行ける時間にして約五十分翠巒溪流を挾み淙々の響、萬山の楓櫻、四季の風致深し箕面終點より二丁にして一の橋がある、これよりみのお公園で役の行者修業の靈蹟、密教第一の法窟なる瀧安寺は境内宏く老杉茂り晝なほ暗し、日本四辨天の筆頭箕面辨天堂には役行者作の辨天像を安置さる、程近くに行者修業の古場といふ小丘があり眺めがよい、唐人戻り岩は瀧道にある大岩石でその昔唐の使者來りこゝにて道の嶮なるに恐れ瀧を見ずに引きかえしたといひ傳へらる、このあたり秋は紅葉に滿山紅と化し一目千本の稱がある溪にそうて行くと忽ち直下二百尺の瀧に出るこれが舊くから知られた道で新らしく開かれた廻遊新山道は次に述べる路である。

第二路（廻遊新山道）

此路は第一道路より嶮であるから學生、青年團等には絶好の遠足である。瀧安寺に近く岩壁の間に紅葉橋がある。これが廻遊道路の入口である。廻遊道路は大正十二年大阪府によつて起工され十三年春完成した大工事で、此道のために新に拓かれた名勝が十六何れも雅致深く又眺望開け名實共に世界有數の森林公園なり。紅葉橋より登れば北攝の平野脚下にひらけ望海丘駒の背、淀の背更に如意丘に至れば淀川の遠望墨畫の如く大杉森々たる地獄谷で道は左右に岐れ一は峯をつたひ他は谷間に入る、谷は深く幽邃閑雅の仙境で夏のキヤンビングによい、光の谷、極樂谷、肅ケ谷なぞをすぎ右折すれば一本松であるこゝは園内第一の高峯で海拔一千百尺展望絶佳である。再び岐路に返り不老山雲隣臺に至れば林間より瀧の音微に洩れ來り靜寂の氣人に逼る西に下れば勝尾寺道杉の茶屋があり、雌瀧もほど近く一目千本より隧道を出れば名高き雌瀧がある。此間約一里。

第三路

此道はやゝ險阻であるが途中に奇岩怪石聳え立ち眺望雄大連峰を見晴して實に壯快な眺めに富んで登山家の間に有名である紅葉橋から一路政の茶屋に到ると道は二つに分れ一は右折して勝尾寺に達し一は左折して下り山間の溪流美しき中を雄瀧に出で更に雄瀧に出る此の間二里、二時半を要する箕面瀧より勝尾寺に到る卅丁の道程は溪流に沿ひて風光絶佳關西耶馬溪の稱がある。



園公面箕

狩茸松樂行の秋
（帶—線沿急阪）

寶塚ホテル

日本の新名物『寶塚少女歌劇』を始めあらゆる娯樂機關の完備した民衆娯樂の理想鄕、寶塚新温泉と武庫川をへだてゝ相對峙する、鐵筋コンクリート五階建の耐震、耐火の宏壯な寶塚ホテルは、大阪、神戸兩市より阪急電車で三十分で往來出來、最新式の完全な設備と稀に見る秀麗な風光とを以つた理想の郊外ホテルであります。御宿泊御滯在に又土曜日から日曜日にかけて御泊りがけの御浮遊に或は御宴會に其他家族的な行樂に實にもつてこいの便利で愉快なホテルであります。又別莊代り下宿代用としても十疊位の室で一ケ月朝食付で百圓內外で大皆樣に觀迎されております。

完全な諸設備

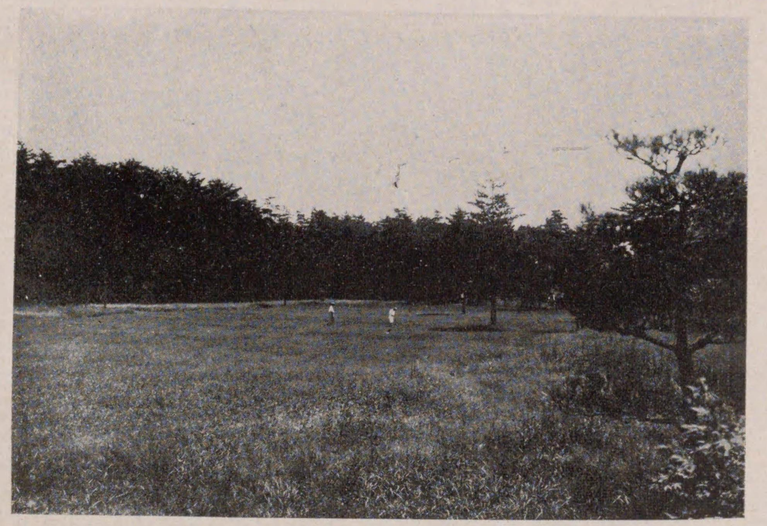
ホテルの建物は總計一千二百餘坪ありまして、昇降機、暖房、電話、電燈、給水、給湯温泉浴場の諸設備は遺憾なく完備して居ります。客室は大小二室、百五十人のテーブルが用意され、宴會場は特に絶好の處を撰びまして、二百人位いの宴會は樂に御催し得る樣にされてあります。又別にグリルルームも御座いまして何時にても美味な一品料理が召し上られます。應接室、談話室、球戲室、酒場等も完備し地下室には温泉浴場、化粧室、理髮室、竝に賣店が御座います。五階樓上談話室、娯樂室、化粧室及び舞踊室が御座いまして各種の室內遊戲が出來ます。又屋外にはテニスコート、射擊場、大弓場及ゴルフリンクは少し山手の小高い眺望の佳い地點に「ナインホールス」の理想的なものを作つてクラブハウスも建てゝ御座いますゴルフリンクを有するホテルは恐らく他にない事と聊か誇りと致して居ります。

御室料と御食事

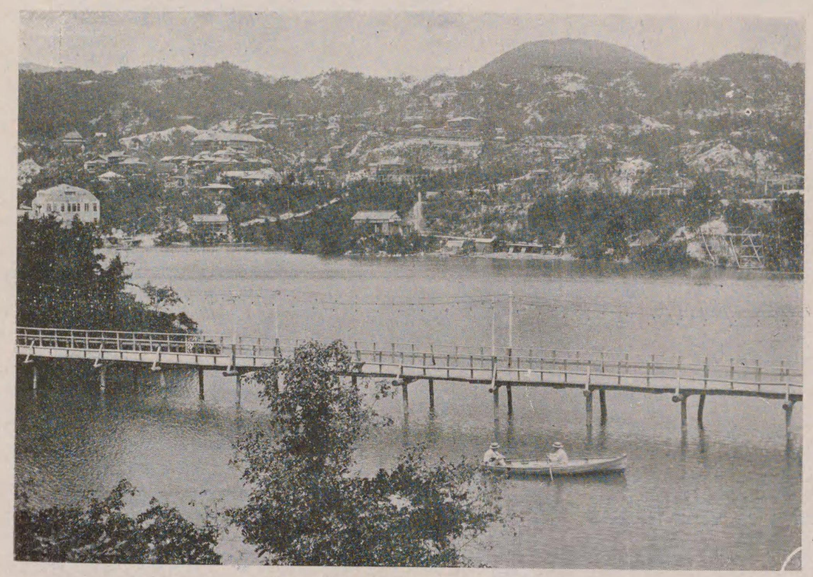
室料は何處のホテルにも負けない勉強振りで低廉な事は無類と自負致して居ります。一泊參圓五拾錢より貳拾圓迄各種に分れて大小六十何室が整へて御座います。

一、八疊敷位の廣さ　（御一人樣）一泊　參圓五拾錢　一、十疊敷位の廣さ　（御一人樣）同　四圓五圓
サンルーム附　（御一人樣）同　七圓　一、十五疊敷位の廣さ　（御一人樣）同　六圓八圓五拾錢
一、寢室の外に十五疊敷位の應接間と浴室便所竝にベランダー、サンルーム專屬
但し御二人樣の場合は各室料共五割增
一、御食事は　（朝食）壹圓　（晝食）貳圓　（晩食）貳　五拾錢
別にグリルルームではおいしい珍らしい一品料理の御求めに應じます。
寶塚ホテルに關する一切の御用は阪急電車梅田終點（電話北一六六〇、三四三一）及び同神戸終點（電話葺合九七〇）へ御問合せ下さい。

寶塚ホテル　電話寶塚（三一〇・一〇九番）
阪急西宮線寶塚南口驛前（ホテル前）



グンリフルゴ



甲陽公園池畔

甲陽土地株式會社經營地甲陽公園全景

甲陽土地株式會社は大正七年五月の設立で創立以來茲に十年其間幾多の困難曲折を經過致しましたが皆樣の御後援に依り漸く內容も充實し種々の機關も整ひ將來の基礎も確立致しまして今日の發展を得ました事を感謝致します。現今色々社會皆樣の御高評を戴いて居りますから茲に一言會社の內容及抱負の一端を一般に御報告申上たいと存じます。米國の富豪カーネギー氏は「銀行會社に勤めて居る人は少しでも餘裕が出來れば先づ住宅を買つて家賃を拂はぬ工夫をする事で夫れが成功致富への第一步である」と世界の富豪の七割は實に土地で財産を殖へたと謂はれて居ります。甲陽土地株式會社の經營地は大阪市と神戶市の眞の中央に位して居ります。大阪地は申す迄もなく東洋第一全世界の大都市で神戶市は東洋第一世界屈指の良港であります。甲陽土地の經營地は實に此二大都市を套ふ百萬坪の自然的大公園で御座います。

土地の利を占めて居ります上に古來から風光明媚の聞ある甲山の東西麓全體を占め大阪灣を前栽の池とし六甲連峰を背景とする自然の公園であり全く理想の住宅地であります御承知の如く我日本の人口は毎年七十萬人宛の增加を示して居り而かも其大部分は大都市に集中するの傾向があります。大阪市神戶市の如き非常の勢で膨脹增加して居り是等の限りなき多數の人々を吸收する爲めに大阪市神戶市は其勢ひ郊外へと膨脹して居ります。

從つて地價も亦郊外が之れに並行して騰貴し大正七年本社が一坪一圓五十錢に買入れました土地が只今一坪百五十圓の場所も出來ました。近々十ケ年に實に百倍の騰貴であります。

經營地百萬坪を一坪平均三十圓と致しましても三千萬圓となり實に二十倍の騰貴であります。

之れは即ち會社が地價の最も低廉なる時代最も低廉に買入れたるに起因するものでありましてこの點が實に甲陽土地會社の財產上の安全であり力强さの骨子であります。

大正八年世間一般地價の騰貴に伴ひ會社所有の土地は少くも五倍以上の一坪八圓乃至十圓に騰貴致しました換言すれば一ケ年後に買收すれば一坪八圓乃至十圓を相當とし即ち一ケ年後の大正八年には假に一坪五圓と致しまして二百萬圓の評價利益があつたのであります。

甲陽旅館は大正十年に開業致しましたが今日迄の資上高は僅か百萬圓でありますが其規模の大と設備の整頓におきましては關西第一流の旅館料理店であります。今後益「とくい」老舖かつきさすれば一ケ年三十萬圓位の純益は容易に擧げ得る事と存じます。

甲陽公園の入園料は大正十二年甲陽劇場が竣工致しました時に創設致しました。最初は僅か四千二百圓でありましたが次期から一萬八千圓、二萬三千圓、三萬四千圓と每期逐次急激の增加を致して居ります。

今後設備の充實と相俟つて一ケ年六十萬圓を擧げる事は左程困難でなかろうと確信致します。

甲陽土地株式會社の現在の投資は拂込株金百八十七萬五千圓、社債百五十萬圓、負債百萬圓合計四百三十七萬五千圓でありまして道路、開設、土地の開拓、旅館、温泉、倶樂部、劇場の建築、遊園地の設備、電車布設費、上水道布設費、電燈電話、歌舞練習生養成費等より新聞廣告其他宣傳費迄悉く之れにて支辨致して居ります。

又一面より見ますれば廣漠たる山林を開拓し一大公園とし社會に提供致しました事は正に一の國家的貢獻であります（大阪市內公園坪數一一六、二一三坪）

甲陽公園で衣食せられて居ります人々、甲陽公園に住居し

地を極めて廉價なる一千萬圓と評價し毎年共百分の五（米國紐育市の土地增價率は一ケ年平均百分の四でありますが大阪市、神戸市はそれより餘程高く阪神間は一層高率であります）の價を增すものとするも毎年五十萬圓宛の增價利益は誠に當然であります。

試みに大阪市の船場　千日前の土地所有者が一坪百圓乃至二百圓の土地を所有し以て如何にして筒一杯の抵當の金利を支拂ひ得るやとは十五六年以前の一般識者の心配せられた事でありましたが、それは今日千圓二千圓の騰貴により全く杞憂に過ぎ去りました。

甲陽公園大釣橋

て居らるゝ人は二千人を算し創立當時を回顧しますなれば自然に喜びの浮び出るを禁ずる能はざるものがありまず。尙會社以外土地所有者の住宅其他に投ぜられたる約二百萬圓と共に土地發展價格增加の宣傳等に依り會社現在の所有

甲陽アルプス

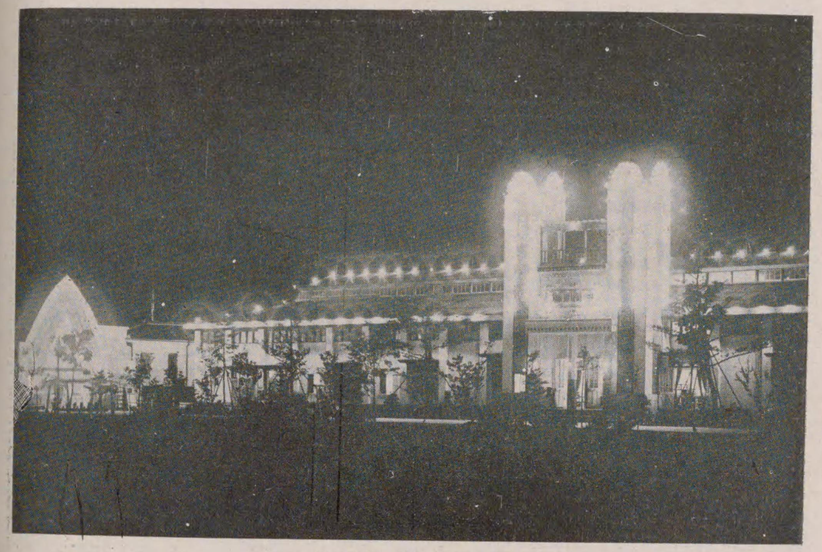
甲陽公園が大阪市の船場千日前の日抜の場所以上に大阪市神戸市の娯樂公園として住宅地として最優秀地であり且、必須の場所たる事は前途の船場千日前に比し、より急速に發展する事は火を見るよりも明かであります。

顧るに大正七年會社創立當時は甲山大師道に僅か一軒の藁葺の茶店があつた許りで誠に淋しい山間でありました。其當時遊園地内の大池にさゝ舟間でも近隣の人々も恐れて寄付なかつたすごい場所でありました。

僅か八年間に然かも景氣の惡い間に戸數三百戸人口三千の繁華地になつたのであります。近き將來には堂々たる甲陽市に發展し數萬人の衣食住を供給し一方には每年數百萬人の來遊者あり共娯樂及健康を增進する事は社會力國家に對する偉大なる貢獻と確信致します。（本社の隆盛今日あるは創立以來努力孜々として倦まざりし創立者本庄京三郎氏と本社役員株主の一致協力の結晶である）

甲陽遊園地

ボート遊び上空



甲陽大劇場夜景

甲陽公園旅館全景

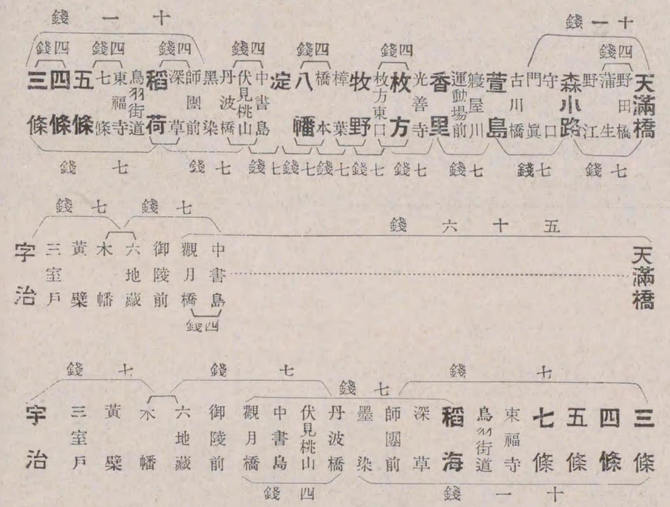
京都圓山公園

同　上

京阪電氣鐵道株式會社

京阪電車乘車賃金表

（昭和二年七月改）



◎往復賃金は片道賃金の二倍です

◎特に左の區域に限り割引券を發行いたします

三條宇治間 片道 二十五錢 往復 五十錢

天滿橋三條間 片道 六十八錢 往復 一圓三十六錢

小兒割引券—滿十二歳未滿者にして片道賃金三十五錢以上の區間に限る 片道 三十四錢 往復 六十八錢

◉回數乘車券賃金

△本券通用期間は發賣當日より滿六ケ月種類は左の通りであります

一、區内回數券(四錢の區域)

一、普通回數券(七錢の區域)

一、區外回數券(十一錢の區域)

一、幼者向數券(十二ヶ未滿の兒童)

一、天滿橋—三條間回數券

△四錢區間 回數券(五十回分) 一圓八〇

△同 幼者 回數券(五十回分) 一、〇〇

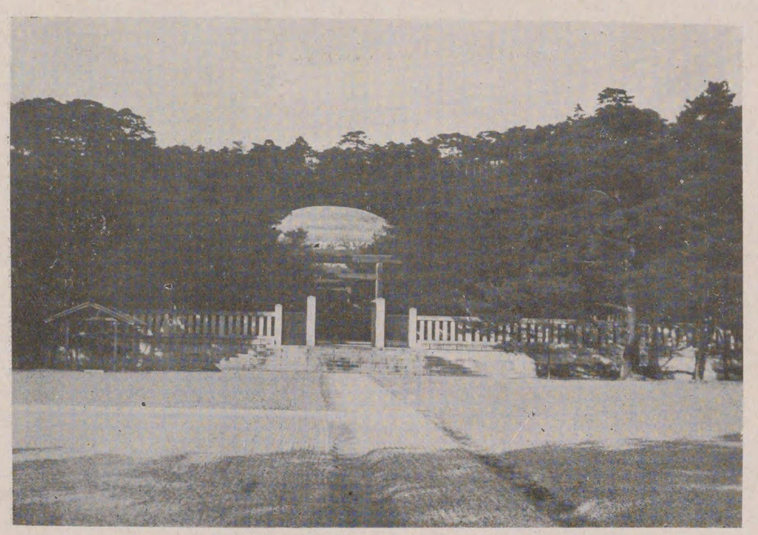
△七錢區間 回數券(五十回分) 三、一五

同 幼者 回數券(五十回分) 一、七五

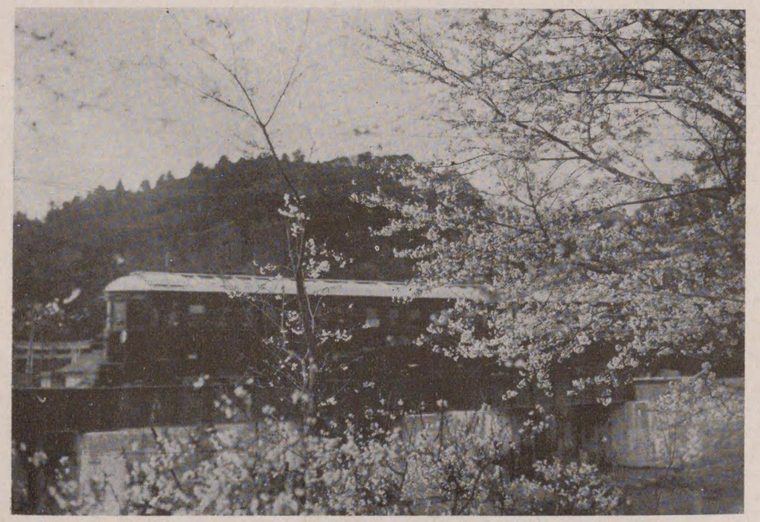
△十一錢區間回數券(三十回分) 三、〇〇

同 幼者 回數券(三十回分) 一、六五

△天滿橋三條間 回數券(二十回分) 九、九五



伏見桃山御陵



やはた石清水八幡宮の櫻

伏見桃山陵

坦々砥の如く、微白む御陵道を進めば、兩邊の樹々は枝も鳴らさず、治まる御代を壽ぐかと思ひなされます。清冽な御手洗に嗽ぎ、明治天皇の聖靈、千古不磨に輝き給ふ陵前に跪坐して御拜するとき、森嚴崇高の氣に、身も心も淨まる心持です。初詣では桃山に限りません。

伏見桃山東陵

桃山の陵前、樹間の捷徑を東へ下ること三丁で東陵に達します。御婦徳の譽彌高い昭憲皇太后の御靈永久に鎭まります。白砂青松の陵域は嚴なものです。

石清水八幡宮

壹千年來皇室尊崇の的となり伊勢に亞ぐ靈地として信仰される開運厄除の官幣大社石清水八幡宮は、その森嚴、其の靈驗四海に秀で、新年の初まゐりとして大阪、京都隨一の社。歳旦昧爽から肩摩轂擊の雜閙です。

やはた出世開運厄除大祭

例年一月十五日から十九日まで執行される開運厄除大祭は、皇都の四方國境で行はれた厄神祭に起原する由緒深い大祭で出世開運厄難除の參詣者が夥しく參集します。京阪電車ではやはた驛を新築し、地下道を造り面目を一新いたしました。御參詣が非常にお樂になつた譯で。男山ケーブルは驛前から發車いたします。

ふしみ稻荷神社

福德圓滿、五穀豐饒を司るいなり神社の總本家で、初詣りには缺かされません。況していなり信仰家家内に勸請してゐる特信家も新年は伏見稻荷にまゐらねばなりません。京阪電車を下りて先づ潛る朱丹の華表も景氣よく朱欄碧瓦燦爛たる本殿で福德圓滿を祈願し、お山めぐりにかゝると、福運に乘じた樣な心持がいたしませう。

一月五日の大山祭は酒造販賣家には特にえんぎものとしてはやされ、式後の土器取りはすばらしいものです。

初巳は二月十一日(紀元節の吉日)いなりのお山は夜徹し山賑ひ、電車は大阪、稻荷前、京都間終夜運轉で非常な賑ひです。初午は二月十二日、二の午は二十四日に當ります。

大阪——京都

ローマンスカー大増發運轉

當社では豫て乘客輸送の萬全を期するため、聯結列車を新造し、之に新たにローマンス、カー三十輛を加へましたので、京阪間急行運轉が圓滑になつてまゐりました。殊に歲旦の大輸送には全能力を擧げて嘗てなき大增發運轉を行ひますから、きつと、御滿足を得ることゝ存じます。京阪電車の車輛課では、特に留意して電氣暖房裝置に努めました爲め、暖かい電車でゆつたりとおまいりが出來ます。

京阪電車案内

初發電車
京都　大阪相互
冬期午前五時。夏期午前四時三十分。
終發夜十二時。

京津線初發
三條滋大津相互
冬期午前六時。夏期午前五時。
終發夜十二時。

京阪間急行電車は十分間隔に發車いたします。

急行電車停車驛　枚方東口。八幡。中書島。伏見桃山。稻荷。七條。五條。四條。三條。

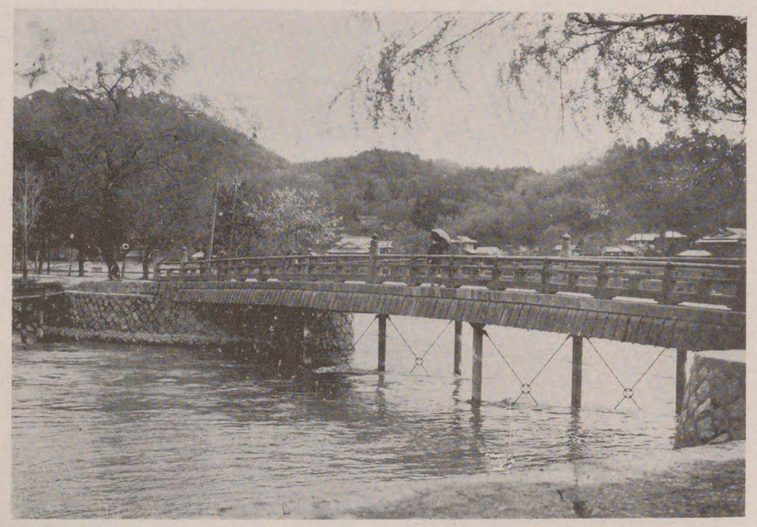
途中下車驛　途中下車は凡て前途無効ですが十區券以上の乘車券御使用の方に限り八幡、御陵前の二驛又は八幡、伏見桃山、稻荷の三驛に下車御隨意です。

携帶手荷物一時預り取扱驛　天滿橋。八幡。中書島。宇治。伏見桃山。四條。三條。

遺留品　電車内及び各驛にての遺留品に關しては大阪天滿橋驛（電、東、七番）京都三條驛（電、中、四七五番）大津は四宮驛（電、上、一七一七番、上、三七四番）へ御照會下さい。

直營京阪食堂　大阪天滿橋降車口前の當會社直營京阪食堂は午前十一時から午後十時迄いつも清新な御料理季節の飲料水等美味に迅速に調理して御行樂の前後皆樣の御立寄りを御待ちして居ります。（電、東、二八三三番）

宇治平等院鳳凰堂



宇治の春

琵琶湖第一

新造遊覧船 京阪丸

大津石場濱の湖南汽船造船所で起工中の新造京阪丸はこの程完成したので二月二十六日に盛大なる進水式が同所で擧行された何分長日月を要し四十萬圓の巨費を投じた丈けに造船界の粋を遺憾なく具備されて居る。船体はブルヂ型の驅逐船タイプの三層で總噸數五百噸、長さ百六十尺、巾二十四尺、定員五百人を擁し速力は十六節の快速で大津から竹生島まで僅か二時間で航行が出來る。エンヂンは獨逸マン會社の優秀なもので全くイシアフト式の絶對震動せぬ特色を持つて居る。船室も裝ひ美しく特等、普通室の外娯樂室、酒場、食堂浴場から化粧室圖書室まで完備されて居る。又船尾の階下デツキはソシャルダンスのステップにこの上もなく出來て居る。

船は午前十時濱大津出航長命寺竹生島、近江舞子を廻つて午後五時半歸着（案内書入川の方は京阪電車事業掛へ）

琵琶湖遊覧

竹生島めぐり （琵琶湖鐵道汽船連絡）

△みどり丸、竹生島丸、桃太郎丸等最新遊覽船。
△京阪電車終點濱大津棧橋午前十時發午後六時半歸着。
△三月十八日より十月中は每日出船。
△十一月は一日。十五日。日曜。祭日に限り出船。
△每月日曜、十日に當らざる月末二日及雨天休航。
△但し十一月廿四日より翌年三月迄は休航。
（上陸地）竹生島。近江舞子又（は長命寺）
△太湖汽船竹生島廻遊連絡券天滿橋より往復賃金四圓二十九錢（通用期間發行日共七日間）

近江八景めぐり （湖南汽船連絡）

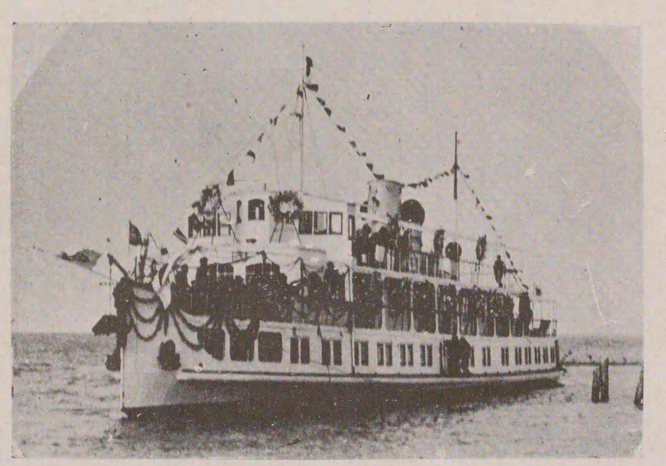
△京阪丸、平安丸、明治丸大正丸等最新遊覽船。
△京阪電車終點濱大津棧橋午前十時發午後四時歸着。
△三月十五日より十一月末まで每日出船其他日曜、祭日、物日等乘客多き時は臨時船增發す。
（航　路）濱大津。紺屋ヶ關。南郷。石山寺。矢走。堅田。坂本。新唐崎。三井寺を經て歸着す。
（上陸地）南郷。石山寺。坂本。新唐崎。
△湖南汽船近江八景廻遊連絡券天滿橋より往復賃金二圓七十九錢（通用期間發行日共七日間）

石山三井寺遊覽 （琵琶湖鐵道電車連絡）

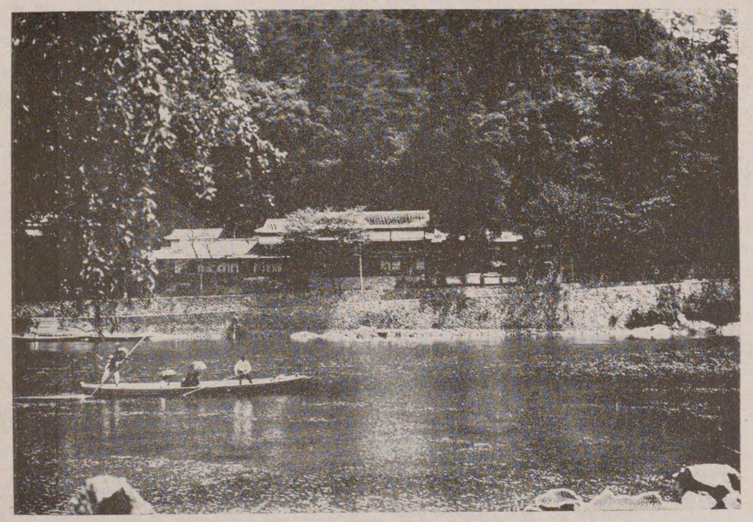
△琵琶湖鐵道石山三井寺廻遊連絡券天滿橋より往復賃金二圓廿錢（通用期間發行日共七日間）

近江舞子比良遊覽 （江若鐵道連絡）

△江若鐵道近江木戸（比良）連絡券天滿橋より往復賃金二圓七十錢（通用期間發行日共七日間）
△江若鐵道雄松連絡券天滿橋より往復賃金二圓八十九錢（通用期間發行日共七日間）



日本一の近江の琵琶湖景色に名高き湖水の面に雄々しい姿の京阪丸



宇治龜石温泉を望む

南海鐵道株式會社

名所への里程

大阪市内

○千日前、道頓堀　難波驛
○新世界、天王寺公園　惠美須町
○四天王寺　同
○今宮戎　今宮戎驛
○聖天山　阪堺線北天下茶屋
○阿部野神社　同宮の下
○帝塚山　帝塚山共樂園（プール）　上町線帝塚山より二丁
○住吉公園、高燈籠　帝塚山共樂園前
○住吉大社　住吉鳥居前　阪堺線住吉公園驛
○あびこ觀音（厄除）　住吉公園より十五丁
○無線電信局　阪堺線我孫子道より五丁
○大念佛總本山　高野線中野より八丁

堺市内

○妙國寺　南海鐵　妙國寺驛
○南宗寺　同　同
○龍神遊園　龍神遊園驛　同
○大濱公園　同　同
○大濱潮湯（少女歌劇）　同　阪堺線大濱海岸
○水族館　同　同
○大濱飛行場　同　同
○北波止（汐干狩）　同　同
○みなと遊園　同　同

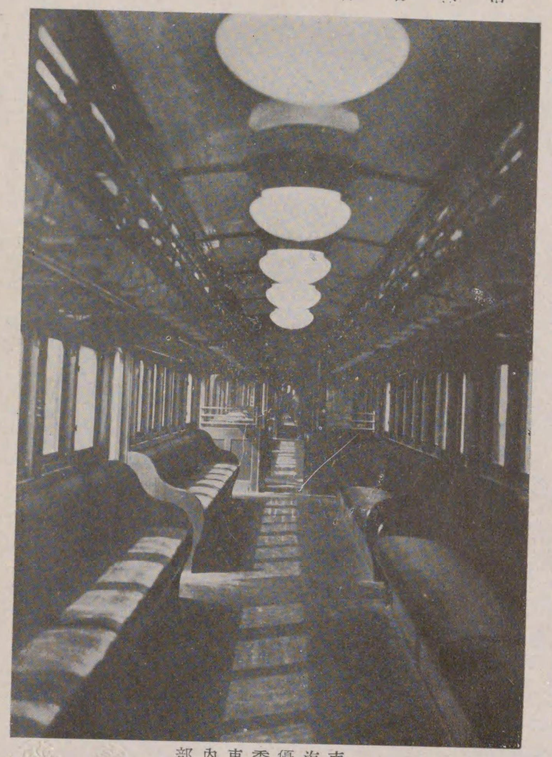
沿線

○濱寺公園（公會堂）　濱寺公園　九丁
○濱寺海水浴場　同　同
○大鳥神社（官幣大社）　同　十五丁
○家原寺（西國四番札所）　同　同
○槇尾寺（西國四番札所）　同　四里（乘合自動車あり）
○信太森（葛葉稻荷）　葛葉驛より八丁
○久米田寺（橘諸兄の墓あり）　春木驛より十三丁
○牛滝山（紅葉名所）　春木驛より三里自動車あり）
○蛸地藏　（岸和田驛より一里）
○岸和田城址　蛸地藏驛より三丁
○貝塚遊郭　貝塚驛
○水間觀音（遊園地）　水間驛より十丁
○大鳴山七寶瀧寺　同　同
○塔圍右衛門の墓　同　同
○林昌寺山　同　同
○砂川奇勝　同　同
○金熊寺溪（梅名所）　水間驛より三里
○小川溫泉　同　同
○田山稻荷　同　同
○淡輪遊園（魚つりとつづしの名所）　淡輪驛より十丁
○淡路洲本（海上一時間五十分）　深日驛より二十五丁（乘合自動車あり）
○谷川港（大物釣り）　同　一里十丁
○大川濱住吉大師　尾崎驛より一里
○椎ノ神社　箱作驛より八丁
○高野山　淡輪驛より二丁

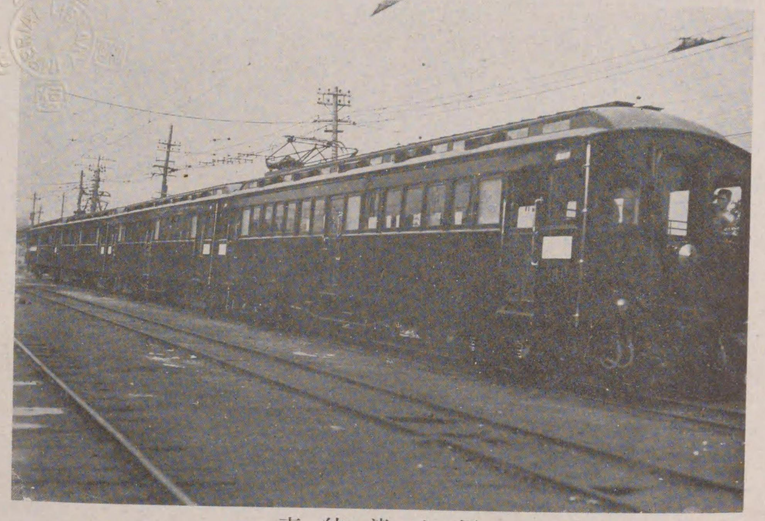
高野線

○總本山總持寺　加太驛
○加太淡島神社　同　同
○紫山要怎御坊　和歌山市驛より五丁
○鷺の森御坊　和歌山電車公園前
○和歌山城址　同　和歌浦
○新和歌浦　同　和歌浦
○雜賀崎奇勝　同　和歌浦より十八丁
○紀三井寺（西國二番札所）　同　紀三井寺
○琴の浦　同　同
○根來寺（櫻名所）　和歌山より一里
○粉河寺（西國三番札所）　同　粉河寺より五丁
○大田窯柑本燒　紀勢西線加茂鄉驛より一里
○有崎　同　同
○葵ケ濱　同　巽島驛附近
○千田神社（中將姬古蹟）　同　同驛より十五丁
○得生寺（中將姬古蹟）　同　同驛より二十丁
○淺香山稻荷　堺東驛　同　藤並驛より半里
○方違神社　同　同　十丁
○大仙陵（仁德帝御陵）　同　同　二十丁
○反正帝陵　同　同　同
○履仲帝陵　同　同　同
○百舌鳥八幡宮　百舌鳥驛　同　四丁
○金岡神社　中百舌鳥驛より八丁　同　同
○堂生神社　北野驛より二十丁　同　同
○興山大池（周圍一里半）　狹山驛より五丁　同　同
○上神谷不動明見　瀧谷驛より一里半　同　同
○瀧谷不動　同　同　同
○長野遊園　長野驛　同　同
○河合寺　同　同　二十丁
○女人高野天野山（南朝史蹟）　同　同　五十丁（乘合自動車あり）
○槇尾寺（西國四國札所）　同　同　三里
○四十八龍　同　同　二里半
○觀心寺（後村上帝陵）　同　同　二十丁（乘合自動車あり）
○楠妣庵（楠公夫人遺蹟）　同　同　二十五丁
○錦溪溫泉　三日市町驛
○延命寺（紅葉名所）　同　同　十五丁
○岩沙寺　同　同　二里半
○清水地藏（杜鵑名所）　千早口驛より四丁
○千早城址　同　同　一里半
○金剛山（海拔四千八百尺）　同　同　一里半
○子安地藏　御幸辻驛より十丁
○市脇の茸山　同　同　八丁
○安閑天皇陵　學文路驛より二丁
○觀音堂（石童丸舊蹟）　九度山驛より三丁
○眞田幸村古蹟　同　高野下　八驛
○慈尊院（弘法大師の母の廟）　同　同　十四丁
○椎出　神谷　極樂橋　同　同　二里十丁　乘合自動車あり
○高野山　同　藤並　同　同　二里十四丁

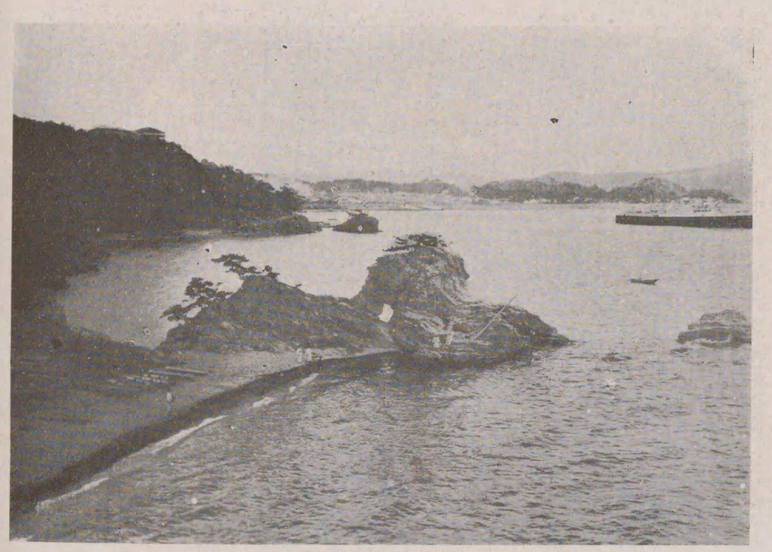
◎難波和歌山市間直通電車は
難波發午前四時五十分より午後十一時まで、和歌山市發午前四時四十二分より午後十時五十八分まで双方より約三十回發車致します
◎四輛つなぎ貫通式特急、急行電車は
難波發午前七時より午後九時まで、和歌山市發午前六時五十分より午後八時半まで特急は双方より七回、急行は双方より八回發車致します、特急は食堂、特等、並等、手荷物室、便所附の新式電車にて難波和歌山市間を一時間十五分にて運轉致します
◎天下の靈場高野山へ日歸りは樂になつた
大阪の中心地難波驛より高野山の一里麓高野下驛（椎出）まで直通電車が四十分毎に通つて居り更に乘合自動車を利用すれば徒歩二十三丁で山上に達し樂々と日歸りが出來ます



南海優秀車内部

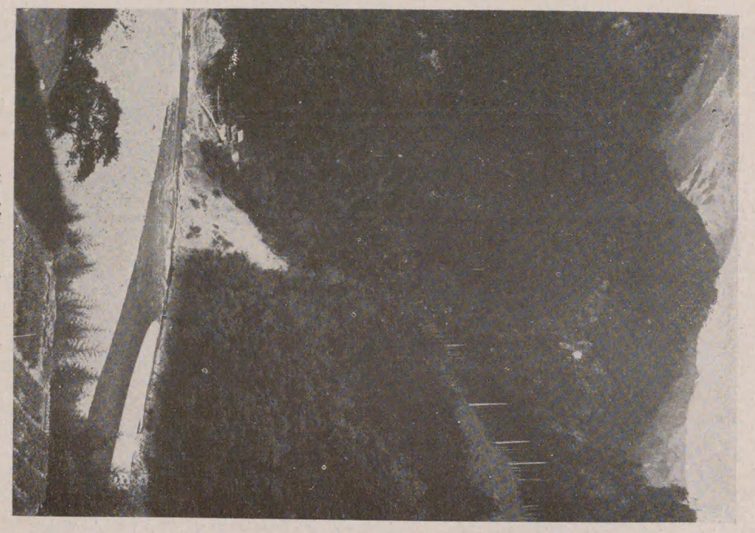


同上連結車



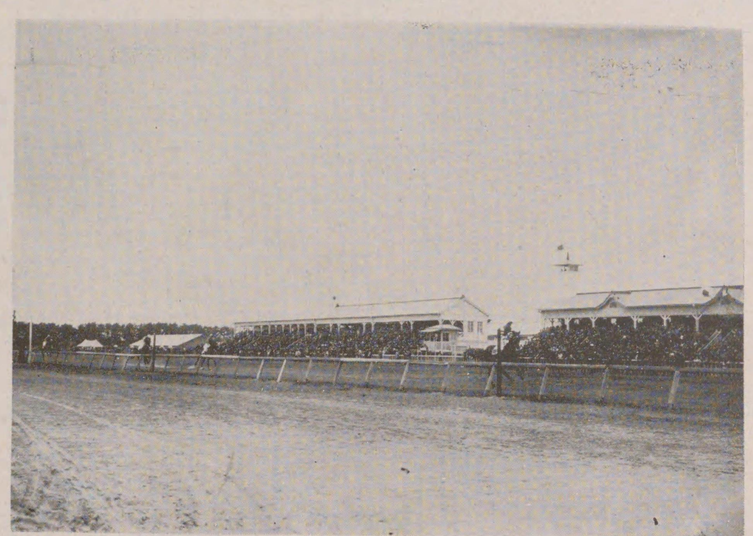
新和歌浦萬葉樓よりピクニック岩を望む
（由良要塞司令部許可証第二六二號）

新和歌浦牛鼻より南海遊園食堂を望む
（同　上　許可証第二六二號）

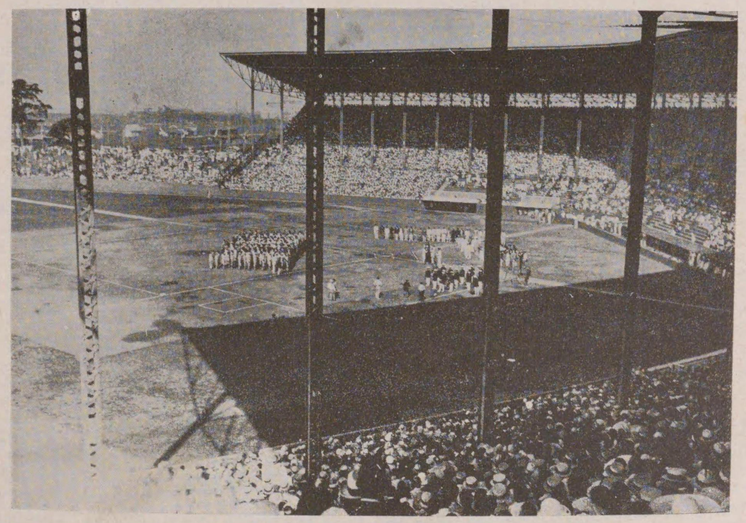


高野山の遠望

高野山金剛峯寺



鳴尾競馬場



甲子園クラウンド

阪神電氣鐵道株式會社

營業案内

◈營業時間 (途中下車は前途無効)

四月一日より十月十九日迄

初發 本線 大阪發神戸行(午前四時三十分)
北大阪線 野田發天六(午前四時三十分)
傳法線 千鳥橋發大物行(午前四時二十八分)

終發 本線 大阪發神戸行(夜一時三十分)
北大阪線 野田發天六行(夜十二時十分)
傳法線 千鳥橋發大物行(來十二時十分)

十月二十日より三月三十一日迄

初發 本線 大阪發神戸行(午前四時三十分)
北大阪線 野田發天六行(午前四時三十分)
傳法線 千鳥橋發大物行(午前四時二十分)

終發 本線 大阪發神戸行(夜一時三十分)
北大阪線 野田發天六行(夜十二時十分)
傳法線 千鳥橋發大物行(夜十二時十分)

◈急行運轉停車驛

野田、千船、大物、尼崎、出屋敷、西宮東口、西宮、香櫨園、蘆屋、魚崎、御影、東明大石、岩屋、春日野道、三宮

◈遺留品

電車内各停留場の遺留品は總て梅田停留場(電話北一〇一二番)には取扱致します

乘客手荷物

一般乘客の迷惑とならざる範圍に於て手荷物は携帶(無賃)を承諾致します但し行商人其他の者の携帶する商品は重量十貫容積六立方尺以内とし區毎に金八錢の賃錢を收受す

◈手小荷物一時預り

神戸梅田兩停留場にては御手荷物一時御預り致します

◈神戸梅田兩停留場

にて御手荷物御携帶の方の御便利の爲め荷物運搬人(實帽)を營置して居ります

◈貨物運送

貨物運送區間 乘客運賃區間と同じ、普通、特別、貸切の種別あり運送取扱所は裏面に有り、御不明の點は御電話にて御聞き合せ下さい

武庫川

武庫川遊園　阪神沿線

中水清白砂雪を欺き松林翠蓋を重ね春秋の草花この間に點綴して、優にやさしき和歌調の景趣を以て秀でたるは武庫川遊園を措いて他に求め難い、堤防には春は櫻、秋は紅葉、萩、夏の螢狩りと月露の風趣は又更に佳絶である。幼稚園や小學兒童團体の遠足には實に保健上此處に越す處は無い琴絃を奏する様に清流潺々白砂の上を滑るが如く海に入る眺めの良さ武庫川停留場下車一歩にして景中の人である。又此の濱の丸島附近一帯は魚釣りと汐干狩とに知られた處である。

香櫨園

香櫨園濱大海水浴場

停留場より夙川岸を並木松の中を南へ四五丁にして香櫨園濱に出る。阪神電車直營の大海水浴場で數十棟の休憩所、温浴場、水浴場、脫衣場、等施設萬端整ひ又期間中は演藝場阪神館では晝夜を通して嶄新な餘興が行はれ盛夏の頃は非常なる賑ひを呈する苦樂園、香櫨園停留場から苦樂園往復の自動車が出る海拔約百五六米六甲アルプスの山脚にあつて前面に茅渟海を望んで眺望實に良し冬は南風訪れて暖く夏は夕陽を遮つて涼味又更なり、花木あり、溪水の清冽香氣襲ふ一として煎茶道家憧憬の地である。腦病、心臟病に特効ありと云ふラヂユーム温泉、ホテル、料亭等の設備がある、苦樂園の名は故大隈侯の命名に依ると云ふ。

武庫川の蜆狩

香櫨園の海水浴

石屋川六甲登山口

鳴尾の「ィチゴ」狩

石屋川

六甲登山をするには此の停留場よりするが最も便利である北へ約一里半途甲紅葉で名高い一王山十善寺がある臨濟宗永源寺派に屬し天嘉九年信覺大師の開基後永祿の兵燹に燒失したが寶曆十一年呑海和尙が再建今日に至つたものである。境內には紅葉樹多く秋色染む頃は曳杖の雅客仰々多し十善寺の背後には赤松岡心則村が正慶年間六波羅勢を惱ました赤松城址が殘つて居る六甲山高さ九百三十二米花崗石第三紀層石英斑岩よりなり茶褐色に風化した岩が所々に露出して居る。頂上に立てば東に大阪平野を隔てゝ金剛の連山を望み南方には鏡の樣な大阪灣を脚下に見下し海岸に沿ひて田園良く開け其の中に西宮御影の甍が見える北方には丹波山、逢ヶ峯、高丸山、等も指呼し得て大阪に最も近い處で是程雄大な勝地は他に見ることが出來ない、此處より北に道をとれば有馬に出で、峯ずたひに西南に歩を進むれば東洋一のゴルフグラウンド、六甲紀念碑、前ヶ辻を經て鵯越を攀れば摩耶山の背後に出る、冬はスケート・春はツヽジ共に從走の最も興味ある季節である。

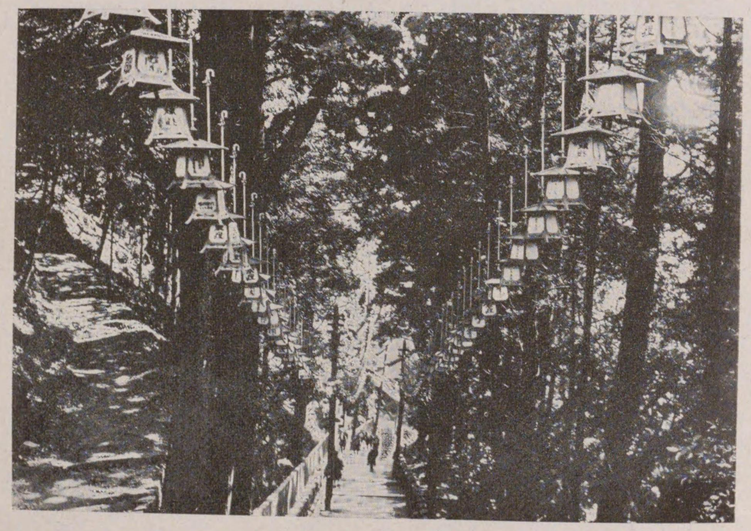
鳴尾

昔は『月もろともに出汐の波の淡路の島影や遠く鳴尾の沖過ぎて』と謠曲高砂に謳はれた月の名所であつたが今は苺と競馬に其名を奪はれて居る鳴尾の苺、何處の喫茶店でも五月に入ると鳴尾の苺が出さしたとビラを出す。ルビーの樣 眞紅の苺が皿に盛られて出る都會の初夏が今更に懷しさされる。風薰る初夏の費鳴尾に下車すれば一帶の郊野は踏み場も無い程紅玉累々として五色の旗は空に飜り三々五々かしこに一組こゝに一團と苺狩の人々が續く、初夏の鳴尾はこれ等苺狩の人々で停留場附近一帶の苺畑は異常な賑ひを呈する。

廣田神社

門戸尼神停留場の北二十丁甲山の麓にある本尊弘法大師作の厄神明王は厄除、開運、和合、結緣に靈驗があある月の十八、九日は參詣の人々多く殊に正月の十八、九日の厄神詣は晝夜參詣者郊野に黑々と續き篝火の中に厄神の門頭をのぞむ寒夜の光景は雄壯な心に打たれる廣田神社、停留場の北十三丁丁度散策に頃良い歩き加減である。神社は廣田山麓にあつて天照皇太神御神の荒魂を祀る官幣大社である。境内は松籟颯々神氣澄む境地で又つゝじは仝山を蔽ひ關西隨一の名所として知られ春四月中旬より五月の初旬迄は仝山燃ゆるが如く仲々賑ひを呈す。

廣田神社

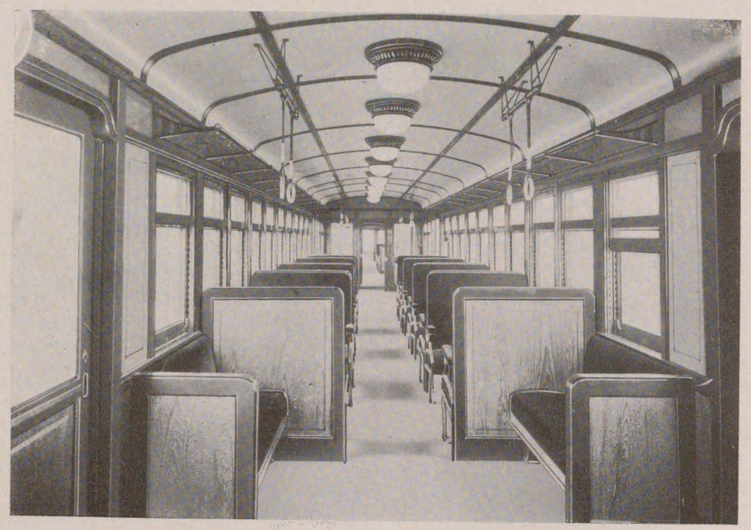


摩耶山

新京阪鐵道株式會社

案内要綱

新京阪電車の線路は大阪(天六)から京都(四條河原町)に至る本線に淡路から分岐する千里山及十三支線と、それに桂から岐れる嵐山支線であつて、高槻以東は今工事中で近く全線開通の豫定である。由來、沿線各地は風光明媚、そして隨所に史蹟の香が高い。春夏秋行樂の一日を、御家族連れの清遊に又探勝に、更に史實の跡を訪へば、興趣盡きる所を知らぬものがあらう。



大阪高槻間最新式電車(内部)
(一カスンマーロ)

同　上　(外部)